

令和7年度
香川高等専門学校外部評価委員会 議事次第

日時：令和8年2月3日(火) 13:30～15:30

場所：香川高等専門学校高松キャンパス

(第一会議室)

○開会

○校長挨拶と趣旨説明

○委員紹介

○委員長選出

○議題

1. 香川高等専門学校の抱える課題と活動状況について

2. 令和6年度香川高等専門学校自己点検・評価報告書について

○意見交換

○閉会

令和7年度 香川高等専門学校外部評価委員会 資料一覧

- ・議事次第
- ・資料一覧
- ・出席委員名簿
- ・香川高等専門学校外部評価委員会規程

議題資料①

香川高等専門学校の抱える課題と活動状況

議題資料②

令和6年度香川高等専門学校自己点検・評価報告書（企画評価室）

参考資料

- ・令和7年度 学校要覧
- ・2026 学校案内
- ・香川高専だより36号、37号
- ・香川高等専門学校産業技術振興会会報 Vol. 17

香川高等専門学校 外部評価委員会 出席委員名簿

香川県教育委員会教育次長	吉田 智
香川県商工会議所連合会専務理事	新池 伸司
香川県中学校長会会長	北岡 隆
香川高等専門学校産業技術振興会会長	住田 博幸
香川大学創造工学部長	吉田 秀典
株式会社香川銀行常務取締役	三好 貞仁
四国電力株式会社常務執行役員	高田 潤一
七宝会会長	三木 勇司
高松工業会会長	清水 由弘
高松市副市長	加藤 昭彦
三豊市副市長	綾 章臣

(所属の五十音順 敬称略)

香川高等専門学校外部評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第 2 項の規定に基づき、香川高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、香川高等専門学校の点検評価を踏まえ、今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため、第 3 条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。

- 一 教育理念、目的、目標及び方針に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 学生支援に関すること。
- 四 研究及び地域連携に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 管理運営及び施設整備に関すること。
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(組織及び任期)

第 3 条 委員会は、校長が評価項目に関し、十分な評価能力を有すると認められる学外の評価委員をもつて組織する。

- 2 委員は、校長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

(代理者の出席)

第 5 条 第 3 条の委員は、やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該評価委員があらかじめ指名した代理者を、委員会に出席させることができる。

(評価実施方法)

第 6 条 委員会は、資料による調査、本校で実施するヒヤリング及び実施調査等で評価を実施する。

(事務)

第7条 外部評価の実施に関する事務は、総務課総務係において処理する。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月16日から施行する。

本校の抱える課題と活動状況



高松キャンパス



詫間キャンパス

香川高等専門学校
令和7年度外部評価委員会資料

本校の抱える課題

- 原級率の低減
- 女子学生・女性教員の比率向上
- 外部資金の獲得
- 入試倍率の推移
- 進路状況
- 予算

特徴ある取り組み

- 広報戦略
- アントレプレナーシップ教育強化事業
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム
- 学生支援体制

活動状況

- グローバル化への対応
- AI社会実装教育研究本部
- 社会基盤メンテナンス教育センター
- 自治体との連携活動
- 地域との連携
- 副業参謀による経営改善, ブランディング, 広報
- その他

□ 全国平均より高い原級率・退学率

原級率	R3	R4	R5	R6
香川高専	4.3%	4.2%	4.4%	3.5%
全国	2.7%	3.0%	3.1%	3.1%

退学率	R3	R4	R5	R6
香川高専	3.1%	2.3%	2.9%	3.2%
全国	1.8%	2.1%	2.0%	2.0%

<実施している対応>

- 定期試験ごとに平均点が60点未満の科目, 60点未満の学生数が多い科目について, 現状分析と対応策の検討を実施
- 教務小委員会でその内容を確認し, 必要に応じて科目担当者へ助言を行う
- TA(教育補助者)を活用した補習の実施
- 成績不振者に対して, 学科ごとに担当教員を決めてフォロー(高松C)
- 定期試験前に物理実験室を学習スペースとして開放し, 補習を実施(高松C物理科)
- 定期試験前に学習相談会を開催(詫間C)
- 自学自習, グループワーク, 勉強会などのためにグループスタディスペースを2部屋開放(詫間C)

<次年度からの実施検討>

- 低学年(1~3年)の合格点を60点から50点に
- 1年生からの学校での生活習慣の改善(朝のショートHRなどの徹底)
- 単位追認試験において, 試験前に必ず補習を実施することの義務付け
- 低学年の2クラス合同授業を原則廃止(高松C)

□ 全国平均より低い女子学生・女性教員比率

<女子学生獲得について>

- 学生募集に関する学校案内等で積極的に女子学生の写真を活用
- オープンキャンパス等の中学生・保護者対応を女子学生に協力依頼
- 女子学生、女性教職員が集まって活動する場を設ける
 - メカ女ミーティング(機械工学科)
 - 電気情報女子の会(電気情報工学科)
 - 土木女子の会(建設環境工学科)
- ガールズノート(女子中学生向け学校案内)を作成し、広報で活用

<女性教員獲得について>

- 女性研究者等キャリア支援事業(介護や育児中の女性研究者若しくはその配偶者に対する研究支援員の配置)の活用(R6年度1件).
- 教員公募において、まず「女性限定」で公募、応募がなかった場合は「女性優先」で再公募
- R7年度は、詫間Cで2名採用
- R8年度は、高松Cで2名、詫間Cで1名採用予定

女子学生比率(R7.4現在)

香川高専本科	14.7%	(全国平均 25.2%)
高松キャンパス	12.5%	(99名/794名)
詫間キャンパス	17.5%	(109名/624名)

香川高専専攻科	10.4%	(全国平均 19.1%)
創造工学専攻	7.3%	(4名/55名)
電子情報通信工学	14.6%	(6名/41名)

女性教員比率(R7.4現在)

香川高専	4.2%	(全国平均 12.9%)
高松キャンパス	1.8%	(1名/56名)
詫間キャンパス	7.5%	(3名/40名)

本校の抱える課題③ 外部資金の獲得

□ 外部資金獲得(科研費・共同研究・受託研究)

- ・ 外部資金の獲得額:8,596万円(全国高専33位) 1位:福島高専 2億3,246万円
- ・ 科研費:3,749万円(全国高専16位) 1位:仙台高専 7,709万円
- ・ 教員1人当たり獲得額:88.6万円(全国高専47位) 1位:沼津高専 324.6万円

□ 高専内公募型教育研究プロジェクトへの申請が低調

- ・ GEAR 5.0 マテリアル, 介護・医療, 防災減災など 6分野
(各分野:拠点校 1, 協力校 5)
- ・ COMPASS 5.0 サイバーセキュリティ, AI・数理データ, ロボット分野など7分野
(各分野:拠点校 2, 協力校 5~20) 香川高専は半導体分野で参画

□ 海外高専支援プロジェクトへの参加が低調

- タイ高専, モンゴル高専, ベトナム高専への支援
- ・ R3~4 タイ高専へ高松キャンパスから教員派遣
 - ・ R9 タイ高専へ詫間キャンパスから教員派遣予定

本校の抱える課題③ 外部資金の獲得

＜その他の外部資金獲得の取り組み＞

□ 企業版ふるさと納税の活用

- ・ 三豊市と詫間キャンパスが連携
- ・ 次世代人材育成事業を推進
(STEAM教育やアントレプレナーシップ教育等)
- ・ 地域産業を支える理工系人材の裾野拡大を目指す
- ・ 令和7年度: 県内外企業3社から計700万円の寄附実績あり
- ・ 採択後は令和8年4月より事業実施予定

□ ネーミングライツパートナーの募集

- ・ 高松キャンパス: オープンラウンジ, 第一体育館
- ・ 詫間キャンパス: オープンラウンジ, 多目的スペースA, 第二体育館



**三豊市企業版ふるさと納税で
香川高専(詫間キャンパス)を応援!**

2025年11月4日(火)受付開始!

詳しくは
こちら



学生が地域で学び、挑戦し、未来を創る。
三豊市と連携し、次世代の人材育成を。

ビジネス・マネジメント講座 | ロボット教室

複雑化する社会課題に対して、従来の方法だけでは対応が難しい今の時代に、香川高専 詫間キャンパスでは、三豊市と連携して「STEAM・A教育」や「スタートアップ支援」などを通じて、地域に根差した次世代の人材育成を進めています。
この取組を継続・発展させるため、企業版ふるさと納税によるご支援をお願いいたします。

お問合せ

企業版ふるさと納税について 香川県三豊市政策部地域戦略課 TEL : 0875-73-3010	香川高専の取組について 香川高等専門学校 総務課地域連携係 TEL : 0875-83-8507 MAIL: etiki@t.kagawa-nct.ac.jp
--	---

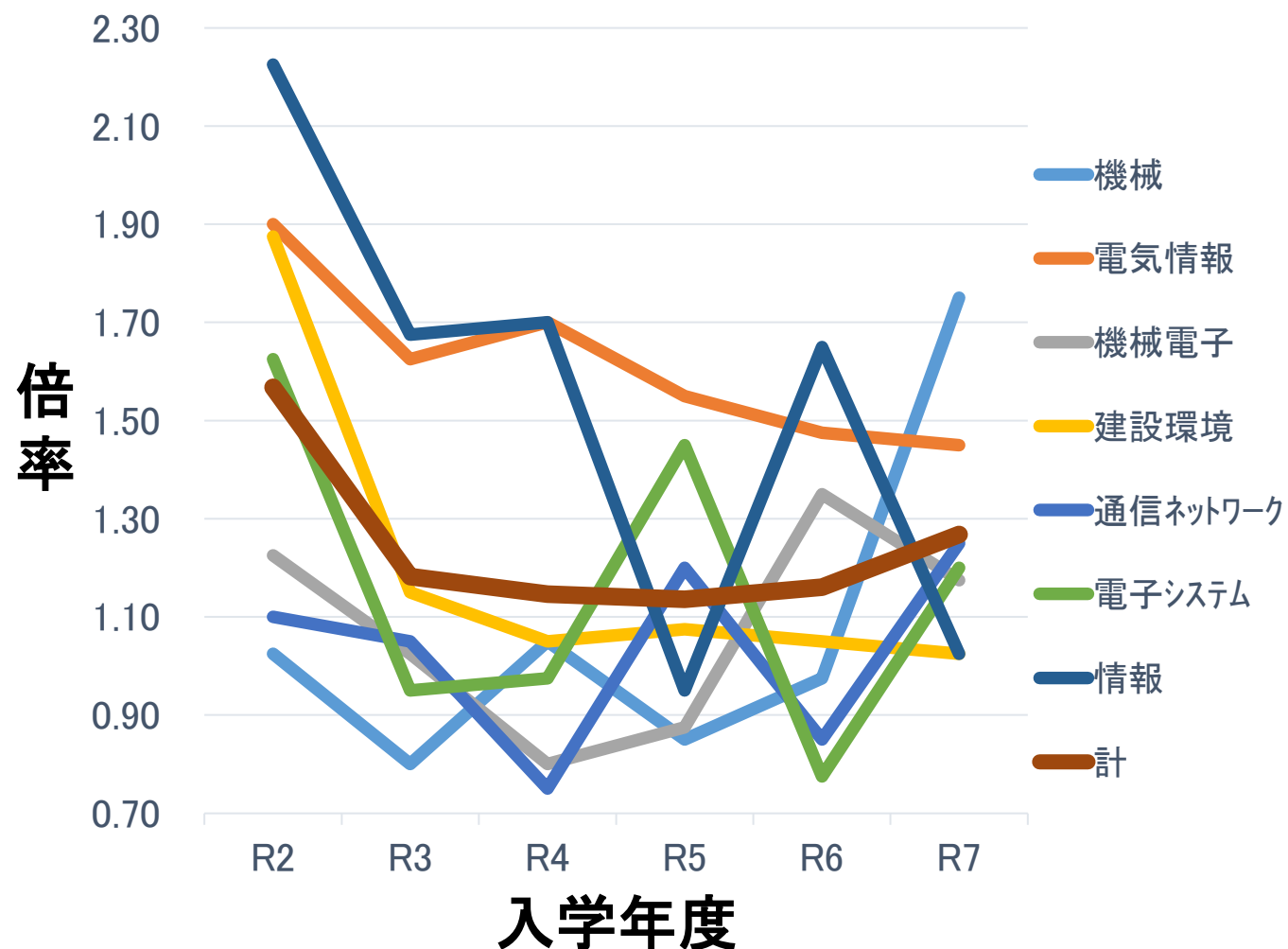


県別志願者数の推移と本校の入試倍率の推移

県別志願者数

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
香川県	399	299	284	282	283	311
岡山県	25	15	23	18	24	19
徳島県	5	8	7	4	6	9
愛媛県	2	2	2	4	3	4
高知県		1	1		1	
東京都					3	
神奈川県					1	1
埼玉県				1		
北海道						1
秋田県	1					
福井県		1				
静岡県		1				
大阪府	2	1		1		2
奈良県				1	1	
兵庫県	2	2	3	3	1	4
広島県	2		1	1	2	3
山口県				1		
福岡県				1		1
大分県				1		
佐賀県		1				
計	39	32	37	36	42	44
国外	1					
志願者数計	439	331	321	318	325	355

推薦と学力の第1志望の合計



本校の進路状況とキャリア教育(1)

R7年度 進路状況

学 科	学 生 数	卒 業 予 定 者 数	進 学 者 数	就 職 者 数			就 職 率	そ の 他	求 人 会 社 数		
				計	県 内	県 外				県 内 率	
高 松	機械工学科	26	25	9	14	5	9	36%	56%	2	846
	電気情報工学科	37	37	21	16	7	9	44%	43%	0	
	機械電子工学科	36	36	11	24	5	19	21%	67%	1	
	建設環境工学科	35	35	14	19	11	8	58%	54%	2	
	小 計	134	133	55	73	28	45	38%	55%	5	
詫 間	通信ネットワーク工学科	35	35	9	22	7	15	32%	63%	4	567
	電子システム工学科	45	45	14	27	10	17	37%	60%	4	
	情報工学科	40	39	16	22	8	14	36%	56%	1	
	小 計	120	119	39	71	25	46	35%	60%	9	
合 計	254	252	94	144	53	91	37%	57%	14		

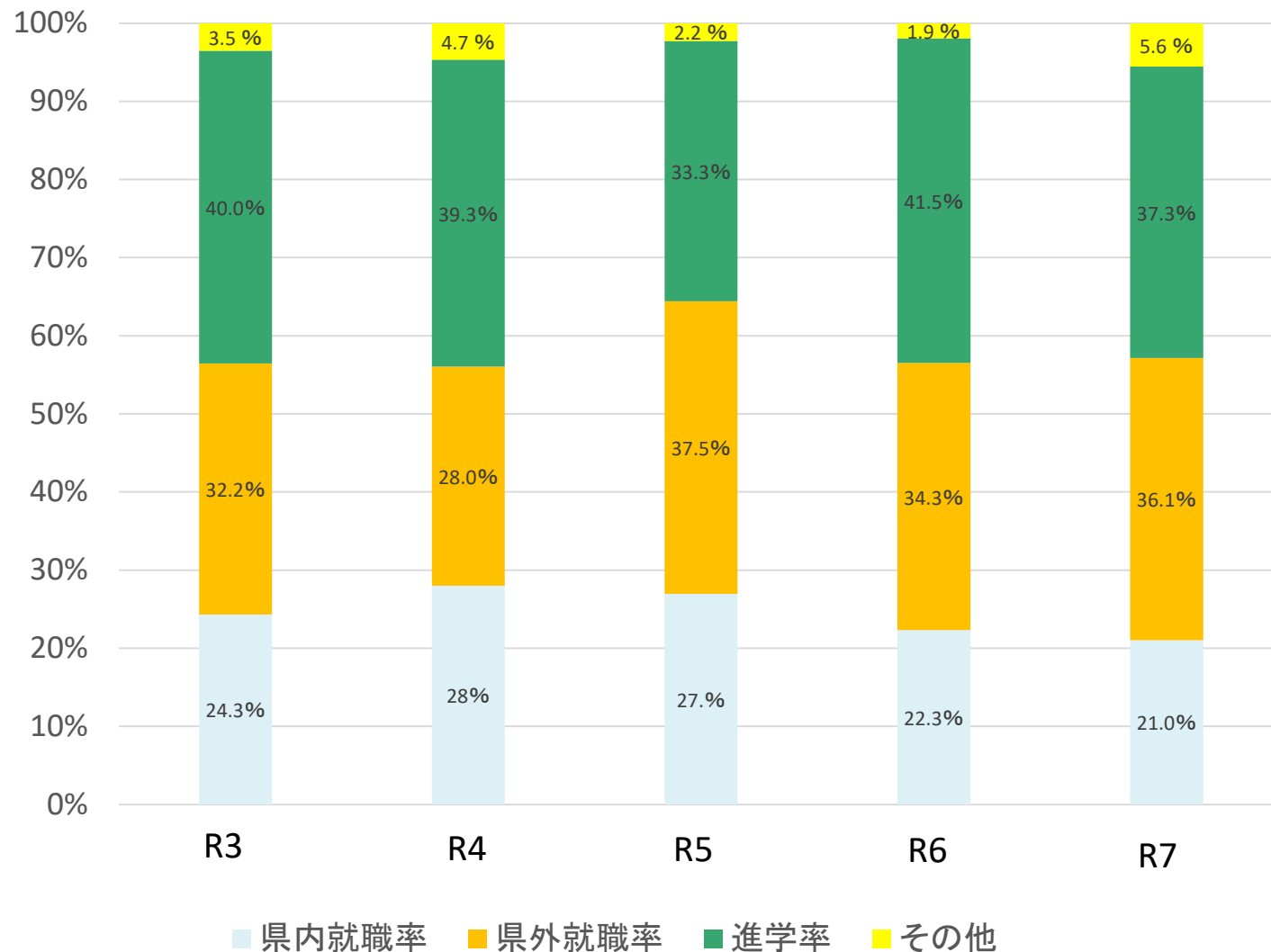
その他は進路未定者、専門学校進学者

本校の進路状況とキャリア教育(2)

進学率・就職率(県内外別)の推移

R7.12.9現在

進学率・就職率



県内企業就職への取り組み

合同企業説明会

産業技術振興会企業を多く含む,
本校での合同説明会

低学年へのキャリア教育

香川県労働政策課の出前授業(6社),
県内企業によるキャリアガイダンス(5社)

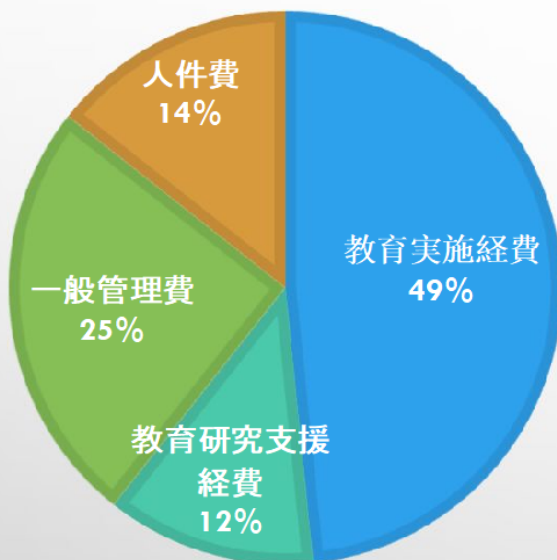
3, 4年生への配布物

かがわ企業ガイド(ワークサポート香川)
私たちの地域の仕事(教育委員会)
Tec×Tec&Cha×Cha(朝日オリコミ四国)
その他

予算〔香川高専 学内予算配分と執行状況〕

平成26年度(当初配分)

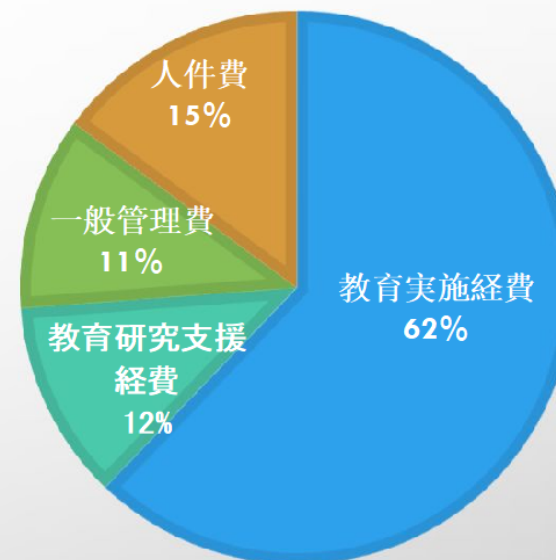
■教育実施経費 ■教育研究支援経費 ■一般管理費 ■人件費



教育実施経費	261,275千円
教育研究支援経費	66,123千円
一般管理費	134,923千円
人件費	77,541千円
計	539,862千円

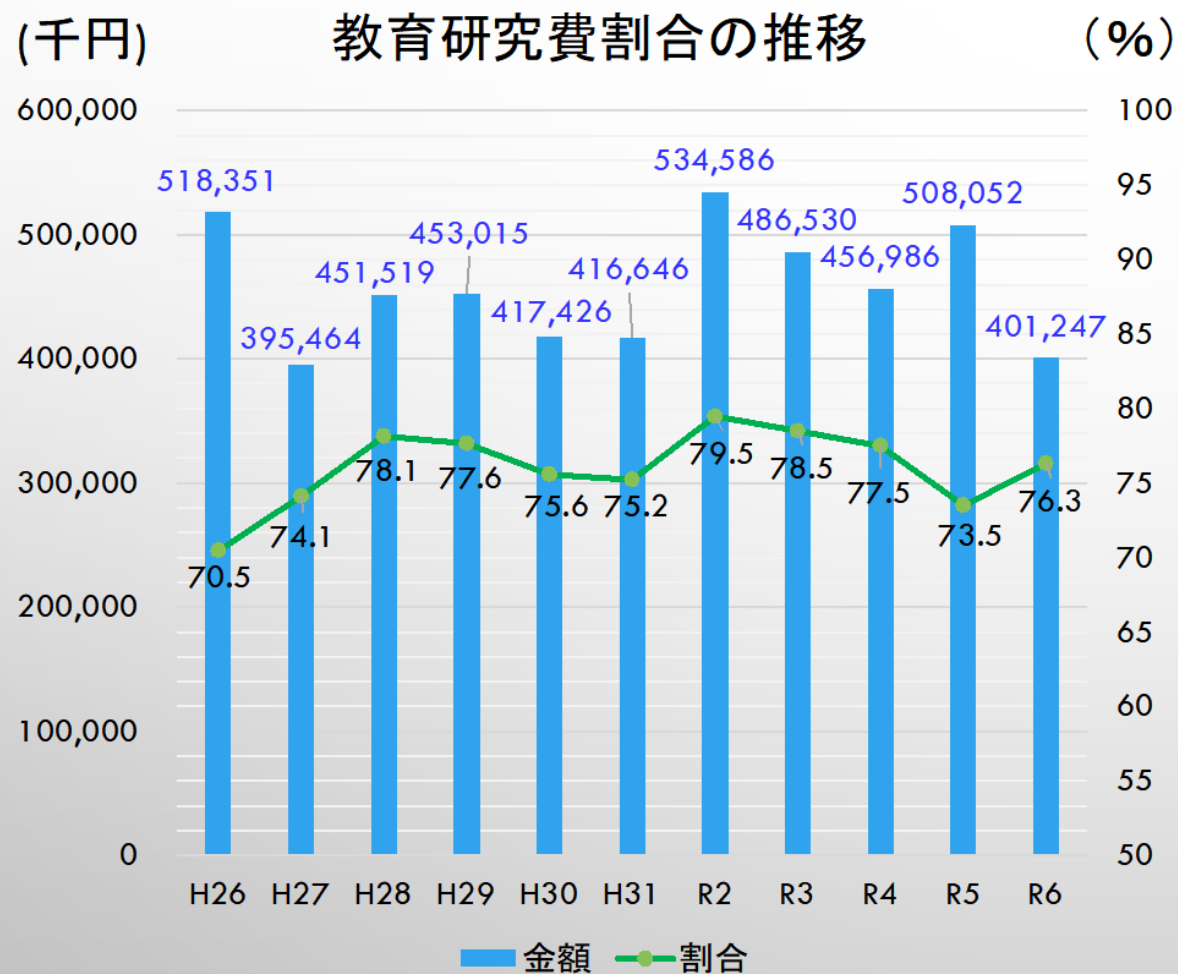
令和6年度(当初配分)

■教育実施経費 ■教育研究支援経費 ■一般管理費 ■人件費



教育実施経費	232,024千円
教育研究支援経費	43,503千円
一般管理費	42,237千円
人件費	55,495千円
計	373,259千円

予算〔教育研究費の配分割合について〕



教育活動に係る経費においては、一般管理費の配分額が削減される中において、必要以上の減額は行っておらず、教育活動に支障を来たすことの無いよう、必要とする経費を可能な限り配分している。

○入試広報・志願者獲得施策

- ・オープンキャンパス、入学者募集説明会、中学校訪問等を重点実施
参加率向上と参加後フォローを課題として明確化
- ・高専模試(主催:ナレッジスター)及び個別相談会の実施(11/9詫間)
- ・広域へのPR活動:津山高専と合同で「**高専フェスin岡山**」を実施(12/7)

○広報・ブランディング体制の強化(広報・ブランディング参謀の活用)

- ・広報戦略ブランディングタスクフォースの立ち上げ
⇒ 新たなブランドの創出・広報戦略のあり方を再設計 ⇒ R8 広報戦略室

○多媒体を活用した情報発信(速報性・拡散性・信頼性を意識した発信)

- ・HPの発信(お知らせ・トピックス)の強化
- ・プレスリリースの強化
- ・SNSの積極的活用(facebook, YouTube, **Instagram**)
- ・YouTubeチャンネル「**みんなの高専チャンネル**」の動画作成
- ・**ラジオCM**の活用(オープンキャンパスの告知)

○学生・教職員参加型の広報活動を展開

- ・香川高専PR動画の作成(公式YouTube, Instagramで発信)
- ・**香川高専キャッチコピー**の公募(R6) ⇒ R7 ロゴデザインを作成・共有
- ・**香川高専カレッジTシャツコンテスト**の実施(受賞作品は広報活動に活用)
- ・**香川高専トイレ改善コンテスト**の実施(受賞アイデアは実際に実現)

発信件数の推移 (12月末時点)

HP掲載	R7	R6	R5	R4
お知らせ	62	60	61	50
トピックス	260	201	187	140
プレスリリース	17	13	4	6
新聞等報道	54	66	40	-



YouTube「みんなの高専チャンネル」動画



キャッチコピーロゴ



コンテスト告知

○起業を推進するための集中講義の開講

- (Ⅰ) AIの基礎技術の習得 AI①
- (Ⅱ) AIの応用技術の習得 AI②
- (Ⅲ) ビジネス教育 AI③
- (Ⅳ) アントレプレナー教育 AI④

起業に必要な
カリキュラム導入
(AI特化コース単位化)

令和5年より全単位
開講

○起業家工房の運用(プロダクト製作)

- ものづくり実験・実習
- ハードとソフトウェア融合型
実験・実習
- AIを導入した実験・実習



起業家工房

起業を推進する起業家工房
○学生が自由に使える環境
○学生のアイデア実現環境

最先端化・高度化・新規導入



起業サポート

●学生企業サークルによる合同会社起業(R07年度)

- ・合同会社 スタートアップ・ラボ (ほぼ準備完了(手続きのみ))
- ・業務内容 (法務局の手続きも学生が行う)

- ① 電子機器, ロボット, IoTデバイスの研究開発, 製造, 販売, 運営
- ② コンピュータソフトウェア, アプリケーション, ウェブサービスの企画, 開発, 販売, 運営
- ③ 学習塾, 教育用教材, 学習支援ツールの企画, 制作, 販売, ワークショップ・イベントの企画運営
- ④ 地域産業・農業・防災に資する技術の研究開発及びコンサルティング
- ⑤ インターネットを利用した各種情報の提供, コンテンツ配信

起業経験が役に立つ

●専攻科在学中(早い時期)に学生起業(R08年度)

- ・合同会社 予定
- ・業務内容 スタートアップラボに準ずる予定

数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度

〔大学等における数理・データサイエンス・AI教育プログラムを一定の基準で認定し、
全学生の基礎的素養から専門分野での実践力までの育成を推進する制度〕

応用基礎レベル 令和7年8月(R6入学生から)
リテラシーレベル 令和4年8月(R2入学生から)
に認定されました。

◆ 令和7年8月時点での全大学等における認定件数

応用基礎レベルの認定件数

- ・大学等单位:146件
- ・学部・学科単位:220件

そのうちの高等専門学校の認定件数

- ① 大学等单位:37件 ……学校単位
- ② 学部・学科単位:22件 ……学科単位

(応用基礎レベルは学部・学科単位での申請が可能)



【応用基礎レベル】

- ・専門分野と連動した実践的活用
- ・データ分析・AI手法による課題解決
- ・専門分野でデータ・AIを使いこなす力を育成

▶ 基礎(全学生)から専門的実践へ段階的に発展



【リテラシーレベル】

- ・数理・データ・AIの基礎的理解
- ・データの見方、AIの基本概念
- ・倫理・社会的影響の理解

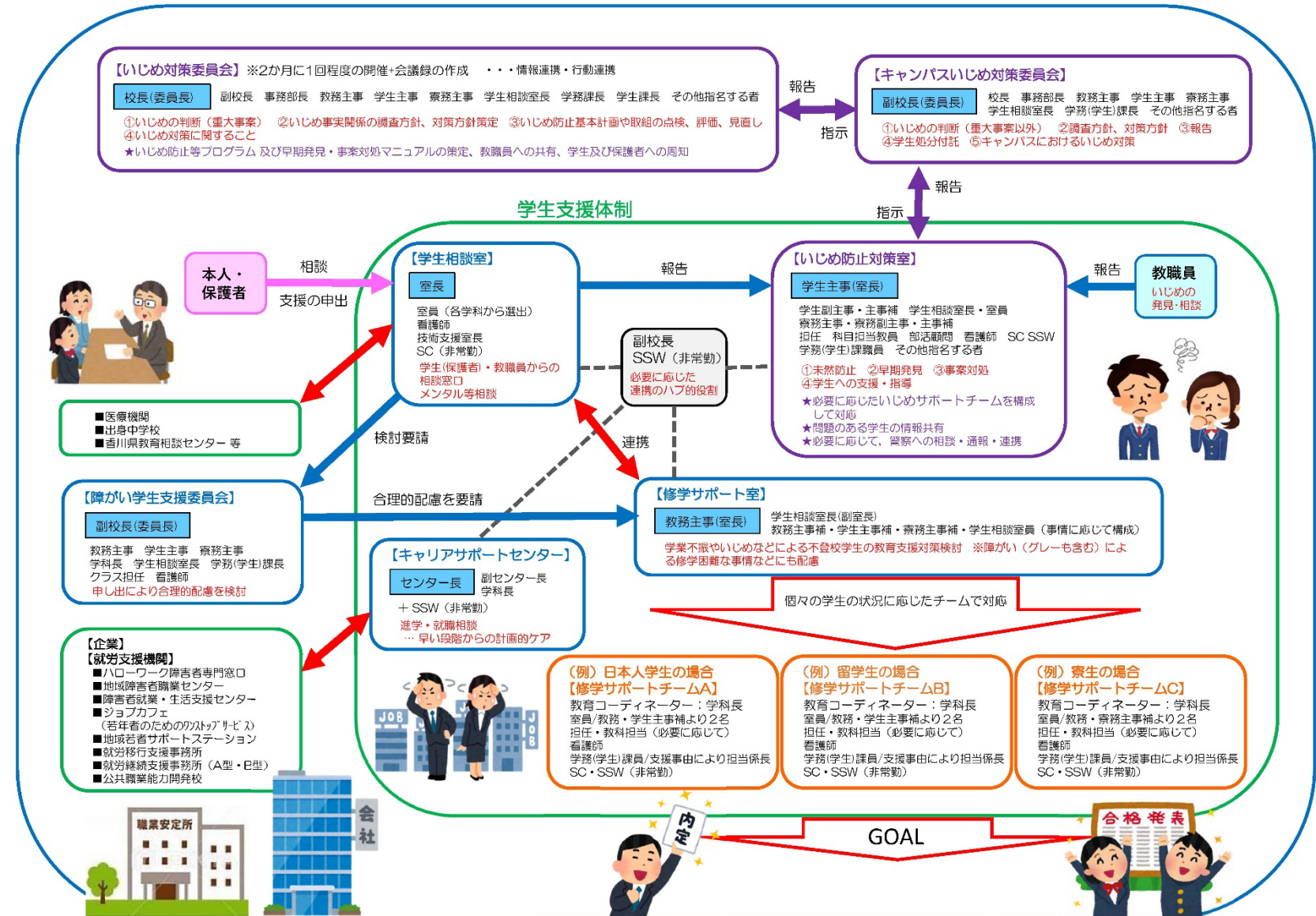
▶ 社会でデータ・AIを正しく理解・活用する素養を育成

学生指導支援

学生支援体制 — 特定の教職員任せにならないチームによる組織的な対応の体制 — (令和7年2月26日改正)

相談機能の強化

- ・カウンセラー(SC)
- ・ソーシャルワーカー(SSW)
- ・精神科医
- ・弁護士



活動状況 -グローバル化への対応-

○MOU締結校 15大学・高専: 東洋未来大学校(韓国), ダナン工科大学(ベトナム), 正修科技大学(台湾), ソウル大学工学部(韓国), マラ工科大学(マレーシア), クライストチャーチポリテク大学(ニュージーランド), カーン大学(フランス), ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(タイ), 泰日工業大学(タイ), トゥール大学(フランス), マレーシア科学大学(マレーシア), 大連東軟信息学院(中国), 國立成功大学(台湾), 南台科技大学(台湾), タイ高専(KOSEN-KMITL, タイ)

○協定校等への学生派遣 (R6年度の派遣学生数)

- 技術研修: フランス・トゥール大学(3), タイ・RMUTT(28), 台湾・成功大学(12)
- 英語研修: マレーシア・マラ工科大学(11), 韓国・永進専門大学(9), 他
- 交流・アクティビティ研修: タイ高専(5)
- 国際会議: 台湾・国立聯合大学(4), 他



○協定校からの短期留学生受入 (R6年度の受入学生数)

- タイ・RMUTT(20)
- フランス・トゥール大学(2)



○正規留学生の入学と進路

- 正規留学生の入学者数(⇒表1)
- 卒業後の進路状況(⇒表2)

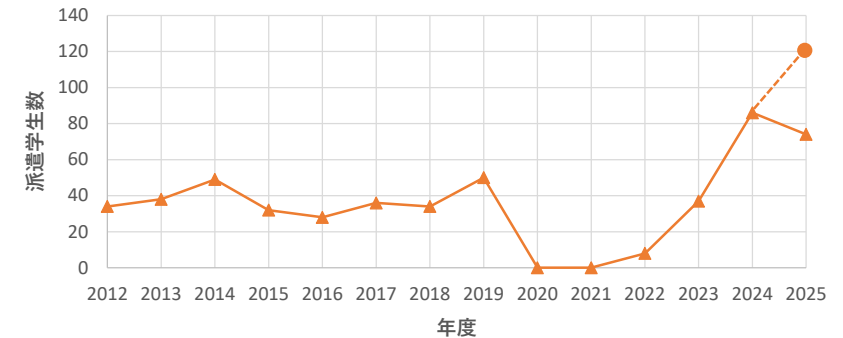
○英語授業 (R6年度)

- 英語による授業実施状況
 - ・レベル1(英語の教科書または配布資料の50%以上が英語): 20科目
 - ・レベル2(レベル1に加えて, 講義・実験・演習の30~80%を英語で説明): 4科目
 - ・レベル3(レベル1に加えて, 講義・実験・演習の81%以上を英語で説明): 11科目



○施設

- 国際寮
- 英語案内表記



海外派遣した学生数の推移

表1 各年度における正規留学生の編入学者数

R4	R5	R6
2 (マレーシア, インドネシア)	2 (カンボジア, マレーシア)	4 (タイ, モンゴル, インドネシア)

表2 各年度における正規留学生の進路状況

R4	R5	R6
2 (海外就職, 国内進学)	2 (国内進学)	2 (国内進学)

●MAiZM支援による起業

令和元年12月..AI関連学生ベンチャー(Panda(株))起業(第1号)
 令和2年8月..学生ベンチャー((株)三豊AI開発)起業
 令和3年1月..学生ベンチャー((株)D-yorozu)起業

令和3年以降学生起業実績がない

アントレプレナーシップ教育強化事業
 アントレプレナーシップ教育強化事業パイロット校

学生起業を推進 (起業を希望する学生のみ)

MAiZMを中心とした
 起業支援+地域内のニーズ・シーズマッチング



●AI社会実装教育+国際連携教育(R03年度~)

精華大学・成功大学・台湾南台科技大学との連携

画像認識AIによるAI応用技術の習得(成功大学・香川高専)
 連携:精華大→成功大→台湾南台科技大(現在は3大学で連携)



台湾南台科技大学MOU調印式(2024年度)



学生のAI応用教育を通じた交流(公用語:英語)
 AI応用教育(成功大学:理論、香川高専:実習・すべて英語で講義)

新しい教育と+国際連携教育の形(非常に効果的)

【目的】社会で活躍する建設技術者に対して、さらに橋梁メンテナンスの知識や技術を身につけてもらうリカレント教育を実施する。

橋梁点検(基礎編)e+iMec講習会の実施

eラーニングの事前学習と高専での体験型の対面講習会を組合せた“e+iMec講習会”は各回の受講人数を10名とし、少人数で密度の濃い学修ができる環境を整えている。受講生アンケートからも満足度の高い評価を得た。

【橋梁点検(基礎編)講座】 対面2日間: 有料(44,000円)

橋梁担当の技術公務員、橋梁点検の経験が浅い民間土木技術者向けの内容。年4回(定員40名)実施。

合格者には高専機構認定「**准橋梁点検技術者**」の資格付与。

【橋梁点検(応用編)講座】 対面3日間: 有料(60,000円)

実際に橋梁点検を主担当で行う土木技術者向けの内容。基礎編の上位講習会。年1回(定員10名)実施。

合格者には高専機構認定「**橋梁点検技術者**」(国土交通省民間技術資格に認定済→点検業務を実施可能)の資格付与。

年度	講座	回数(回)	受講者(人)	合格者(人)	合格率(%)
令和3年	基礎編	1	8	6	75
令和4年	基礎編	5	50	30	60
令和5年	基礎編	4	33	19	57.6
	応用編	1	7	5	71.4
令和6年	基礎編	4	37	27	73.0
	応用編	1	6	3	50.0
令和7年	基礎編	4	26	18	69.2
	応用編	1	9	-	-

※1 講習会受講者数と試験受験者数は一致しない
 ※2 合格者は再試験を含み集計時点の数(今後増加可能性有)

(令和7年12月22日現在)



学内実習フィールドでの講習



実橋梁での点検講習



非破壊試験装置体験

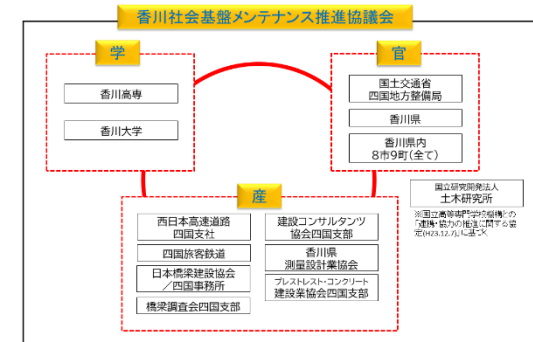
自立運営に向けた取り組み

一般財団法人 高専インフラメンテナンス人材育成推進機構を令和5年6月に設立した。賛同する団体の年会費収入を原資にして、リカレント教育を推進する5高専(舞鶴・福島・長岡・福井・香川高専)へ資金を配分するスキームを構築している。

<https://www.kosen-reim.or.jp/>

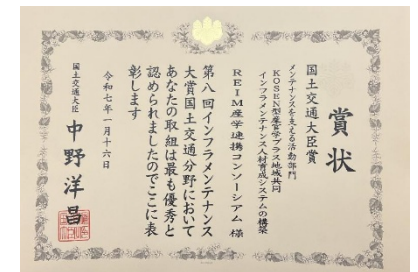
地元香川での産官学連携体制の構築

地元のニーズを採り入れた運営・技術情報交換を実施。



受賞

令和7年1月16日、香川高専が主体的に関わる5つの高専と産官学地域連携の「REIM産学連携コンソーシアム」が第8回インフラメンテナンス大賞「国土交通大臣賞」を受賞した。



○香川県との連携事業

○かがわスタートアップフェスタ2025への参加

- ・ビジネスチャレンジコンテストの審査員
- ・ダンス部パフォーマンス
- ・ワークショップ4件の実施

- ①セメントコースター製作
- ②機械模型キット製作
- ③USBマイコン付き扇風機製作
- ④レゴでつくる簡単ロボット教室

○かがわ技能フェスティバル2025で簡単ロボット教室を開催

○IT系かがわの仕事研究会

○高松市との連携事業

- ・高松市こども未来館科学体験教室開催業務委託(H27～)
- ・スマートシティたかまつ推進協議会への参加(H29～)
- ・高松市と一般社団法人みとよAI社会推進機構(MAiZM)と香川高等専門学校との(1)行政サービスの向上、地域課題の解決に向けた連携、(2)人材育成に関する連携のための合意書の締結(令和2年12月18日)
- ・たかまつ認知症フェアにて「楽しく脳トレ講座」を実施。(地域包括支援センター)
- ・令和7年12月12日、13日に屋島山上で開放特許を活用し、地域活性化を目的としたスタンプラリーイベント「Scan the Light 光をスキャンして海の生き物を集めよう！」を実施

○三豊市との連携事業

- ・三豊市企業版ふるさと納税
- ・三豊市内中学校・小学校でのプログラミング講座
- ・三豊データ連携基盤運用コンソーシアム
- ・三豊市内中学校でのロボットを用いたプログラミング講座(全中学校開催)
- ・三豊市内小中学校でのリモコンロボットを用いたプログラミング講座(プログラミング的思考)
- ・三豊市・香川銀行・香川高専が連携したトモニ市場での三豊市特産品販売事業(実践ビジネス講座)

活動状況 -地域との連携-

○体験教室

【高松市との連携事業】

サイエンス教室
かざぐるまを作ろう
4コマまんがにチャレンジ！
プラネタリウムを作ろう
プログラムでロボットを動かそう！

土木わくわく教室
ケミカルライトでつくる！ Hygge (ヒュッゲ) の光
3Dゲーム作り体験教室
はしおし✳️つちおしde土木ものづくり
高専ロボコン用ロボットの実演とミニロボ操縦体験

○公開講座開催

夏休み宿題かけこみ寺；身近な土木ぼうさい✳️STEAM 対象小4～中学生
レーザ加工機で万年カレンダーをつくろう 対象中学生
アクリルスタンドを作ろう 対象小学校高学年～中学生
英語で数学を勉強してみよう！ 対象中3
三角形の合同・相似と力学・機械工学の関係 対象中3
PyTorchによるDeep Learning入門 対象一般
メナウスの定理とチェバの定理を極めよう！ 対象中3
小学生硬式野球講座 対象小学生
バグパイプ作りを通して学ぶ音の科学 対象小学生
模擬人工衛星(缶サット)の制作・打ち上げ講座 対象小6～中学生
TOEIC Part 5対策講座 対象一般
スイム記録会&スタート練習会in三豊 対象：一般・小中学生
中学生のための高専数学講座 対象：中3



(赤文字：小中学生対象、緑文字：小中学生・一般対象、黒文字：一般対象)

【三豊市との連携事業】

簡単ロボット教室
ロボット教室
発明くふう展作品づくり
チャレコン作品づくり
三豊市少年少女発明クラブチャレンジ創造コンテスト

発明工作教室
おもしろ科学実験教室
プログラミング教室
からくり教室
三豊市内中学校・小学校でのプログラミング講座

ゲームプログラミング教室 対象：中学生
「親子でつくろう！ AI(アイ)のライトフレーム」 対象：小中学生
サンドブラスタでマイグラスを作ろう！ 対象：小学生
脳波を見るセミナー2025 対象一般・小中学生
レゴでつくる 簡単ロボット教室 対象小学生
Myゲーム機をつくろう！～五目並べ二人用～ 対象小学生高学年～中学生
UVレジンでクリスマスオーナメントを作ろう+小型ドローンを操縦しよう 対象年少～中学生
脳波×ロボット×アート体験会2026 対象一般・小中学生
組込み技術セミナー(リーダーコース) 対象一般
有限要素法解析入門 対象一般
組込み×AWS開発講座 対象一般
GEO×ハザードリスク講習会①地盤の強さ・地形・地質を学ぶコース 対象一般
GEO×ハザードリスク講習会②防災・減災に直結！原位置透水試験の攻め方コース 対象一般



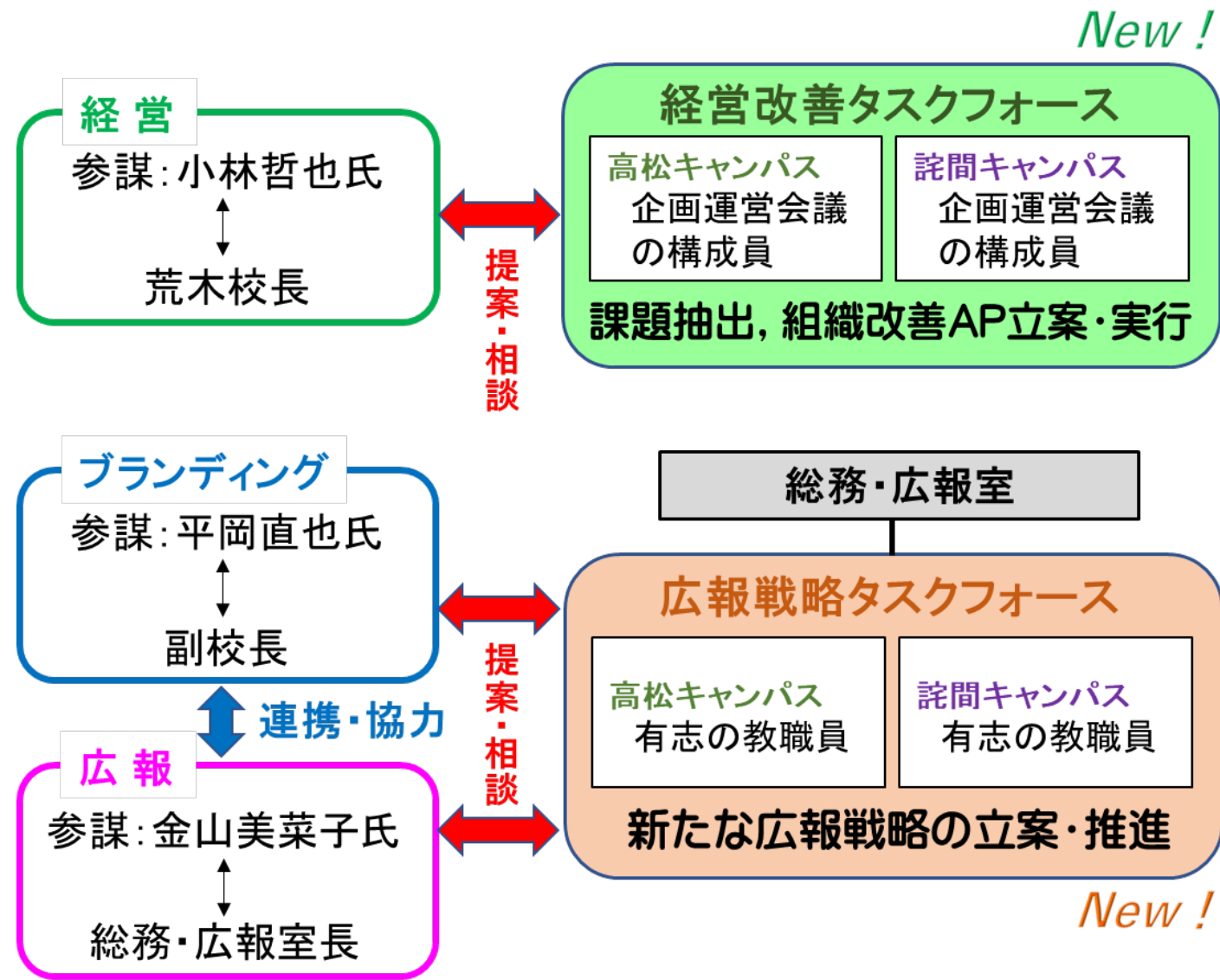
○国際交流関係の連携事業

外国人によるスピーチコンテスト(香川県留学生等国際交流連絡協議会)
多文化交流会(三豊市社会福祉協議会)
留学生交流会(香川県、高松市、香川県国際交流協会等)

○その他

徳島・香川「トモニマルシェ」への参加
たかまつ認知症フェアへの講師派遣
ほっとはうす萩(観音寺市)のおぼけ屋敷制作

活動状況 - 副業参謀による経営改善、ブランディング・広報 -



- ・香川高専の将来ビジョンを策定
KAGAWA KOSEN Pride, always reaching beyond.
～学生・教職員・地域が誇る香川高専であるために～
- ・サーベイの実施
結果のクロス分析により、課題の構造を明確化
- ・香川高専 組織改善活動～KSK活動～を計画
学科・部局横断コミュニケーションおよび挑戦文化の活性化と2キャンパス連携の強化（≒ QC活動）

- ・ブランディング戦略のためのアンケート実施
結果分析から、まずは現在在籍する学生・教職員の満足度を上げることが重要
- ・TOILET “UPDATE” PROJECT を実施
快適に過ごせるトイレ改善のアイデアを学生から募集
「香川高専生の力でつくる、清潔で使いたくなるトイレ」
- ・キャッチフレーズや広報物の刷新を計画
- ・インスタ強化ハンズオンを開催
より中学生に響く、効果的な情報発信を目指して

○香川高等専門学校産業技術振興会との連携事業

- ・会員企業との共同研究に対する研究費の補助（令和7年度:2件）
- ・シーズ発表会の開催（令和7年9月11日, 9件発表）
- ・合同会社説明会の開催（令和8年2月19日, 21日開催, 企業:106社参加予定）

○香川銀行との連携事業

- ・デジタル人材マッチングイベント(業界説明会)の開催
（令和6年2月20日, 県内企業:20社, 学生:102名参加, 令和7年2月20日, 県内企業:23社, 学生:152名参加）
- ・KNBCニュース(月刊)への教員研究シーズの掲載(年間12回)
- ・徳島・香川「トモニマルシェ」(令和6年12月14・15日, 令和7年11月8・9日)への参加
- ・高松市兵庫町支店での学校紹介展示
- ・高松市兵庫町支店の展示用LED照明開発

○かがわ産業支援財団との連携事業

- ・「新かがわ中小企業応援ファンド等事業高度産業人材育成事業」で公開講座を共催（令和7年度6件）
- ・企業見学及び企業説明会企業先の斡旋（令和7年度:参加実績なし）
- ・「知財マッチングin かがわ」への出展協力（令和7年11月20日, シーズ情報の提供）

○香川高専人財バンク

- ・同窓会との連携, 卒業生の技術・技能を活用した母校の存在感を高めるための地域貢献等（特別講座1件）

令和6年度

香川高等専門学校

自己点検・評価報告書

令和7年12月

独立行政法人国立高等専門学校機構

香川高等専門学校

目次

1. 基準 1 教育の内部質保証システム	1
2. 基準 2 教育組織及び教員・教育支援者等	10
3. 基準 3 学習環境及び学生支援等	16
4. 基準 4 財務基盤及び管理運営	26
5. 基準 5 準学士課程の教育課程・教育方法	34
6. 基準 6 準学士課程の学生の受入れ	41
7. 基準 7 準学士課程の学習・教育の成果	43
8. 基準 8 専攻科課程の教育活動の状況	45
9. 正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	53
10. 国際交流に関する事項	54
11. 国立高専教育国際基準 (KIS) に関する事項	54

本報告書における「自己評価」欄の記載については次のとおりとする。

5 = 特に優れている。 4 = 優れている。 3 = 水準に達している。

2 = 改善の余地がある。 1 = 改善を要する。

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項	
1 教育の内部質保証システム	1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。	自己点検評価実施要項により定めている。	3	特になし	
			(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。	自己点検・評価の実施体制を整備している。 Planの機能である企画評価室の規程を改定し、定期的に収集・蓄積する根拠資料やデータをサイボウズファイル管理にて総合的に管理する体制を整えた。 また、Checkの機能である点検評価委員会は、その責任者を企画評価室とは分けるように規程を改定し、本来の点検評価の機能を担う体制とした。 点検評価委員会と企画評価室との役割分担を明確にすることで、本来のPDCAサイクルを実効的に運用できるようになった。			3
			(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。	今年度実施要項の見直しに伴い。自己点検評価書の見直しを行い、自己点検・評価の基準・項目等を設定し直した。			3

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	(1) 根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。	点検評価委員会において項目ごとの実施間隔を定めて、その実施間隔ごとに根拠資料はグループウェア（サイボウズ）にて収集・蓄積している。企画評価室の規程を改定し、定期的に収集・蓄積する根拠資料やデータをサイボウズファイル管理にてを総合的に管理する体制を整えた。	3	特になし
			(2) 自己点検・評価を定期的に実施しているか。	今年度実施要項の見直しに伴い、定期的に実施するよう改善した。	3	
			(3) (2)の結果を公表しているか。	ホームページに公表している。令和6年度実施分については、7年度に確認後掲載予定である。 https://www.kagawa-nct.ac.jp/general_affairs/evaluation/evaluation.html	3	
		1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	(1) 自己点検・評価の実施に際して、各者の意見を反映するようになっているか。	企画評価室において、各部署で集約した学校の構成員及び学外関係者の意見を総合的に管理し、それらに対する改善の方針を決めた上で各部署に指示し、改善を行う体制を整えた。	3	特になし
			<input type="checkbox"/> 教員	香川高専意見箱により意見要望等の聴取している。意見・要望は校長・副校長・事務部長で共有し、関係部署の回答案をもとに校長打合せ会で確認の上、学内決裁により回答を決定している。今年度は、校長先生が全教員にヒアリングを行った。	3	
			<input type="checkbox"/> 職員	香川高専意見箱により意見要望等の聴取している。意見・要望は校長・副校長・事務部長で共有し、関係部署の回答案をもとに校長打合せ会で確認の上、学内決裁により回答を決定している。人事評価の際に各課長が面談を実施し、意見を聴取している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<input type="checkbox"/> 在学生	全科目に対して前期末、後期末に授業評価アンケートを実施し、結果をWebページで公表している。また、公表していないが自由記述欄も設けられている。 学生会が取りまとめた対話集会アンケートにより、学生会と学校との意見交換を実施している。	3	
			<input type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生	卒業生・修了生アンケートは高専機構全体として実施している。主に学校生活や自分自身の満足度を問う内容である。 5年生対象アンケートは香川高専独自で5年生（卒業生）に対して実施している。DPに対する自身の評価を問う内容が含まれている。	3	
			<input type="checkbox"/> 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生	令和5年度に本科卒業生（卒業後5年前後）及び専攻科修了生（修了後5年前後）に対するアンケートを実施した。	3	
			<input type="checkbox"/> 保護者	保護者後援会役員会にて保護者代表としての意見を聴取している。総会においても、議事のその他の所で学校への意見等を聴取している。 意見箱（メール投稿）にて保護者からの意見も聴取できるようにしている。	3	
			<input type="checkbox"/> 就職・進学先関係者	令和5年度に卒業生が就職している民間企業にアンケートを実施した。	3	
			(2)自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。	各評価結果を踏まえて検討するよう依頼し、検討した結果を企画評価室会議において確認した。	3	
			【在学生の意見聴取】 <input type="checkbox"/> 学習環境に関する評価	本科生アンケートにより、各キャンパス小委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> 学生による授業評価	各キャンパス教務主事主導で学生による授業評価アンケートが実施され、その結果に対して授業改善の検討・実施した。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<input type="checkbox"/> 学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）	令和5年度のアンケートにより、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> 学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）	令和5年度のアンケートにより、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> その他		-	
			【卒業（修了）時の意見聴取】 <input type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価	令和5年度のアンケートにより、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生による満足度評価	令和5年度のアンケートにより、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> その他		-	
			【卒業（修了）後の意見聴取】 <input type="checkbox"/> 卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価	令和5年度にアンケートを実施し、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> 卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価	令和5年度にアンケートを実施し、各キャンパス小委員会及び専攻科委員会で検討した。	3	
			<input type="checkbox"/> その他		-	
			【外部評価】 <input type="checkbox"/> 外部有識者の検証	企画運営会議において、昨年度実施した外部評価委員会の指摘事項について、各委員会に改善の取組の報告依頼を行った。	3	
			<input type="checkbox"/> 教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）	令和5年度に機関別認証評価において指摘のあった内容について、改善を進めている。	2	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<input type="checkbox"/> 設置計画履行状況調査	/	-	特になし
			<input type="checkbox"/> その他		-	特になし
		1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	(1) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか	新たに教育点検改善ループ(PDCAサイクル)を設け、同ループに基づき、教育の質の改善・向上を実施する体制としている。	3	特になし
			(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。	企画評価室において、機関別認証評価の改善事項をとりまとめ、該当委員会に対応依頼し、各委員会が改善検討を行った。検討状況について企画評価室へ報告があった。	3	
			(3) (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。	/	-	
	1-2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)(以下「三つの方針」という。)が学校の目的を踏まえて定められていること。	1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか <input type="checkbox"/> 準学士課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 学科ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他	ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。下記はいずれも今年度見直しを実施し、学校ホームページにて明記している。 ・準学士課程全体として定めている ・学科ごとに定めている	3	特になし
			(2) 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的と整合性を有しているか。	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的と整合性を有している。今年度見直しを実施し、学校ホームページにて明記している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。	ディプロマ・ポリシーは、卒業時に獲得すべき能力・資質に基づいており、養成する人材像の内容を明確に示している。今年度見直しを実施し、学校ホームページにて明記している。	3	
		1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。 <input type="checkbox"/> 準学士課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 学科ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。下記はいずれも今年度見直しを実施し、学校ホームページにて明記している。 ・準学士課程全体として定めている ・学科ごとに定めている	3	特になし
			(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。	整合性を有している。今年度、カリキュラムマップの見直しも実施し、学校ホームページにて明記している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> 学習成果をどのように評価するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>教育課程の編成方針、教育内容・方法、学習成果の評価方法を含んでいる。</p>	3	
		<p>1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 準学士課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 学科ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>準学士課程全体、学科を同一のものとして定めており、学校ホームページに明記している。</p>	3	特になし
			<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。</p>	<p>策定済みで、学校ホームページに掲載してある。</p>	3	
			<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。</p>	<p>学校ホームページに明示している。</p>	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。	学校ホームページに明示している。	3	
			(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。	含まれている。	3	
		1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。 <input type="checkbox"/> 専攻科課程全体として定めている <input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他	専攻科課程全体と専攻（創造工学専攻はコース）のディプロマポリシーを定めている。	4	特になし
			(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか。	整合性を有している。	3	
			(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。	明確に示している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻科課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。</p> <p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> 学習成果をどのように評価するかを示している</p>	<p>専攻ごとに（創造工学専攻はコース）のカリキュラムポリシーを定めている。</p> <p>整合性を有している。</p> <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下の内容を含んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ どのような教育課程を編成するかを示している ■ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■ 学習成果をどのように評価するかを示している 	4	特になし
					3	
					3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻科課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	専攻科課程全体と専攻（創造工学専攻はコース）のアドミッションポリシーを定めている。	4	特になし
			<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。</p>	目的・方針等を踏まえて策定している。	3	
			<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。</p>	明示している。	4	
			<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。</p>	明示している。	4	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。	含まれている。	3	
	1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーは、教務委員会（教務委員会規程第2条）及び専攻科委員会（専攻科委員会規程第2条）で審議の上、企画運営会議（企画運営会議規程第2条）にて審議・承認を行う体制となっている。	3	特になし
			(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。	企画評価室会議において、社会の状況等を反映しているかどうか確認するため、令和5年度に実施した各種アンケート結果により確認し、問題ないと判断した。 三つの方針について、社会の状況等を把握し、教務委員会・教務小委員会にて点検した。	3	
2 教育組織及び教員・教育支援者等	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	(1) 学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。	香川高等専門学校学則第1条「本校の目的」に則して、本校の「使命」および「育成する人材像」を定め、教育課程の具体的な到達目標はこれを基本として構成されている。学則第1条の「本校の目的」を受けて学則第7条にて学科を大括りする系、各系を構成する学科および「各学科の教育の目的」を定めている。学科構成は、創造基礎工学系に機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科の4学科を、電気情報通信工学系に通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科の3学科を置く構成となっている。学科の校正はディプロマ・ポリシーと整合性がとれている。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らし、適切なものとなっているか。	(1) 専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。	整合性がとれている。	3	特になし
		2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。	★組織図 ★香川高等専門学校教務委員会規程 ★香川高等専門学校専攻科委員会規程 ★香川高等専門学校学生委員会規程 ★香川高等専門学校入学試験委員会規程	3	特になし
			(2) (1)の体制の下、必要な活動を行っているか。	(1)の体制の下、必要な活動を行っている。	3	
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	(1) 一般科目担当の基幹教員（なお従前の例による場合は「専任教員」）を法令に従い、確保しているか。	一般科目担当の基幹教員は29名（令和6年5月1日現在）であり、高専設置基準に定められた基準29名以上を満たしている。	3	特になし
			(2) 専門科目担当の基幹教員（なお従前の例による場合は「専任教員」）を法令に従い、確保しているか。	専門科目担当の基幹教員は67名（令和6年5月1日現在）であり、高専設置基準に定められた基準50名以上を満たしている。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(3) 基幹教員であって専門科目を担当する教授及び准教授の数は、一般科目を担当する基幹教員数と専門科目を担当する基幹教員数との合計数の二分の一以上となっているか。(なお従前の例により「専任教員」を置く場合は、専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。)</p>	<p>専門科目を担当する教授及び准教授の数は48名（令和6年5月1日現在）であり、一般科目を担当する基幹教員数と専門科目を担当する基幹教員数との合計数の二分の一である40名以上となっている。</p>	3	
			<p>(4) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ◆ 非常勤講師についても併せて分析する</p>	<p>適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。</p>	3	
			<p>(5) 適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。 <input type="checkbox"/> 博士の学位 <input type="checkbox"/> ネイティブスピーカー（担当する言語を母国語とする） <input type="checkbox"/> 技術資格 <input type="checkbox"/> 実務経験（教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等） <input type="checkbox"/> 海外経験 <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>教員配置について、以下の項目に配慮している。 ・博士の学位 専門分野の公募にあつては博士の学位を課しており、一般教育科に17名、専門学科に61名の博士の学位取得者を配置している。 ■ネイティブスピーカー（担当する言語を母国語とする） 非常勤講師としてネイティブスピーカー（外国人教員）を雇用している。 ■技術資格 ■実務経験（教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等） ■海外経験 採用選考時には、技術資格、実務経験、国際交流実績等も考慮している。</p>	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	(1) 専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保している。	3	特になし
			(2) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。	適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。	3	
			(3) 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当している。	3	
		2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。	教員の年齢構成を考慮して、公募・採用するように配慮しており、その結果、年齢構成に著しい偏りは見られない。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(2) (1)以外に配慮している措置はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 教育経歴</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験</p> <p><input type="checkbox"/> 男女比</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>教員の配置について、以下の項目に配慮している。</p> <p>■教育経歴 教員選考規程第5条第3項において、昇任選考において現職就任後の教育活動における業績を審査すると定めている。また、教員選考基準第1三において、大学等の教育歴のあるものを教授となる資格に定めている。</p> <p>■実務経験 教員選考基準第1四において、実務経験のあるものを教授となる資格に定めている。</p> <p>■男女比 ダイバーシティ推進の観点から女性教員の積極的な採用に取り組んでいる。</p>	3	
			<p>(3) 在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 学位取得に関する支援</p> <p><input type="checkbox"/> 任期制の導入</p> <p><input type="checkbox"/> 公募制の導入</p> <p><input type="checkbox"/> 教員表彰制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/> 企業研修への参加支援</p> <p><input type="checkbox"/> 校長裁量経費等の予算配分</p> <p><input type="checkbox"/> ゆとりの時間確保策の導入</p> <p><input type="checkbox"/> サバティカル制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/> 他の教育機関との人事交流</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>在職する教員に対して、以下の項目の措置を行っている。</p> <p>■公募制の導入 教員選考規程第4条第2項において、教員の選考は、原則として公募とすると定めている。</p> <p>■教員表彰制度の導入 令和6年9月5日に教職員表彰規程を制定し、顕著な功績があった教員を表彰している。</p> <p>■校長裁量経費等の予算配分 令和6年度「科研費」申請の学振審査結果に基づき、校長裁量経費を配分している。</p> <p>■他の教育機関との人事交流 高専と両技科大との教員交流実施要項に基づき、両技科大への派遣候補者を募っている。</p>	4	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
	2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	(1) 全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。	教職員の勤務成績評価（優秀者等の決定）についての申合せに基づき、教員の活動実績評価を実施している。	3	特になし
			(2) (1)の体制の下、教員評価を実施しているか。	教職員の勤務成績評価（優秀者等の決定）についての申合せに基づき、教員と校長等が面談を行い、教員の活動実績評価を実施している。	3	
			(3) 把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。 <input type="checkbox"/> 給与における措置 <input type="checkbox"/> 研究費配分における措置 <input type="checkbox"/> 教員組織の見直し <input type="checkbox"/> 表彰 <input type="checkbox"/> その他	以下の項目の取組を行っている。 ■ 給与における措置 ■ 研究費配分における措置 ■ 表彰 教員の活動実績評価の結果は、昇給、勤勉手当、校長裁量経費の予算配分、表彰に反映している。	3	
			(4) 非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。	非常勤教員担当科目についても学生による授業評価アンケートを行い、非常勤教員に対する評価を実施している。アンケート実施後、結果をWebページで公表している。 https://www.kagawa-nct.ac.jp/school_affairs/students_evaluation/index.html	3	
	2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	(1) 教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。	以下の規程に教員の採用・昇格等に関する基準を定めている。 ・香川高等専門学校人事委員会規程 ・香川高等専門学校教員選考規程 ・香川高等専門学校教員選考基準	3	特になし	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(2) (1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 模擬授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 教育歴の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 海外経験の確認</p> <p><input type="checkbox"/> 国際的な活動実績の確認</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>以下の教育上の能力等を確認する仕組みになっている。</p> <p>■模擬授業の実施 教員選考規程第9条において、採用選考時に面接及び模擬授業を行うことを定めている。</p> <p>■教育歴の確認</p> <p>■実務経験の確認</p> <p>■海外経験の確認</p> <p>■国際的な活動実績の確認</p> <p>教員選考規第6条に基づき、教員採用においては履歴書等の提出書類、教員昇任においては個人調書（昇任選考）により、教育歴、実務経験、海外経験、国際的な活動実績を確認している。</p>	3	
			<p>(3) (1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。</p>	<p>教員採用選考においては、教員公募要項例にあるように、第一次選考において「履歴書」、「研究業績一覧」、「研究業績の概要（主要論文の別刷）」、「高専教育や学生指導等に関する抱負」、「課外活動に関する指導等の希望及び抱負」の提出を求め書類審査し、第二次選考において面接、模擬授業を実施し、教育上の能力等を確認している。</p> <p>教員昇任選考においては、「教員選考個人調書」、「著書・論文の概要（主要論文の別刷）」の提出を求め書類審査し、教育上の能力等が昇任基準を満たしているかを確認している。</p>	3	
			<p>(4) 非常勤教員の採用基準等を定めているか。</p>	<p>非常勤講師の採用に関する内規に非常勤教員の採用基準等を定めている。</p>	3	
2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上		<p>(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。</p>	<p>学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備している（FD・SD研修会については、総務課人事労務係が担当）。</p> <p>今年度は、従来から実施しているFD・SD研修会や教育実践事例報告会に加え、後期から、本校教職員の講師によるFD研修会をキャンパスごとに実施した。</p>	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		や授業の改善が図られているか。	(2) 定期的にFDを実施しているか。	定期的にFDを実施している。	3	
			(3) (2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか確認するためにアンケートを実施した。アンケートの結果から、それぞれのFD活動が多くの教員の意識改善につながっていると見える。また、実際に授業改善に結びついたケースも報告されている。	3	
		2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。	教育支援者等を適切に配置している。	3	特になし
			(2) 図書館に専門的職員その他の専属の教員または事務職員等を法令に従い適切に配置しているか。	図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置している。	3	
			(3) 指導補助者を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されているか。	指導補助者は配置していない。	-	特になし
		2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。	全教職員を対象に毎年FD・SD研修会を実施している。また、研修や技術発表会などに技術職員が参加し、資質の向上を図っている。	3	特になし
			(2) 指導補助者を配置する場合、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。	指導補助者は配置していない。	-	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項	
3 学習環境及び学生支援等	3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。 また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	(1) 校地面積を法令に従い適切に確保しているか。	設置基準を満たす校地面積、校舎面積及び運動場を確保している。	3	特になし	
			(2) 必要な施設を法令に従い適切に備えているか。	設置基準に定められた専用の施設、情報処理の学習のための施設を備えている。			3
			(3) 学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。 <input type="checkbox"/> 実験・実習工場 <input type="checkbox"/> 練習船 <input type="checkbox"/> その他	設置基準に定められた附属施設として、実験・実習工場を整備している。			3
			(4) 自主的学習スペースを設けているか。	設けている。			3
			(5) 教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。 <input type="checkbox"/> 厚生施設 <input type="checkbox"/> コミュニケーションスペース <input type="checkbox"/> その他	教育研究環境の充実のため、福利厚生施設、コミュニケーションスペースを設けている。			3

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(6) 施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。	施設・設備の安全衛生管理体制を整備している。	3	
			(7) (6)の体制が有効に機能しているか。	毎月安全衛生委員会委員が校内巡視を行い、その結果を安全衛生委員会に報告し、必要な改善を促している。 また、学生には、実験・実習に先立ち、安全指導を行っている。教職員を対象に救急法講習会を実施している。	3	
			(8) 施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか	施設等のバリアフリー化への配慮を行っている。	3	
			(9) 整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。	整備している。	3	
			(10) (9)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。	行っている。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	(1) 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。	ICT環境を適切に整備している。 情報基盤センター規程等を整備している。	3	特になし
			(2) ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。	サイバーセキュリティ管理規程、サイバーセキュリティ推進規程、サイバーセキュリティ教職員規程、情報セキュリティ利用者規程等を整備している。	3	
			(3) ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境は有効に活用されている。	4	
			(4) (3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。	利用状況は時間割により把握している。 R5年度より、ICT環境満足度調査アンケートを実施し、満足度等を把握し、改善策を委員会に挙げる体制を整備した。	3	
			(5) (4)の体制が機能しているか。	R5、6年度に、ICT環境満足度調査アンケートを実施した。 R6年度に、R5年度の結果の改善策を審議した。	3	
		3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	(1) 図書館の設備を法令に従い備えているか。	法令に従い設備を備えている。	4	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(2) 図書、学術雑誌、電子ジャーナルその他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。	毎年予算が削減される中、学生からのリクエストや教員による推薦にできる限り応えるために、各分野のバランスも考慮し、優先順位をつけて選定しながら、蔵書の充実を図っている。 電子ジャーナルの購読については、毎年教職員へのアンケートを実施することで、充実した教育研究活動の支援を図っている。	4	
			(3) (2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ◆教職員や学生による利用状況等について分析する	図書等の貸出冊数と入館者数については、図書館無断帯出探知システムや貸出・返却管理システムを使って正確に把握することができている。	4	
			(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。	新生へへの「図書館利用案内」の配付と利用説明会の実施、「ブックハンティング」の実施、長期休業中の長期貸し出しやテスト期間中の日曜日開館、Formsによる「新規図書購入システム」の導入、「留学生コーナー」の新設等、学生の利便性向上に努めている。 また、「ビブリオバトル」や「文芸コンクール」等の活動を通して、少しでも読書への関心を高めてもらえる試みも継続して行っている。	4	
	3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	(1) 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。 <input type="checkbox"/> 学科生 <input type="checkbox"/> 専攻科生 <input type="checkbox"/> 編入学生 <input type="checkbox"/> 留学生 <input type="checkbox"/> 障害のある学生 <input type="checkbox"/> 社会人学生 <input type="checkbox"/> その他	教育を実施する上でのガイダンスを次の対象に対して実施している。 ・学科生 ・専攻科生 ・留学生 ・障害のある学生 令和6年度受入れなし ・編入学生 ・社会人学生	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		3-2-3 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	(1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。	留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備している。	3	特になし
(2) (1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。	(1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っている。		3			
(3) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。	編入する個別の学生に対しては、教務小委員会において必要な学生の支援体制を整備している。担任、学科長、教務主事補及び学生相談室員において、必要な支援を行う。R6年度は編入実績なし。		3			
(4) (3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。	R6年度は編入実績なし。		-			
(5) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。	本科においては社会人学生の受け入れなし		-			

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(6) (5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。	本科においては社会人学生の受け入れなし	-	
			(7) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。	障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備している。	3	
			(8) (7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。	(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っている。	3	
			(9) 障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も含む。）に対応しているか。	障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も含む。）に対応している。	3	
			(10) 上記以外の特別な支援を行っているか。	特になし	-	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		3-2-④ 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	<p>(1) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備しているか。</p> <input type="checkbox"/> 学生相談室 <input type="checkbox"/> 保健センター <input type="checkbox"/> 相談員やカウンセラーの配置 <input type="checkbox"/> ハラスメント等の相談体制 <input type="checkbox"/> 学生に対する相談の案内等 <input type="checkbox"/> 奨学金 <input type="checkbox"/> 授業料減免 <input type="checkbox"/> 特待生 <input type="checkbox"/> 緊急時の貸与等の制度 <input type="checkbox"/> いじめの防止・早期発見・対処等の体制 <input type="checkbox"/> その他	<p>学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制を整備している。学生相談室を設置し、相談員やカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、を配置している。</p> <p>ハラスメント等の相談体制、いじめ防止・早期発見・対処等の体制も整備している。</p>	3	特になし
			(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施しているか。	健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施している。	3	
			(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されているか。	<p>学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動を、実際に学生や保護者等が利用している。</p> <p>奨学金や授業料免除、緊急時の貸与等の制度を整備している。それらを、学生・保護者等が利用している。</p>	3	
		3-2-⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。	(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。	整備している	4	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校としてどのような取組を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> キャリア教育に関する研修会・講演会の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 進路指導用マニュアルの作成</p> <p><input type="checkbox"/> 進路指導ガイダンスの実施</p> <p><input type="checkbox"/> 進路指導室</p> <p><input type="checkbox"/> 進路先（企業）訪問</p> <p><input type="checkbox"/> 進学・就職に関する説明会</p> <p><input type="checkbox"/> 資格取得による単位修得の認定</p> <p><input type="checkbox"/> 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談</p> <p><input type="checkbox"/> 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>キャリア教育に関する研修会、セミナー等は就職活動を始めるにあたって、動機づけの目的も兼ね、低学年も含めた学生・保護者対象に手厚い講座を毎年実施している。就職希望者の就職率は毎年ほぼ100%とその成果は明らかであるため、大きく改善の必要は感じていない。現在、進路先訪問については、進路先企業と継続的に連携を取り、企業より訪問を受ける形で卒業生の情報を得ている。</p>	4	
			<p>(3) (2)の取組が機能しているか。</p>	<p>機能している。就職希望者に対しての就職内定率を見てもその成果は明らかである。</p>	4	
		<p>3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下</p>	<p>(1) 学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。</p>	<p>整備している。</p>	4	<p>特になし</p>

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		に機能しているか。	(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。	明確である。 各クラブ(部・同好会)は学生会組織に置かれ、学生主事が責任者となる。各クラブには学校長の任命した顧問教員を配置して、指導助言を行っている。また必要に応じて課外活動指導員及び外部コーチを依頼して技術指導をお願いしている。	4	
			(3) 学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。	機能している。	4	
		3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	(1) 学生寮を整備しているか。	整備している。	3	特になし
			(2) 生活の場として整備しているか。	整備している	3	
			(3) 勉学の場として整備しているか。	整備している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(4) (2)(3)について、有効に機能しているか。	機能している。	3	
			(5) 管理・運営体制を整備しているか。	整備している	3	
4 財務基盤及び管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	(1) 過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。	過去5年間の財務状態は適切な状態となっている。	3	特になし
			(2) 校地、校舎等の資産を保有しているか。	校地、校舎等の資産を保有している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 過去5年間において運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ◆確保できない年があった場合は、実状を踏まえて、運営上問題とならないか等について分析する。	過去5年間において経常的な収入を確保している。	3	
			(4) 過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。 ◆支出超過となった年があった場合は、実状を踏まえて、運営上問題とならないものか等について分析する。	過去5年間の収支状況において支出超過となっていない。	3	
		4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	(1) 収支に係る方針、計画等を策定しているか。	収支に係る方針、計画等を策定している。	3	特になし
			(2) (1)を関係者（教職員等）へ明示しているか。	収支に係る方針、計画を関係者へ明示している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	<p>(1) 学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。</p> <p>◆予算配分の方針が定められ、その方針に則り実際の予算配分が行われているか、プロセス（手続きの流れ）の適切性も含めて分析する。</p> <p>◆予算の配分状況と、その実績（執行状況）を対比させて分析する。</p> <p>◆校長裁量経費等の重点配分経費の配分基準等の策定状況（手続き、経路、決定機関等。）についても併せて分析する。</p>	<p>学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っている。</p> <p>具体的には高専機構の当初予算配分（通知）を受け、予算計画・予算配分方針(案)及び学内当初予算配分(案)を策定し、企画運営会議にて審議し、決定している。同時に、校長裁量経費の配分計画を周知している。</p> <p>また、令和7年度以降の本校予算編成のあり方を検討するため学内に予算WGを設置し令和6年度は10月17日、11月21日、12月19日の3回開催した。なお、予算WGの審議内容（議事要旨）は企画運営会議、両キャンパスの教員会議で報告した。また、予算WGのみならず企画運営会議等でも意見交換が行われた。</p> <p>さらに、令和7年度の学内当初予算配分（案）の作成のため、令和6年12月に学内の各部署に事項詳細別（消耗品、謝金等の経費別区分）に令和6年度当初配分額を記載した上で令和7年度予算要求書（要求額）の提出を依頼した。また、管理課で要求書の精査を行う際、執行額（見込額）などを対比の上、令和7年度予算計画・予算配分方針(案)及び学内当初予算配分(案)の作成に取り組んだ。</p>	3	特になし
		(2) 資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。	<p>◆資源配分と収支に係る方針、計画との整合性、執行状況との対応について分析する。その際、資源配分の決定プロセスの整合性についても言及する。</p>	<p>予算計画・予算配分方針(案)及び学内当初予算配分に基づき、予算配分通知により学内に資源配分しており、収支に係る方針、計画と整合性を有している。</p> <p>また、必要な設備の整備については教育研究経費（設備維持運営経費）を、必要な施設の整備については教育等施設基盤経費を確保した上で、環境・施設マネジメント委員会で審議の上、決定している</p>	3	
		(3) 資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明示しているか。		資源配分の内容を関係者に明示している	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	(1) 設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 (2) 財務に係る監査等を実施しているか。	設置者である高専機構により財務諸表等を作成・公表している。 財務に係る監査等を実施している。	3 3	特になし
	4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	(1) 管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 (2) 委員会等の体制を整備しているか。 (3) 校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 (4) 事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 (5) 教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保しているか。 (6) (1)~(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。	管理運営体制として企画運営会議規程を整備している。 内部組織規則を整備し、委員会等の体制を整備している。 内部組織規則第3~12条、第14~15条により、校長、主事等の役割分担が明確になっている。 事務組織等に関する規程を整備している。 校務分担表を作成し、教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保している。 体制の下、効果的な活動を行っている。	3 3 3 3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(7) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。(より望ましい取組として分析)	香川高等専門学校における研究活動に関する目的、基本方針、目標は適切に定められている。 校務分担当により研究活動は副校長（研究担当）が統括する。 事務組織等に関する規程第10条第7項に基づき、研究協力係が研究活動に係る事務を所掌する。 各キャンパスの活動についてはみらい技術共同教育センター、地域イノベーションセンターが計画し、改善を図っている。 内容については外部評価委員会にて定期的に評価を受けている。 知的財産は副校長（研究担当）が統括する。	4	特になし
			(8) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。(より望ましい取組として分析)	香川高等専門学校における地域貢献活動の目的、基本方針、目標は適切に定められている。 みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターが主体となり計画に基づき活動を実施し、次年度に向けて活動内容の改善を図っている。 内容については外部評価委員会にて定期的に評価を受けている。	4	特になし
		4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	(1) 学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。	危機管理規則を制定し、危機管理体制を整備している。	3	特になし
			(2) 危機管理マニュアル等を整備しているか。	学内グループウェアに本校危機管理マニュアルを整備している。	3	
			(3) (1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。	防災訓練を行い、危機に備えた活動も行っている。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	(1) 外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。	<p>国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則、公的研究費等の適正な運営・管理について整備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採択率向上に向け、校長による科研費勉強会（6/6.7）を開催した。また、科研費申請査読ワーキンググループを立上げ査読を実施（8/21.22）した。 ・科研費を初めとした各種プロジェクトの研究内容の深化を促すために、校長裁量経費の配分措置を行っている。 ・地方自治体等が募集する補助事業へ積極的に申請を行った。 ・産業技術振興会会員企業に対し、寄附基金の呼びかけを行った。 ・令和6年10月より産学官連携コーディネーターを新たに配置し、支援体制の充実を諮った。 	4	特になし
			(2) 公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。	国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則、公的研究費等の適正な運営・管理について整備されている。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 研究活動の目的等に照らし、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。 (より望ましい取組として分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動は副校長（研究担当）が統括する。 ・事務組織等に関する規程第10条第6項第一号に基づき、研究協力係が外部資金（科学研究費補助金等）の受入れに係る事務を所掌する。 ・地域人材開発本部は、香川高等専門学校の教育研究資源及びその成果を地域の産業振興及び教育文化の発展に貢献する際の拠点として機能するとともに、本校みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの活動を統括することを目的として設置している。 ・みらい技術共同教育センターは、第3条第一号により、競争的資金他の学外研究資金の獲得に関する業務を行う。（詫間キャンパスを管轄） ・地域イノベーションセンターは、第3条第六号により、本校の教育・研究の充実、振興に関する業務を行う。（高松キャンパスを管轄） 	4	特になし
			(4) 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。（より望ましい取組として分析）	<p>外部研究費受入（資料4-2-3-(1)-01）のとおり受け入れ実績がある。共同研究の締結に向けたより効果的・加速的な推進を目的とし、香川高等専門学校産業技術振興会会員企業との単独の共同研究または受託研究を検討している教員に研究助成として、寄附金が支給されている。</p> <p>また、令和6年度より各学科1件ずつシーズ研究に対する研究助成を行うこととした。当支援事業に採択された教員は、産業技術振興会向けのシーズ発表会に必ず出席することになっており、産業技術振興会会員企業との共同研究等のマッチングを支援している。</p>	3	特になし
		4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	(1) 外部の教育・研究資源を活用しているか。	<p>東京大学の松尾研究室との集中講義や、産業技術振興会企業等による外部講師の招聘、各種連携協定を通じた事業等、外部の教育・研究資源を積極的に活用している。また、産総研四国センターとの共同研究により外部の教育資源を活用している。</p>	4	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(2) 地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。（より望ましい取組として分析）	<p>様々な団体等と計画的に地域貢献活動を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三豊市少年少女発明クラブ ・みとよロボコン ・香川銀行との連携 ・百十四銀行との連携 ・高松市こども未来館 	4	特になし
			(3) 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。（より望ましい取組として分析）	地域貢献活動等についてはアンケートを実施し、十分な満足度が得られていることから、目的に沿った活動の成果が認められる。	4	特になし
		4-2-⑤ 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	(1) S D等を実施しているか。	機構本部主催の階層別研修及び他機関主催の研修に事務職員、教員等が参加し、資質の向上を図っている。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
	4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	(1) 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。 <input type="checkbox"/> 高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 <input type="checkbox"/> 教育研究上の基本組織 <input type="checkbox"/> 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 <input type="checkbox"/> 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 <input type="checkbox"/> 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 <input type="checkbox"/> 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 <input type="checkbox"/> 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 <input type="checkbox"/> 授業料、入学科料その他の高等専門学校が徴収する費用 <input type="checkbox"/> 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 <input type="checkbox"/> 基幹教員に関する情報	学校の使命・育成する人材像、組織、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境など教育情報を法令に従い、ホームページや学校要覧にて適切に公表している。	3	特になし
5 準学士課程の教育課程・教育方法	5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 (2) 一般教育の充実に配慮しているか。	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置している。 低学年では一般科目を多く配置し高学年になると専門科目の割合が多くなるくさび型カリキュラムとなっている。一般科目は人文・社会科学系（国語・社会・芸術）、自然科学系（数学・物理・化学）、保健・体育、外国語（英語・ドイツ語・中国語）をバランスよく配置している。	3 3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 進級に関する規程を整備しているか。	進級に関する規程を整備している。	3	
			(4) 1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。	1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保している。	3	
			(5) 特別活動を90単位時間以上実施しているか。	特別活動を90単位時間以上実施している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	<p>(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。</p> <input type="checkbox"/> 他学科の授業科目の履修を認定 <input type="checkbox"/> インターンシップによる単位認定 <input type="checkbox"/> 専攻科課程教育との連携 <input type="checkbox"/> 外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 <input type="checkbox"/> 資格取得に関する教育 <input type="checkbox"/> 他の高等教育機関との単位互換制度 <input type="checkbox"/> 個別の授業科目内での工夫 <input type="checkbox"/> 最先端の技術に関する教育 <input type="checkbox"/> その他 <p>(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。</p>	<p>学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮として次のことを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップによる単位認定 ・外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 ・資格取得に関する教育 ・他の高等教育機関との単位互換制度 ・個別の授業科目内での工夫 ・最先端の技術に関する教育 (AI I～IVについては詫間キャンパス全学科で履修可能) <p>他の高等教育機関との単位互換制度について、法令に従い適切に取り扱っている。</p>	3	特になし
		5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	<p>創造力を育む教育方法の工夫を行っている。</p> <p>ME:機械工学演習 I EC:卒業研究 MS:メカトロニクスシステム設計 CV:創成工学 CN:通信工学セミナー ES:卒業研究 IT:情報工学セミナー</p>	2	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		5-2-2 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。</p> <input type="checkbox"/> 授業科目名 <input type="checkbox"/> 単位数 <input type="checkbox"/> 授業形態 <input type="checkbox"/> 対象学年 <input type="checkbox"/> 担当教員名 <input type="checkbox"/> 教育目標等との関係 <input type="checkbox"/> 達成目標 <input type="checkbox"/> 教育方法 <input type="checkbox"/> 教育内容（1授業時間ごとに記載） <input type="checkbox"/> 成績評価方法・基準 <input type="checkbox"/> 事前に行う準備学習 <input type="checkbox"/> 高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 <input type="checkbox"/> 教科書・参考文献 <input type="checkbox"/> その他	<p>・成績評価方法・基準 ・事前に行う準備学習 ・高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ・教科書・参考文献</p> <p>学修単位のシラバス記載について、授業自己点検シートを見直し、チェックを強化した。</p>	3	特になし
			(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。	令和4年度香川高等専門学校自己点検評価の再点検において、「シラバスの活用状況については、教員および学生の活用状況の把握が不十分であった。改善策について、教務委員会で検討する。」としているが、まだ検討できていない。	2	
			(3) 設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。	設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(4) (3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。	香川高等専門学校学則に、1単位時間は標準50分と定められている。実際は授業時間1コマ（2単位時間）を原則90分で実施している。2単位時間を連続で実施することにより、出欠確認や教材配布等の時間を効率的に短縮できるため、標準50分に相当する教育内容を確保することができる。	3	
			(5) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。その際、学則に定める授業形態ごとの単位時間数に応じた授業時間以外の学習が設定されているか。	授業時間外の学習について資料5-2-2-(5)-01を学校HP（webシラバスへのリンクページ）記載している。	3	
			(6) (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。 <input type="checkbox"/> 授業外学習の必要性の周知 <input type="checkbox"/> 事前学習の徹底 <input type="checkbox"/> 事後展開学習の徹底 <input type="checkbox"/> 授業外学習の時間の把握 <input type="checkbox"/> その他	科目担当が作成した教科ポートフォリオを他教員がチェックする相互点検の仕組みを整備し、履修時間の実質化が担保されているか確認を行っている。点検項目として、Webシラバスに記載された収集資料が整備されているか、不足資料がないか、定期試験の繰り返し使用がないか、試験問題のレベルは妥当か、成績方法に問題ないかを全科目に対し実施している。	3	
5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポ	5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポ	(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定している。		3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
	シー)に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っている。	3	
			(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目について、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握できるよう自己点検・相互点検方法を見直した。令和6年度末に自己点検・相互点検を実施し、令和7年度に教務小委員会にて実施状況を確認する予定である。	3	
			(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。	周知している。	3	
			(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。	把握している	3	
			(6) 定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めているか。	定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めている。	3	
			(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。	成績評価結果を学生が閲覧する機会を設けている事をメールにて周知しており、意見申し立ての機会を設けている。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。 <input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック <input type="checkbox"/> 答案の返却 <input type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示 <input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック <input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック <input type="checkbox"/> その他(GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等)	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、教科ポートフォリオの取りまとめにおいて次のような組織的な措置を行っている。 ・成績評価の妥当性の事後チェック ・答案の返却 ・模範解答や採点基準の提示 さらに、教科担当者が作成した教科ポートフォリオは各学科で次のような項目の相互チェックを行っている。 ・複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ・試験問題のレベルが適切であることのチェック	3	
		5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	(1) 学則等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか	学則等に、修業年限を5年と定めている。	3	特になし
			(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めている。	3	
			(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。	卒業認定基準に基づき、卒業認定している。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知している。	3	
			(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。	(4)について、学生の認知状況を学校として把握している。	3	
6 準学士課程の学生の受入れ	6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6-1-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）のうち、入学者選抜の基本方針に沿った適切な入学者選抜方法を定めている。推薦による選抜においては、推薦書、調査書、面接を総合して、学力検査による選抜においては、学力検査、調査書を総合して、帰国生特別選抜においては、学力検査、調査書、自己推薦書、面接を総合して、編入学生選抜においては、学力検査、面接を総合して合否を判定している。入学者選抜方法に基づき、学生の受入れを適切に実施している。	3	特になし
		6-1-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入れが行われていることを検証及びその結果を基に改善する体制を「香川高等専門学校入学試験委員会規程」に基づき整備している。	3	特になし
			(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。	入学者がアドミッションポリシーに適合しているかどうかは、入学試験時の提出資料集計により確認している。また進級・原級者等の状況を把握し、入学試験委員会において、学力選抜方法の見直しについて継続して検討を行っている	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	検証の結果、課題がないため、入学試験委員会において改善に向けた取り組みは行われていない。	-	
		6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	(1)取容定員を学科ごとに学則で定めているか。また、1学級当たり40人を標準としているか。	取容定員を学科ごとに学則で定めている。また、1学級当たり40人を標準としている。	3	特になし
	(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。		学則で定めた入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制として入学試験委員会を整備している。	3		
	(3) 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。		当校における令和3年度から令和7年度の5年間の入学定員に対する実入学者数は、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない。	3		
	(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。		大幅に超過、又は大幅に不足している状況ではないため、改善に向けた取り組みは行われていない。	-		

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項		
7 準学士課程の学習・教育の成果	7-1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備している。	3	特になし		
			(2) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価している。	3			
			(3) (2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業認定会議において必要な単位を修得することで、卒業を認められる。このことで、学生が教育目標を達成していることが確認できる。カリキュラムはカリキュラムポリシーに基づいて設定されており、ディプロマポリシーに沿った学習・教育が実施されている。	3			
		7-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備している。	3		特になし	
			(2) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。	学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っている。	3			特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。	R5年度に実施。定期的にアンケートを取る仕組みが整備できていない。	2	定期的にアンケートをとる仕組みの整備が必要。
			(4) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。	R5年度に実施。定期的にアンケートを取る仕組みが整備できていない。	2	定期的にアンケートをとる仕組みの整備が必要。
			(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。	教務小委員会において、アンケートに基づき成果の確認を実施した。ただし、卒業生、および進路先関係者へのアンケートは毎年実施しておらずR5年度実施したアンケート、およびアンケートに基づく成果の確認による。	3	特になし
		7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	過去5年間の就職率、進学率ともにほぼ100%に近い値となっており、学習・教育の成果が認められる。就職・進学情報については、本校HP、学校案内等で公開している。	3	特になし
			(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	過去5年間の就職率、進学率ともにほぼ100%に近い値となっており、学生の就職・進学先は、各学科の専門性に合致した企業や大学がほとんどである。 以上のことから、本校の育成しようとする人材像に合致した学生を養成できていると判断する。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
8 専攻科課程の教育活動の状況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。	教育課程表（電子情報通信工学専攻）及び教育課程表（創造工学専攻）にて明記している。	3	特になし
		8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。	(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。	資料の科目系統図にて、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっていることが明記されている。	3	特になし
		8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。	全ての専攻・コースにおいて講義の割合が約60%、演習約5%、実験・実習が30%以上となっており、講義だけに偏らずバランスの取れた授業形態である。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 教材の工夫</p> <p><input type="checkbox"/> 少人数教育</p> <p><input type="checkbox"/> 対話・討論型授業</p> <p><input type="checkbox"/> フィールド型授業</p> <p><input type="checkbox"/> 情報機器の活用</p> <p><input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮</p> <p><input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携</p>	<p>教材の工夫については、ネットワークプログラミングの科目にてチーム単位でのアプリ開発を前提としており、1つの目標に対してメンバの役割分担・担当責任を持たせる授業を実施している。</p> <p>少人数教育については、少人数でのチーム作成とグループ活動を、複数の科目で指導している。</p> <p>対話・討論型授業については、ライフサイクルアセスメント (LCA) を取り上げ、人間活動と環境に与える影響等を対話・討論形式で合意形成を図る取り組みを実行している。</p> <p>情報機器の活用については、電子回路に関する科目にて、回路設計や作成した電子回路の検査を通して様々な情報機器を用いている。</p>	3	
		8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。	<p>教養科目においては授業記録があり、研究指導においては研究ノートなどで確認している。</p> <p>これらは、創造工学専攻では資料8-1-④-1_教科ポートフォリオ作成・保管の手引き（高松）に、電子情報通信工学専攻では資料8-1-④-2_授業・成績評価保存の手引き（詫間）に記述がある。</p>	3	特になし
		8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p>	<p>策定している。</p> <p>行っている。</p> <p>専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻、電気電子情報工学専攻）（非公開）</p>	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。	把握している。 学修単位科目に、例えば「この科目は学修単位のため、授業外学習として、授業内容についてのレポート課題を課します。」などの記述があり、自己点検、相互点検においてチェックしている。	3	
			(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。	専攻科学生便覧に記載し周知している。	4	
			(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。	授業評価アンケート結果により把握している。	3	
			(6) 定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めているか。	定めている。	3	
			(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。	ある。	4	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p><input type="checkbox"/> 答案の返却</p> <p><input type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> その他(GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等)</p> <p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて分析する。</p>	<p>成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、教科ポートフォリオの取りまとめにおいて次のような組織的な措置を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の妥当性の事後チェック ・答案の返却 ・模範解答や採点基準の提示 <p>さらに、教科担当者が作成した教科ポートフォリオは各学科で次のような項目の相互チェックを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ・試験問題のレベルが適切であることのチェック <p>成績評価の妥当性や繰り返し利用の有無・難易度設定については、教科担当以外の教員が評価しており、ほぼすべての科目でシラバスで示された範囲であり、適切であると確認されている。一方、一部科目にて平均点が極めて高い（難易度が低い可能性）科目や昨年度と同じ試験問題が存在したが、科目担当者の変更または難易度の見直しを図ることを通知しており、令和7年度にて改善される見込みである。</p>	3	
	8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。		<p>(1) 学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。</p> <p>(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。</p> <p>(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。</p>	<p>定めており、専攻科学生便覧にて周知している。</p> <p>定めている。 専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻、電気電子情報工学専攻）（非公開）</p> <p>認定している。 専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻、電気電子情報工学専攻）（非公開）</p>	4 3 3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。	専攻科学生便覧にて周知している。	3	
			(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。	アンケート結果により把握している。	3	
	8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されているか。	(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。	なっている。	3	特になし
		8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選	(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。	整備している。	3	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		その結果が入学選抜の改善に役立っているか。	(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。	入学試験時の提出書類のうち、推薦では推薦書、志望理由書で、学力では面接でアドミッション・ポリシーを確認している。 専攻科合否判定会議資料（創造工学専攻、電気電子情報工学専攻）（非公開）	3	
			(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 ◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立っている状況について分析する	改善に役立っている。	3	
	8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	(1) 収容定員を専攻ごとに学則等で定めているか。		学則に定めている。	4	特になし
		(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。		整備している。	3	
		(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。		適正である。	3	
		(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。		該当なし。	-	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項	
	8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。	整備している。	3	特になし	
			(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。	把握・評価している。 専攻科修了認定会議資料（創造工学専攻、電気電子情報工学専攻）（非公開）	3		
			(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。	認められる。	3		
		8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断し、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。	整備している。	3		特になし
			(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。	行っている。	3		

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
			(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。	行っている。	3	
			(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。	5年間隔を目処に実施しており、令和6年度は実施していない	2	
			(5) (2)~(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。	各種アンケート（5段階評価）結果から、ほぼすべての項目において平均4以上の評価を得られている。また、特別研究において、学士相当との評価を毎年学位授与機構から得ており、学習・教育・研究の成果が認められていると判断する。	3	
		8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断し、学習・教育・研究の成果が認められるか。	(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	認められる。	3	特になし
			(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	就職率、進学率ともほぼ100%を達成しており、就職先は製造業やエンジニアリング関連企業、公務員などの工学系である。進学においても、多くの修了生が国立大学大学院の工学系研究科に進学している。以上から、就職先や進学先は各専攻の養成しようとする人材像になっていると判断する。	3	

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断し、学習・教育・研究の成果が認められるか。	(1)過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。	認められる。	3	特になし
9 正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	9-1 高等専門学校に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。 (一般市民を対象とした公開講座) (地域小中高生へのSTEAM教育) (学外行事・催物への支援を通じた地域社会への貢献)	9-1-① 本校が主体的に行う教育サービスとして、専門技術講座、一般教養講座などの公開講座の開講を通して、地域住民に生涯学習も含めて学習の機会を提供しているか。		※資料は4-2-4-(3)にUP済み 専門技術講座、一般教養講座などの公開講座を計画的に開講している。募集はホームページお知らせで行い、実施後ホームページTOPICSに掲載している。また、公開講座実施後はアンケートをとり、意見を反映している。受講者の満足度は、ほぼ100%の評価である。	4	特になし
		9-1-② 小中高校への出前授業や地域の行事・催物における科学技術体験教室を通して、科学技術の本質や科学の発展に従事する研究者・技術者の姿に触れる機会を与え、我が国の時代を担う次世代の育成を図っているか。		※資料は4-2-4-(2)にUP済み 県内小学校からの依頼により出前授業を実施している。 高松市との連携事業により科学体験教室を開講している。令和6年度は18回実施し、今後も継続予定である。 三豊市少年少女発明クラブの学生による活動支援も令和6年度は23回実施した。また小中学生向け高専公開講座を両キャンパスそれぞれ開講し、小中学生を対象として次世代の育成を図っている。 また、出前講座も積極的に実施している。	4	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
		9-1-③ 地域産業界等、学外からの依頼に応じ、行事・催物に参加し、理工系分野の啓蒙活動を図るとともに地域社会への貢献を果たしているか。		地域支援団体、自治体等から依頼を受け、学生が中心となって子供向け催事への協力を行っている。 AI社会実装教育研究本部を設置し、サマースクールなどAI人材育成教育を行っている。 社会基盤メンテナンス教育センターを設置し、人材育成講座を開講しており、当該取り組みは第8回インフラメンテナンス大賞国土交通大臣賞を受賞した。 香川高専ホームページにて公開講座・出前講座の募集や報告を行っている。適宜プレスリリースを発信し社会への情報提供を行っている。	4	特になし
10 国際交流に関する事項	10-1 国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能していること。	10-1-① 国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能しているか。	本校では、高松キャンパスおよび詫間キャンパスの国際交流室が一体化して活動している。キャンパスが離れていることから、Microsoft Teamsを活用し、国際交流の実施・支援体制を整備している。 なお、国際交流に関連するTeamは主に以下の3種類に分かれる。(これとは別に高専機構との情報共有や、他高専との連携Teamがある。) (1) 国際交流室の運営用Team (2) 国際交流室からの情報提供用Team (3) 派遣学生のサポート用Team	Microsoft Teamsを利用し、国際交流を推進するための実施・支援体制が整備されている。また、国際交流室が広報を行っているTeamへ学生がアクセスし、活用していることが確認できる。	4	特になし

評価項目	評価基準	観 点	自己点検・評価内容	実施改善状況	自己評価	改善を要する事項
	10-2 国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられていること。	10-2-① 国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられているか。	海外派遣の成果については、派遣先または目的別派遣内容の件数・目次派遣人数で評価する。 受入については、来日学生の人数ならびに滞在期間中の各種アクティビティの内容をもって評価する。	海外派遣については、本校から延べ85名の学生を派遣した。また、海外の大学から22名の短期留学生を受け入れた。 また、留学生と本校学生の交流を目的とした留学生見学旅行や、香川県内の国際交流関連機関との交流を目的とした留学生交流会を実施した。	4	特になし
11 国立高専教育国際標準 (KIS)に関する事項	11-1 日本工学教育協会が定めるKIS関係自己点検シートの基準項目に沿って点検し、KIS基準を満たしていること。	11-1-① 日本工学教育協会が定めるKIS関係自己点検シートの基準項目に沿って点検し、KIS基準を満たしていること。		令和8年度受審に向けてKIS自己点検シートを準備中である。	2	特になし

令和6年度 自己点検・評価報告書_別紙根拠資料一覧

【評価基準1-1】

- 資料 1-1-1-(1)-01_香川高等専門学校自己点検評価実施要項
- 資料 1-1-1-(2)-01_香川高等専門学校点検評価委員会規程
- 資料 1-1-1-(2)-02_企画評価室規程
- 資料 1-1-1-(2)-03_学内組織体制
- 資料 1-1-1-(3)-01_令和6年度自己点検評価書様式
- 資料 1-1-2-(1)-01_令和6年度第3回点検評価委員会議事要旨
- 資料 1-1-2-(1)-02_R4 自己点検評価 再点検 (サイボウズファイル管理)
- 資料 1-1-2-(2)-01_平成27年度香川高等専門学校自己点検評価
- 資料 1-1-2-(2)-02_令和4年度香川高等専門学校自己点検評価
- 資料 1-1-2-(2)-03_令和4年度香川高等専門学校自己点検評価:再点検 (企画評価室)
- 資料 1-1-2-(3)-01_認証評価・自己評価 Web ページ
- 資料 1-1-3-(1)-01_香川高専意見箱 (教職員)
- 資料 1-1-3-(1)-02_職員面談に関する資料
- 資料 1-1-3-(1)-03-2_1.R6 授業評価アンケート実施要領 (教員用)
- 資料 1-1-3-(1)-03_学生による授業評価アンケート実施要領
- 資料 1-1-3-(1)-04-2_学生による授業評価アンケート結果例_授業評価アンケート後期
- 資料 1-1-3-(1)-04_学生による授業評価アンケート結果例
- 資料 1-1-3-(1)-05_対話集会アンケートの集計結果
- 資料 1-1-3-(1)-06-2_令和6年度 香川高専本科生対象アンケート (2025年3月実施)
- 資料 1-1-3-(1)-06_香川高専本科生対象年度末アンケート結果
- 資料 1-1-3-(1)-07_卒業生・修了生アンケート結果 (高松)
- 資料 1-1-3-(1)-08_応答の概要_令和6年度卒業・修了時アンケート_(香川高専沼間キャンパス)
- 資料 1-1-3-(1)-10-1_令和6年度卒業時 (学校評価など) アンケート (通信ネットワーク工学科)
- 資料 1-1-3-(1)-10-2_令和6年度卒業時 (学校評価など) アンケート (電子システム工学科)
- 資料 1-1-3-(1)-10-3_令和6年度卒業時 (学校評価など) アンケート (情報工学科)
- 資料 1-1-3-(1)-11_令和5年度香川高専本科卒業生対象アンケート (2016年3月~2020年3月卒業)
- 資料 1-1-3-(1)-12_令和5年度香川高専専攻科修了生対象アンケート (2016年3月~2020年3月修了)
- 資料 1-1-3-(1)-13_保護者後援会に関する資料 (高松)【統合資料(両面コピー)】令和6年度第1回高松キャンパス後援会総会
- 資料 1-1-3-(1)-14_R6 第3回役員会資料 (沼間) (非公表)
- 資料 1-1-3-(1)-15_香川高専意見箱 (学生・保護者) 周知文書 (非公表)
- 資料 1-1-3-(1)-16_(更新要) 就職先企業アンケート集計結果
- 資料 1-1-3-(1)-17_【日程調整】校長面談について (沼間キャンパス)
- 資料 1-1-3-(1)-18_【日程調整】校長面談について (高松キャンパス)
- 資料 1-1-3-(2)-01_R70318 第7回企画評価室議事概要
- 資料 1-1-3-(2)-02_令和6年度_第14回教務小委員会_議事録
- 資料 1-1-3-(2)-03_令和5年度_第4回教務小委員会議事録
- 資料 1-1-3-(2)-04_(墨) 令和5年度第10回教務小委員会議事要録
- 資料 1-1-3-(2)-05_(墨) 令和6年度第4回教務小委員会議事要録2 (確定)
- 資料 1-1-3-(2)-06_(墨) 令和6年度第5回教務小委員会議事要録3 (確定)
- 資料 1-1-3-(2)-07_(墨) 令和6年度第16回教務小委員会議事要録7 (確定)
- 資料 1-1-3-(2)-08_(墨) 令和7年度第2回教務小委員会議事要録 (案) 4 (確定)

資料 1-1-3-(2)-09_ (墨) 令和7年度第3回教務小委員会議事要録4 (確定)

資料 1-1-3-(2)-10_ (墨) 令和7年度第4回教務小委員会議事要録(案)5_ (確定) _Redacted

資料 1-1-3-(2)-11_ (墨) 令和7年度第5回教務小委員会議事要録4 (確定) _Redacted

資料 1-1-3-(2)-12_ (諮問)教務小委員会点検・改善議題一覧

資料 1-1-3-(2)-13_ 教務関係アンケート実施一覧

資料 1-1-3-(2)-14_ 第01回企画運営会議議事概要

資料 1-1-3-(2)-15_ 第04回企画運営会議議事概要

資料 1-1-3-(2)-16_ 第5回専攻科委員会議事録

資料 1-1-3-(2)-17_ 第09回企画運営会議議事概要

資料 1-1-3-(2)-18_ 第10回企画運営会議議事概要

資料 1-1-4-(1)-01_ 教育改善ループ (PDCA サイクル) ・Web ページ_

資料 1-1-4-(1)-02_ R6 プレスリリース一覧

資料 1-1-4-(1)-03_ 第9回総務・広報室会議(0221)議事概要、資料

資料 1-1-4-(2)-01_ R0606 企画評価室会議議事要旨 (自己点検)

資料 1-1-4-(2)-02_ R60606 第2回企画評価室会議(統合資料)

資料 1-1-4-(2)-03_ 令和6年度第2回点検評価委員会(11.07)議事要旨 (自己点検)

資料 1-1-4-(2)-04_ 令和8年度専攻科募集要項 (抜粋) _

資料 1-1-4-(2)-05_ 第08回企画運営会議議事概要 (自己点検)

資料 1-1-4-(2)-06_ R6 第8回高松キャンパス教員会議議事概要 (自己点検)

資料 1-1-4-(2)-07_ R06 第08回諮問キャンパス教員会議議事要旨 (自己点検)

資料 1-1-4-(2)-08_ (ポートフォリオ相互チェック) R6.6.4 第3回,R6.7.2 第4回高松教務小委員会議事要録

資料 1-1-4-(2)-09_ (ポートフォリオ相互チェック) R6.6.11 第4回,R6.7.9 第5回諮問CP 教務小委員会議事要録

資料 1-1-4-(2)-10_ (学校の DP) R6.10.22 第2回教務委員会 (サイボウズワークフロー)

資料 1-1-4-(2)-11_ (学校の DP) R6.11.21 第8回企画運営会議資料1_学校の DP 及び学校の学習・教育到達目標の策定について

資料 1-1-4-(2)-12_ (学校の CP,学科の DP,CP) R6.12.16 第3回教務委員会 (サイボウズワークフロー)

資料 1-1-4-(2)-13_ (学校の CP,学科の DP,CP) R6.12.19 第9回企画運営会議資料2_学校の CP の制定と学科の DP・CP とカリキュラムマップについて

資料 1-1-4-(2)-14_ (成績確認期間) R5.11.28 第12回,R5.12.12 第13回諮問キャンパス教務小委員会

資料 1-1-4-(2)-15_ (成績確認期間) R5.12.5 第8回高松教務小委員会議事要録

資料 1-1-4-(2)-16_ 情報基盤センター委員会議事概要(R60729) (ICT 満足度)

資料 1-1-4-(2)-17_ 第06回企画運営会議議事概要(ICT 満足度)

資料 1-1-4-(2)-18_ 第3回専攻科委員会議事録案

資料 1-1-4-(2)-19_ 令和6年度第6回企画評価室会議議事概要

【評価基準 1 - 2】

資料 1-2-1-(1)-01_ 香川高専ホームページ (三つの方針)

資料 1-2-1-(1)-02_ 第08回企画運営会議議事概要

資料 1-2-1-(1)-03_ R61121 企画運営会議資料1_学校の DP 及び学校の学習・教育到達目標の策定について

資料 1-2-2-(1)-01_ 香川高専ホームページ (三つの方針)

資料 1-2-2-(1)-02_ 第09回企画運営会議議事概要

資料 1-2-2-(1)-03_ R61219 企画運営会議資料2_学校の CP の制定と学科の DP・CP とカリキュラムマップについて

資料 1-2-3-(1)-01_ 香川高専ホームページ (三つの方針)

資料 1-2-4-(1)-1_ 専攻科の基本方針 (3つのポリシー)

【評価基準 1 - 3】

資料 1-3-1-(1)-01_香川高等専門学校企画運営会議規程
資料 1-3-1-(1)-02_香川高等専門学校企画評価室規程
資料 1-3-1-(1)-03_香川高等専門学校教務委員会規程
資料 1-3-1-(1)-04_香川高等専門学校専攻科委員会規程
資料 1-3-1-(2)-01_R70318 第 7 回企画評価室議事概要
資料 1-3-1-(2)-02_(諮問) 令和 6 年度第 16 回教務小委員会議事要録
資料 1-3-1-(2)-03_(諮問) 令和 6 年度第 9 回教務小委員会議事要録
資料 1-3-1-(2)-04_(高松) 令和 6 年度第 7 回教務小委員会議事要録
資料 1-3-1-(2)-05_(高松) 令和 6 年度第 9 回教務小委員会議事要録

【評価基準 2 - 1】

資料 2-1-1-(1)-01_香川高等専門学校学則
資料 2-1-1-(1)-02_香川高専ホームページ (使命・育成する人財像)
資料 2-1-1-(1)-03_香川高専ホームページ (三つの方針)
資料 2-1-1-(1)-04_香川高専ホームページ (基本方針 (使命・育成する人財像))
資料 2-1-2-(1)-01_基本方針 (使命・育成する人財像)
資料 2-1-3-(1)-01_学校要覧 2024 (組織図)
資料 2-1-3-(1)-02_香川高等専門学校教務委員会規程
資料 2-1-3-(1)-03_香川高等専門学校専攻科委員会規程
資料 2-1-3-(1)-04_香川高等専門学校学生委員会規程
資料 2-1-3-(1)-05_香川高等専門学校入学試験委員会規程
資料 2-1-3-(2)-01_教務委員会議事要録 (非公表)
資料 2-1-3-(2)-02_学生委員会議事要録 (非公表)
資料 2-1-3-(2)-03_入学試験委員会議事録 (非公表)
資料 2-1-3-(2)-04_専攻委員会・専攻科委員会開催状況資料 2-1-②-(1)-1_基本方針 (使命・育成する人財像)

【評価基準 2 - 2】

資料 2-2-1-(2)_R6_【香川高専】 様式 2-1_高等専門学校現況表 (改正後基準) _2023.3 改訂 (人事委員会)
資料 2-2-1-(4)_R6_【香川高専】 様式 2-3_担当教員一覧表 (改正後基準) _2023.3 改訂(20250620)
資料 2-2-1-(5)-01_教員公募要項例
資料 2-2-2-(3)-01_学修総まとめ科目審査対象教員一覧 (創造工学専攻)
資料 2-2-2-(3)-02_学修総まとめ科目審査対象教員一覧 (電子情報通信工学専攻)
資料 2-2-3-(1)-01_香川高専教員職種別・年齢別在籍状況
資料 2-2-3-(1)-02_教員公募要項例
資料 2-2-3-(2)-01_香川高等専門学校教員選考規程
資料 2-2-3-(2)-02_香川高等専門学校教員選考基準
資料 2-2-3-(2)-03_教員公募要項例 (女性限定公募)
資料 2-2-3-(2)-04_香川高等専門学校男女別教員数
資料 2-2-3-(3)-01_香川高等専門学校教員選考規程
資料 2-2-3-(3)-02_香川高等専門学校教職員表彰規程
資料 2-2-3-(3)-03_香川高等専門学校教職員表彰式の実施について
資料 2-2-3-(3)-04_令和 6 年度校長裁量経費配分計画

資料 2-2-3-(3)-05_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（高松キャンパス）

資料 2-2-3-(3)-06_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（詫間キャンパス）

資料 2-2-3-(3)-07_高専と両技科大との教員交流実施要項

【評価基準 2 - 3】

資料 2-3-1-(1)-01_教職員の勤務成績評価（優秀者等の決定）についての申合せ

資料 2-3-1-(1)-02_昇給等に係る教員評価表

資料 2-3-1-(1)-03_勤務成績良好者推薦書

資料 2-3-1-(1)-04_勤勉手当勤務成績優秀者等推薦書

資料 2-3-1-(1)-05_令和 6 年度校長裁量経費配分計画

資料 2-3-1-(1)-06_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（高松キャンパス）

資料 2-3-1-(1)-07_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（詫間キャンパス）

資料 2-3-1-(2)-01_教職員の勤務成績評価（優秀者等の決定）についての申合せ

資料 2-3-1-(2)-02_【日程調整】校長面談について（高松キャンパス）

資料 2-3-1-(2)-03_【日程調整】校長面談について（詫間キャンパス）

資料 2-3-1-(2)-04_昇給等に係る教員評価表

資料 2-3-1-(2)-05_勤務成績良好者推薦書

資料 2-3-1-(2)-06_勤勉手当勤務成績優秀者等推薦書

資料 2-3-1-(3)-01_昇給等に係る教員評価表

資料 2-3-1-(3)-02_勤務成績良好者推薦書

資料 2-3-1-(3)-03_勤勉手当勤務成績優秀者等推薦書

資料 2-3-1-(3)-04_令和 6 年度校長裁量経費配分計画

資料 2-3-1-(3)-05_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（高松キャンパス）

資料 2-3-1-(3)-06_令和 6 年度教育改善充実費（校長裁量経費）配分額について（通知）（詫間キャンパス）

資料 2-3-1-(3)-07_香川高等専門学校教職員表彰規程

資料 2-3-1-(3)-08_香川高等専門学校教職員表彰式の実施について

資料 2-3-1-(4)-01_学生による授業評価アンケート実施要領

資料 2-3-1-(4)-02_非常勤教員の学生による授業評価アンケート結果例

資料 2-3-2-(1)-01_香川高等専門学校人事委員会規程

資料 2-3-2-(1)-02_香川高等専門学校教員選考規程

資料 2-3-2-(1)-03_香川高等専門学校教員選考基準

資料 2-3-2-(2)-01_香川高等専門学校人事委員会規程

資料 2-3-2-(2)-02_香川高等専門学校教員選考規程

資料 2-3-2-(2)-03_香川高等専門学校教員選考基準

資料 2-3-2-(2)-04_教員採用選考提出書類

資料 2-3-2-(2)-05_教員選考個人調書（学内昇任）

資料 2-3-2-(3)-01_教員公募要項例

資料 2-3-2-(3)-02_教員採用選考提出書類

資料 2-3-2-(3)-03_教員選考個人調書（学内昇任）

資料 2-3-2-(3)-04_人事審査会（教員採用選考）審査結果報告書

資料 2-3-2-(3)-05_教員採用候補者推薦書

資料 2-3-2-(3)-06_人事審査会（教員昇任選考）審査結果報告書

資料 2-3-2-(4)-01_香川高等専門学校非常勤講師の採用に関する内規

【評価基準 2 - 4】

資料 2-4-1-(1)-01_香川高等専門学校 FD 委員会規程
資料 2-4-1-(1)-02_香川高等専門学校の事務組織等に関する規程
資料 2-4-1-(1)-03_令和 6 年度 FD・SD 研修会の実施について
資料 2-4-1-(1)-04_教育実践事例報告会プログラム
資料 2-4-1-(1)-05_R6 第 2 回 FD 委員会議事要録(確定)
資料 2-4-1-(2)-01_令和 6 年度 FD・SD 研修会_HP 報告
資料 2-4-1-(2)-02_令和 6 年度教育実践事例報告会_HP 報告
資料 2-4-1-(2)-03_高松キャンパス FD 研修会実施一覧
資料 2-4-1-(2)-04_詫間キャンパス FD 研修会実施一覧
資料 2-4-1-(3)-01_令和 6 年度 FD・SD 研修会_アンケート結果
資料 2-4-1-(3)-02_令和 6 年度教育実践事例報告会_直後アンケート結果
資料 2-4-1-(3)-03_令和 6 年度教育実践事例報告会_半年後アンケート結果
資料 2-4-1-(3)-04_高松キャンパス FD 研修会_アンケート結果
資料 2-4-1-(3)-05_詫間キャンパス FD 研修会_アンケート結果
資料 2-4-1-(3)-06_令和 6 年度 FD が教育改善に結びついた事例
資料 2-4-2-(1)-01_香川高等専門学校事務組織等に関する規程
資料 2-4-2-(1)-02_香川高等専門学校技術教育支援センター規則
資料 2-4-2-(1)-03_香川高専組織図(事務職員)
資料 2-4-2-(1)-04_香川高専組織図(技術教育支援センター)
資料 2-4-2-(2)-01_高等専門学校図書館調査票(2024 年)(高松キャンパス)
資料 2-4-2-(2)-02_高等専門学校図書館調査票(2024 年)(詫間キャンパス)
資料 2-4-3-(1)-01_令和 6 年度香川高等専門学校 FD・SD 研修会開催通知
資料 2-4-3-(1)-02_FD・SD 研修会実施状況
資料 2-4-3-(1)-03_技術職員研修参加状況一覧

【評価基準 3 - 1】

資料 3-1-1-(1)-01_施設期連抜粋 様式 2-1_高等専門学校現況表
資料 3-1-1-(2)-01_施設期連抜粋 様式 2-1_高等専門学校現況表
資料 3-1-1-(3)-01_施設期連抜粋 様式 2-1_高等専門学校現況表
資料 3-1-1-(4)-01_自学的学習スペース(詫間)
資料 3-1-1-(5)-01_福利厚生施設
資料 3-1-1-(5)-01_施設期連抜粋 様式 2-1_高等専門学校現況表
資料 3-1-1-(6)-01_香川高等専門学校安全衛生管理委員会規程
資料 3-1-1-(6)-02_香川高等専門学校安全衛生委員会規程
資料 3-1-1-(6)-03_実験実習安全必携
資料 3-1-1-(7)-01_令和 6 年度安全衛生管理活動計画(高松キャンパス)
資料 3-1-1-(7)-02_職場巡視点検表(高松キャンパス)
資料 3-1-1-(7)-03_令和 6 年度年間安全衛生計画(詫間キャンパス)
資料 3-1-1-(7)-04_職場巡視点検表(詫間キャンパス)
資料 3-1-1-(7)-05_安全衛生管理に関する講習会
資料 3-1-1-(7)-06_実習工場安全心得
資料 3-1-1-(7)-07_創造基礎工作実習 I ガイダンス (P7-13)
資料 3-1-1-(7)-08_機械工作実習安全指導

資料 3-1-1-(7)-09_救急法講習会 (詫間キャンパス)

資料 3-1-1-(8)-01_高松C_工事履歴

資料 3-1-1-(8)-02_高松キャンパス_バリアフリー対応状況

資料 3-1-1-(8)-03_詫間C_工事履歴

資料 3-1-1-(8)-04_詫間キャンパス_バリアフリー対応状況

資料 3-1-1-(8)-05_屋外スロープ設置による段差解消及び構内屋外階段手摺設置

資料 3-1-1-(9)-01_学生との懇談会実施に関する資料 (詫間)

資料 3-1-1-(9)-02_教育環境の整備に関する資料 (詫間)

資料 3-1-1-(10)-01_学生との懇談会実施に関する資料 (詫間)

資料 3-1-1-(10)-02_教育環境の整備に関する資料 (詫間)

資料 3-1-2-(1)-01_ICT 環境整備状況

資料 3-1-2-(1)-02_香川高等専門学校情報基盤センター委員会規程

資料 3-1-2-(1)-03_令和 6 年度香川高専学校要覧 (抜粋)

資料 3-1-2-(1)-04_高松・詫間 CP ネットワーク整備エリア

資料 3-1-2-(2)-01_香川高等専門学校情報セキュリティ委員会規程

資料 3-1-2-(2)-02_香川高等専門学校サイバーセキュリティ管理規程

資料 3-1-2-(2)-03_香川高等専門学校サイバーセキュリティ推進規程

資料 3-1-2-(2)-04_香川高等専門学校情報セキュリティインシデント対応手順 (全体)

資料 3-1-2-(2)-05_香川高等専門学校情報セキュリティインシデント対応手順 (フロー図)

資料 3-1-2-(2)-06_香川高等専門学校情報セキュリティインシデント (不正アクセス等) 発生時の連絡及び対応 [全体フロー]

資料 3-1-2-(2)-07_香川高等専門学校 CSIRT 設置要項

資料 3-1-2-(2)-08_香川高等専門学校情報基盤センター規程

資料 3-1-2-(2)-09_セキュリティシステムの概要、講習会一覧

資料 3-1-2-(2)-12_シラバス_情報工学科_情報セキュリティ

資料 3-1-2-(2)-13_シラバス_通信ネットワーク工学科_情報セキュリティ

資料 3-1-2-(2)-14_シラバス_電気情報工学科_工学リテラシー

資料 3-1-2-(2)-15_シラバス_電子システム工学科_工学実験II3-1-2-(2)-16_シラバス_電子システム工学科_創造実験・実習

資料 3-1-2-(3)-01_ICT 環境利用状況 (高松キャンパス)

資料 3-1-2-(3)-02_ICT 環境利用状況 (詫間キャンパス)

資料 3-1-2-(4)-01_香川高等専門学校情報基盤センター委員会規程 (再掲)

資料 3-1-2-(4)-02_香川高等専門学校情報基盤センター規程

資料 3-1-2-(4)-03_R5 第 2 回情報基盤センター委員会 (ワークフロー)

資料 3-1-2-(4)-04_ICT 環境満足度調査実施方法

資料 3-1-2-(4)-05_ICT 環境満足度調査アンケート内容

資料 3-1-2-(5)-01_情報基盤センター高松 R5 目標の達成状況 (年報原稿)

資料 3-1-2-(5)-02_情報基盤センター高松 R5ICT 満足度調査アンケート結果と対応策

資料 3-1-2-(5)-03_情報基盤センター詫間 R5 目標の達成状況 (年報原稿)

資料 3-1-2-(5)-04_情報基盤センター詫間 R5ICT 満足度調査アンケート結果と対応策

資料 3-1-2-(5)-05_情報基盤センター高松 R6 目標および達成状況

資料 3-1-2-(5)-06_情報基盤センター高松 R6ICT 満足度調査アンケート結果と対応策

資料 3-1-2-(5)-07_情報基盤センター詫間 R6 目標および達成状況

資料 3-1-2-(5)-08_情報基盤センター詫間 R6ICT 満足度調査アンケート結果と対応策

資料 3-1-3-(1)-01_香川高等専門学校_内部組織規則

資料 3-1-3-(1)-02_香川高等専門学校_図書館規程

資料 3-1-3-(1)-03_香川高等専門学校_図書館委員会規程(2024 改正)

資料 3-1-3-(1)-04_香川高等専門学校_図書館平面図

資料 3-1-3-(1)-05_香川高等専門学校_図書館閲覧室配置図

資料 3-1-3-(2)-01_香川高等専門学校_令和 6 年度学校要覧 (P.43)

資料 3-1-3-(2)-02_教員による学生参考用図書のおすすめ

資料 3-1-3-(2)-03_令和 6 年度図書館購読雑誌、新聞について (非公表)

資料 3-1-3-(3)-01_香川高等専門学校_図書館利用細則

資料 3-1-3-(3)-02_香川高等専門学校図書館利用状況 (貸出冊数・入館者数)

資料 3-1-3-(4)-01_令和 6 年度図書館の活動状況と令和 7 年度の取り組み

資料 3-1-3-(4)-02_令和 6 年度図書館小委員会議事録

資料 3-1-3-(4)-03_図書館に関する案内・蔵書検索 (本校・図書館 HP)

資料 3-1-3-(4)-04_香川高等専門学校_図書館利用案内

資料 3-1-3-(4)-05_長期休業中の長期貸し出しについて 夏・冬・春

資料 3-1-3-(4)-06_テスト期間中の日曜日開館について

資料 3-1-3-(4)-07_「ブックハンティング」開催

資料 3-1-3-(4)-08_「図書館だより第 22 号」発行

資料 3-1-3-(4)-09_ (高松 C) 「第 6 回ビブリオバトル」開催

資料 3-1-3-(4)-10_ (高松 C) 「本にまつわるエッセイ」

資料 3-1-3-(4)-11_ (詫間 C) 「文芸コンクール」開催

資料 3-1-3-(4)-12_新規図書購入リクエストシステム

資料 3-1-3-(4)-13_ (詫間 C) _グループワークスペース利用案内・予約システム, オープンラウンジ利用案内

資料 3-1-3-(4)-14_ (高松 C) 「留学生コーナー」の新設

【評価基準 3-2】

資料 3-2-1-(1)-01_入学手続きに関する説明会について (ご案内)

資料 3-2-1-(1)-02_入学説明会配布資料一覧

資料 3-2-1-(1)-03_入学説明会配布資料一覧 (高松)

資料 3-2-1-(1)-04_教員会議資料 (新入生オリエンテーション等日程表) (詫間)

資料 3-2-1-(1)-05_教員会議資料 (新入生オリエンテーション等日程表) (高松)

資料 3-2-1-(1)-06_1 年生ガイダンス資料(新入生オリエンテーション)

資料 3-2-1-(2)-07_2 年生ガイダンス資料(学位申請説明会)

資料 3-2-1-(1)-09_平成 27 年度編入学者説明会実施要領

資料 3-2-1-(1)-10_平成 27 年度編入学者説明会 (教務関係)

資料 3-2-1-(1)-11_2024 年度留学生の手引き

資料 3-2-1-(1)-12_障がい学生支援委員会議事次第 (高松)

資料 3-2-1-(1)-12_香川高等専門学校障がい学生への支援に関する規則

資料 3-2-1-(1)-13_障がい学生支援流れ

資料 3-2-2-(1)-01_香川高等専門学校内部組織規則

資料 3-2-2-(1)-02_オフィスアワー

資料 3-2-2-(1)-02_学生相談室_相談予定・メールアドレス (詫間)

資料 3-2-2-(1)-05_R6Microsoft 包括ライセンスについて

資料 3-2-2-(1)-05_教室掲示 (資格等試験受験料補助申請)

資料 3-2-2-(1)-05_教室掲示 (資格等試験受験料補助申請) (高松)

資料 3-2-2-(1)-06_香川高専国際交流室公式情報公開用チーム

資料 3-2-2-(1)-07_香川高等専門学校国際交流室規程

資料 3-2-2-(2)-01_令和7年度校務分担表 20241119

資料 3-2-2-(2)-02_保健室・学生相談室等利用状況について

資料 3-2-2-(2)-05_資格等試験受験料補助申請

資料 3-2-2-(2)-05_資格等試験受験料補助申請 (高松)

資料 3-2-2-(3)-01_令和7年度校務分担表 20241119

資料 3-2-2-(3)-01_学生との懇談会実施に関する資料 (諮問)

資料 3-2-2-(3)-02_対話集会議事概要

資料 3-2-2-(3)-03_香川高専意見箱の案内と通知文書

資料 3-2-3-(1)-01_香川高等専門学校外国人留学生規程

資料 3-2-3-(1)-02_香川高等専門学校国際交流室規程

資料 3-2-3-(2)-01_香川高等専門学校外国人留学生チューター制度実施要項

資料 3-2-3-(2)-02_2024年度留学生の手引き

資料 3-2-3-(2)-03_2024留学生交流会実施報告

資料 3-2-3-(2)-03_2024留学生見学旅行実施報告

資料 3-2-3-(2)-05_令和6年度留学生チューター実施時間数

資料 3-2-3-(2)-05_令和6年度留学生チューター実施時間数 (高松)

資料 3-2-3-(3)-01_香川高等専門学校修学サポート室規程

資料 3-2-3-(4)-01_編入学生を支援する取組 (実績なし)

資料 3-2-3-(7)-01_令和7年度校務分担表

資料 3-2-3-(8)-01_合理的配慮申請書 (非公表)

資料 3-2-3-(8)-01_障がい学生支援委員会議事要録

資料 3-2-3-(8)-02_支援計画 (非公表)

資料 3-2-3-(8)-03_修学上の支援記録 (非公表)

資料 3-2-3-(9)-01_国立高専機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領

資料 3-2-3-(9)-02_合理的配慮決定に関する対応要領

資料 3-2-4-(1)-01_学生支援体制組織図

資料 3-2-4-(1)-02_香川高等専門学校学生相談室規程

資料 3-2-4-(1)-03_令和6年度保健だより4月 (高松)

資料 3-2-4-(1)-04_保健室だより4月(諮問)

資料 3-2-4-(1)-05_学生相談室メンバー (高松)

資料 3-2-4-(1)-06_香川高等専門学校HP_キャンパスライフ_学生相談室(諮問)_カウンセラー等の紹介

資料 3-2-4-(1)-07_令和6年度学生相談室利用案内(高松)

資料 3-2-4-(1)-08_香川高等専門学校HP_キャンパスライフ_学生相談室(諮問)_利用案内

資料 3-2-4-(1)-09_香川高等専門学校ハラスメントの防止等に関する規程

資料 3-2-4-(1)-10_令和6年度ハラスメント相談員・防止委員会委員

資料 3-2-4-(1)-11_香川高等専門学校HP_キャンパスライフ_入学科及び授業料免除制度、各種奨学金

資料 3-2-4-(1)-12_香川高等専門学校HP_キャンパスライフ_高等教育の修学支援新制度

資料 3-2-4-(1)-13_香川高等専門学校いじめ防止等基本計画・いじめ対応組織等

資料 3-2-4-(1)-14_香川高等専門学校いじめ対策委員会規程

資料 3-2-4-(1)-15_香川高等専門学校いじめ防止対策室規程

資料 3-2-4-(1)-16_香川高等専門学校いじめの早期発見・事案対処マニュアル

資料 3-2-4-(1)-17_いじめ連絡窓口(高松)

資料 3-2-4-(1)-18_いじめ連絡窓口(諮問)

資料 3-2-4-(2)-01_令和6年度学生定期健康診断日程表(高松)

資料 3-2-4-(2)-02_令和6年度定期健康診断等予定表(諮問)

資料 3-2-4-(2)-03_令和6年度内科健康相談1月(案内)(高松)

資料 3-2-4-(2)-04_令和6年度学校保健年間計画(諮問)

資料 3-2-4-(3)-01_令和6年度 SC、SSWer 相談件数(高松)

資料 3-2-4-(3)-02_令和6年度相談件数まとめ(4月～2月)(諮問)

資料 3-2-4-(3)-03_ハラスメント相談件数

資料 3-2-4-(3)-04_令和6年度奨学金等の利用状況(高松)

資料 3-2-4-(3)-05_令和6年度民間等奨学金貸与・受給状況調査(諮問)

資料 3-2-5-(1)-01_香川高等専門学校キャリアサポートセンター委員会規程

資料 3-2-5-(1)-02_香川高等専門学校キャリアサポートセンター規程

資料 3-2-5-(2)-01_学校以外の教育施設等における学修に関する規程

資料 3-2-5-(2)-02_資格等試験の受験料補助について【教室掲示】

資料 3-2-5-(2)-03_2024_GETP(IUT)-学生の募集要項

資料 3-2-5-(2)-04_キャリアサポートセンター年間スケジュール (高松)

資料 3-2-5-(2)-05_キャリアサポートセンター就職関係イベントポスター (高松)

資料 3-2-5-(2)-06_キャリアサポートセンターの進路支援計画 (諮問)

資料 3-2-5-(2)-07_就活手帳

資料 3-2-5-(2)-08_4年生対象進路ガイダンスポスター (高松)

資料 3-2-5-(2)-09_第4回進路ガイダンス Teams 周知 (諮問)

資料 3-2-5-(2)-10_保護者向け進路説明会案内 (高松)

資料 3-2-5-(2)-11_R6 案内文 4年生保護者向け進路ガイダンス (諮問)

資料 3-2-5-(2)-12_学校要覧 (学生相談施設)

資料 3-2-5-(2)-13_企業面談についてのホームページ画面 (高松)

資料 3-2-5-(2)-14_香川高専 HP_企業の皆様へ (諮問)

資料 3-2-5-(2)-15_令和6年度合同大学説明会のご案内と実施要項 (諮問)

資料 3-2-5-(3)-01_R6 資格認定者一覧

資料 3-2-5-(3)-02_取得単位報告書

資料 3-2-5-(3)-03_高専だより

資料 3-2-5-(3)-04_トピックス原稿 (高松)

資料 3-2-5-(3)-05_トピックス原稿 (諮問)

資料 3-2-5-(3)-06_仕事研究セミナーパンフレット (高松)

資料 3-2-5-(3)-07_仕事研究セミナーパンフレット (諮問)

資料 3-2-5-(3)-08_面接実技研修タイムスケジュール及び講師総評 (高松)

資料 3-2-5-(3)-09_面接実技研修実施報告 (諮問)

資料 3-2-5-(3)-10_進路ガイダンス資料 (高松)

資料 3-2-5-(3)-11_進路ガイダンス資料 (諮問)

資料 3-2-5-(3)-12_保護者向け進路説明会配布資料 (高松)

資料 3-2-5-(3)-13_R6 就職関係オンライン講座配信画面 (高松)

資料 3-2-5-(3)-14_R6 年度企業面談記録 (高松)

資料 3-2-5-(3)-15_R6 年度企業面談記録 (諮問)

資料 3-2-6-(1)-01_香川高等専門学校高松キャンパス学生会会則 (+学生会組織図)

資料 3-2-6-(1)-02_香川高等専門学校諮問キャンパス学生会規約 (+学生会組織図)

資料 3-2-6-(1)-03_香川高等専門学校高松キャンパス学生会準則

資料 3-2-6-(1)-04_香川高等専門学校詫間キャンパス学生会準則
資料 3-2-6-(1)-05_香川高等専門学校_令和 6 年度学校要覧 (抜粋_p.48,49)
資料 3-2-6-(2)-01_課外活動の在り方に関する方針
資料 3-2-6-(2)-02_令和 6 年度教員の手引き(学生支援関係)抜粋
資料 3-2-6-(2)-03_令和 6 年度高松キャンパス顧問名簿
資料 3-2-6-(2)-04_令和 6 年度詫間キャンパス顧問名簿
資料 3-2-6-(3)-01_令和 6 年度課外活動(部・愛好会)年間活動報告(高松)
資料 3-2-6-(3)-02_令和 6 年度香川高専詫間キャンパス全クラブ活動計画 (詫間)
資料 3-2-6-(3)-03_令和 6 年度課外活動指導者雇用状況 (高松)
資料 3-2-6-(3)-04_令和 6 年度課外活動指導員雇用状況 (詫間)
資料 3-2-7-(1)-01_香川高等専門学校学則
資料 3-2-7-(2)-01_学寮施設棟別平面図 (高松)
資料 3-2-7-(2)-02_学寮施設棟別平面図 (詫間)
資料 3-2-7-(3)-01_令和 6 年度寮生活のしおり (高松)
資料 3-2-7-(3)-02_令和 6 年度寮生活のしおり (詫間)
資料 3-2-7-(4)-01_R6 年度高松キャンパス寮生数
資料 3-2-7-(4)-02_R6 年度詫間キャンパス寮生数
資料 3-2-7-(4)-03_令和 6 年度前期中間学習会日程表 (高松)
資料 3-2-7-(4)-04_令和 6 年度前期中間学習会出欠票 (高松)
資料 3-2-7-(4)-05_令和 6 年度寮生学習会記録 (詫間)
資料 3-2-7-(5)-01_香川高等専門学校学生寮管理運営規則
資料 3-2-7-(5)-02_香川高等専門学校寮務委員会規程

【評価基準 4 - 1】

資料 4-1-1-(1)-01_貸借対照表等の財務諸表 (令和元年-令和 5 年度)
資料 4-1-1-(1)-02_(長期未払金)リース料元利金内訳表
資料 4-1-1-(1)-03_臨時利益/臨時損失 (令和元年～令和 5 年度)
資料 4-1-1-(2)-01_施設配置図_(高松・詫間)
資料 4-1-1-(2)-02_【香川高専】高等専門学校現況表
資料 4-1-1-(3)-01_決算報告書 (令和元年-令和 5 年度)
資料 4-1-1-(4)-01_決算報告書 (令和元年-令和 5 年度)
資料 4-1-2-(1)-01_香川高等専門学校企画運営会議規程
資料 4-1-2-(1)-02_第 03 回企画運営会議議事概要
資料 4-1-2-(1)-03_【R60516-2】企画運営会議 審議事項「当初予算配分(案)」
資料 4-1-2-(1)-04_【R60516】企画運営会議 審議事項「令和 6 年度校長裁量経費配分計画(案)」
資料 4-1-2-(1)-05_【R60516】企画運営会議 審議事項「R7 以降の予算配分方針(案)」
資料 4-1-2-(2)-01_香川高等専門学校教員会議規程
資料 4-1-2-(2)-02_R6 第 3 回高松・詫間キャンパス教員会議議事概要
資料 4-1-3-(1)-01_予算計画・予算配分方針及び学内当初予算配分について
資料 4-1-3-(1)-02_第 03 回企画運営会議議事概要
資料 4-1-3-(1)-03_令和 6 年度当初予算配分額について (通知)
資料 4-1-3-(1)-04_令和 6 年度予算執行状況
資料 4-1-3-(1)-05_教育改善充実費(校長裁量経費)配分計画
資料 4-1-3-(1)-06_予算 WG 議事要旨

資料 4-1-3-(1)-07_予算執行状況

資料 4-1-3-(2)-01_予算計画・予算配分方針及び学内当初予算配分について

資料 4-1-3-(2)-02_第 03 回企画運営会議議事概要

資料 4-1-3-(2)-03_令和 6 年度当初予算配分額について (通知)

資料 4-1-3-(2)-04_【議事概要】令和 6 年度第 1 回環境・施設マネジメント委員会

資料 4-1-3-(2)-05_香川高等専門学校環境・施設マネジメント委員会規程

資料 4-1-3-(2)-06_学内全体のマスタープラン等

資料 4-1-3-(3)-01_令和 6 年度当初予算配分額について (通知)

資料 4-1-4-(1)-01_令和 5 年度財務諸表等

資料 4-1-4-(2)-01_令和 6 年度監査報告事項等一覧、相互監査報告書等

資料 4-1-4-(2)-02_令和 6 年度内部監査報告書等

資料 4-1-4-(2)-03_香川高等専門学校内部会計監査実施規程

【評価基準 4-2】

資料 4-2-1-(1)企画運営会議規程

資料 4-2-1-(2)内部組織規則

資料 4-2-1-(3)内部組織規則

資料 4-2-1-(4)事務組織等に関する規程

資料 4-2-1-(5)令和 6 年度校務分担表 20240613

資料 4-2-1-(6)企画運営会議議事概要

資料 4-2-1-(7)-01_使命 (学校要覧 P3)

資料 4-2-1-(7)-02_目的 (学則)

資料 4-2-1-(7)-03_香川高等専門学校における研究活動の目的、基本方針、目標

資料 4-2-1-(7)-04_香川高等専門学校の事務組織等に関する規程

資料 4-2-1-(7)-05_地域人材開発本部組織図 (学校要覧抜粋)

資料 4-2-1-(7)-06_香川高等専門学校地域人材開発本部規則

資料 4-2-1-(7)-07_香川高等専門学校みらい技術共同教育センター規則

資料 4-2-1-(7)-08_香川高等専門学校地域イノベーションセンター規則

資料 4-2-1-(7)-09_知的財産委員会規程

資料 4-2-1-(7)-10_令和 4 年度みらい技術共同教育センター委員会議事録

資料 4-2-1-(7)-11_令和 6 年度地域イノベーションセンター委員会議事録

資料 4-2-1-(7)-12_知的財産委員会議事要録

資料 4-2-1-(7)-13_研究活動状況に関する外部評価委員会資料

資料 4-2-1-(8)-01_香川高等専門学校における地域貢献活動の目的、基本方針、目標

資料 4-2-1-(8)-02_令和 6 年度校務分担表

資料 4-2-1-(8)-03_香川高等専門学校の事務組織等に関する規程

資料 4-2-1-(8)-04_香川高等専門学校地域人材開発本部規則

資料 4-2-1-(8)-05_香川高等専門学校みらい技術共同教育センター規則

資料 4-2-1-(8)-06_香川高等専門学校地域イノベーションセンター規則

資料 4-2-1-(8)-07_香川高等専門学校公開講座規程

資料 4-2-1-(8)-08_公開講座実施計画書 (依頼書)

資料 4-2-1-(8)-09_R6【AI・みらい】第 1～10 回キャンパス教員会議発言要旨

資料 4-2-1-(8)-10_R6 地域イノベーションセンター委員会活動計画及び報告

資料 4-2-1-(8)-11_R05 外部評価委員会資料

資料 4-2-1-(8)-12_地域人材開発本部規則改正について

資料 4-2-2-(1)-01_香川高等専門学校危機管理規則

資料 4-2-2-(2)-01_危機管理マニュアル

資料 4-2-2-(3)-01_消防訓練実施報告書_高松 (非公表)

資料 4-2-2-(3)-02_消防訓練実施報告書_詫間 (非公表)

資料 4-2-2-(3)-03_防災訓練実施要領 (高松) 令和 6 (非公表)

資料 4-2-2-(3)-04_防災訓練実施要領 (詫間) 令和 6 (非公表)

資料 4-2-2-(3)-05-1_防災訓練実施要領 (高松) 令和 6 (非公表) 0516 【晴天バージョン】避難訓練要領

資料 4-2-2-(3)-05-2_防災訓練実施要領 (高松) 令和 6 (非公表) R6.10.17 避難訓練実施要領 (晴天バージョン)

資料 4-2-2-(3)-06-1_令和 6 年度学生寮防災訓練 (詫間 4 月)

資料 4-2-2-(3)-06-2_令和 6 年度学生寮防災訓練 (詫間 10 月)

資料 4-2-2-(3)-07_令和 6 年度_安否確認訓練実施要領

資料 4-2-3-(1)-01_科研費・外部資金推移 (R2～R6)

資料 4-2-3-(1)-02_科研費公募説明会の学内周知

資料 4-2-3-(1)-03_外部資金獲得に向けた説明会

資料 4-2-3-(1)-04_科研費採択率等向上に向けた取り組みについて

資料 4-2-3-(1)-05_令和 7 年度校長裁量経費配分計画

資料 4-2-3-(1)-06_JST への申請 (受信確認メール)

資料 4-2-3-(1)-07_振興会への寄附基金の呼びかけ

資料 4-2-3-(1)-08_産学官連携コーディネーター雇用

資料 4-2-3-(2)-01_国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則

資料 4-2-3-(2)-02_公的研究費等の適正な運営・管理について

資料 4-2-3-(2)-03_「公的研究費等不正防止計画」

資料 4-2-3-(3)-01_使命 (学校要覧 P3)

資料 4-2-3-(3)-02_目的 (学則)

資料 4-2-3-(3)-03_香川高等専門学校における研究活動の目的、基本方針、目標

資料 4-2-3-(3)-04_香川高等専門学校の事務組織等に関する規程

資料 4-2-3-(3)-05_地域人材開発本部組織図 (学校要覧抜粋)

資料 4-2-3-(3)-06_香川高等専門学校地域人材開発本部規則

資料 4-2-3-(3)-07_香川高等専門学校みらい技術共同教育センター規則

資料 4-2-3-(3)-08_香川高等専門学校地域イノベーションセンター規則

資料 4-2-3-(3)-09_知的財産委員会規程

資料 4-2-3-(3)-10_令和 4 年度みらい技術共同教育センター委員会議事録

資料 4-2-3-(3)-11_令和 6 年度地域イノベーションセンター委員会議事録

資料 4-2-3-(3)-12_知的財産委員会議事要録

資料 4-2-3-(3)-13_研究活動状況に関する外部評価委員会資料

資料 4-2-4-(1)-01_松尾研 20250227_実施内容 (決裁用) ver_2_1

資料 4-2-4-(1)-02_「外部の教育資源・研究資源活用事例トピックス」

資料 4-2-4-(1)-03_香川高専産業技術振興会パンフレット

資料 4-2-4-(1)-04_「連携協定等」

資料 4-2-4-(1)-05_産総研四国センター

資料 4-2-4-(2)-01_令和 6 年度連携計画書

資料 4-2-4-(2)-02_令和 6 年度開講式

資料 4-2-4-(2)-03_みとよロボコン 2024

資料4-2-4(2)-04_三豊市との連携：徳島・香川トモニマルシェ

資料4-2-4(2)-05_三豊市との連携：三豊市・香川高等専門学校連携計画

資料4-2-4(2)-06_香川銀行との連携：連携協力協議会

資料4-2-4(2)-07_こども未来館R6年度の実施計画一覧_確定版

資料4-2-4(2)-08_香川銀行_親子プログラミング教室

資料4-2-4(3)-01_みとよロボコン2024 アンケート (写)

資料4-2-4(3)-02_公開講座アンケート結果 (写)

資料4-2-4(3)-03_公開講座実施状況及び満足度調査 (R6年度)

資料4-2-5(1)-01_独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則

資料4-2-5(1)-02_独立行政法人国立高等専門学校機構主催階層別研修参加状況一覧

資料4-2-5(1)-03_事務職員・技術職員対象のSD・研修等の実施・参加状況

【評価基準4-3】

資料4-3(1)-01 _R6_【香川高専】_様式2-5_ウェブサイト掲載項目チェック表_2023.2改訂_(4)

【評価基準5-1】

資料5-1-1(1)-01_教育課程表

資料5-1-1(1)-02_カリキュラムマップ

資料5-1-1(1)-03_カリキュラムマップ (高松)

資料5-1-1(2)-01_香川高専ホームページ (一般教育科)

資料5-1-1(3)-01_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程

資料5-1-1(4)-01_令和6年度行事予定表

資料5-1-1(5)-01_令和6年度授業時間割表

資料5-1-1(5)-01_令和6年度行事予定表

資料5-1-2(1)-01_校外実習の履修に関する規則

資料5-1-2(1)-02_校外実習シラバス

資料5-1-2(1)-02_校外実習シラバス (高松)

資料5-1-2(1)-04_英語科目シラバス例

資料5-1-2(1)-04_英語科目シラバス例 (高松)

資料5-1-2(1)-05_2024年度香川大学単位互換科目履修案内

資料5-1-2(1)-05_教室掲示 (資格等試験受験料補助申請)

資料5-1-2(1)-05_教室掲示 (資格等試験受験料補助申請) (高松)

資料5-1-2(1)-06_令和6年度教育実践事例報告会資料

資料5-1-2(1)-14_シラバス (AI) CN・ES・IT

資料5-1-2(1)-14_シラバス (プレ研究)

資料5-1-2(1)-16_単位認定状況 (資格取得, 香川大学との単位互換, 校外実習) (詫間) (非公表)

資料5-1-2(1)-16_単位認定状況 (資格取得, 香川大学との単位互換, 校外実習) (高松) (非公表)

資料5-1-2(2)-01_香川高等専門学校以外の教育施設等における学修に関する規程

資料5-1-2(2)-02_2024年度香川大学単位互換科目履修案内

資料5-1-3(1)-01_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス (機械工学科) 機械工学演習 I

資料5-1-3(1)-02_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス (電気情報工学科) 卒業研究

資料5-1-3(1)-03_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス (機械電子工学科) メカトロニクスシステム設計

資料5-1-3(1)-04_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス (建設環境工学科) 創成工学

資料5-1-3(1)-05-1_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス (通信ネットワーク工学科) 通信工学セミナー

資料5-1-3-(1)-05-2_創造力を育む教育を実践している科目の説明（通信ネットワーク工学科）通信工学セミナー

資料5-1-3-(1)-06-1_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス（電子システム工学科）卒業研究

資料5-1-3-(1)-06-2_創造力を育む教育を実践している科目の説明（電子システム工学科）卒業研究

資料5-1-3-(1)-07-1_創造力を育む教育を実践している科目のシラバス（情報工学科）情報工学セミナー

資料5-1-3-(1)-07-2_創造力を育む教育を実践している科目の説明（情報工学科）情報工学セミナー

資料5-1-3-(1)-08_創造力を育む教育実践科目の履修者数

資料5-1-3-(1)-09_各種コンテストの結果（詫間）

資料5-1-3-(1)-10_各種コンテストの結果（高松）

資料5-1-3-(2)-01_校外実習シラバス

資料5-1-3-(2)-01_校外実習シラバス（高松）

資料5-1-3-(2)-02_校外実習報告会資料（非公表）詫間

資料5-1-3-(2)-03-2_単位認定状況（第5回教務委員会資料）

資料5-1-3-(2)-03_単位認定状況（資格取得、香川大学との単位互換、校外実習）（詫間）（非公表）（再掲）

資料5-1-3-(2)-04_校外実習報告会資料高松

【評価基準5-2】

資料5-2-1-(1)-01_講義形態ごとの単位数割合

資料5-2-1-(2)-01_講義形態ごとの単位数割合

資料5-2-1-(2)-02 ICT 利用科目

資料5-2-1-(2)-03_単位認定者数（通信工学実験Ⅱ、社会科学Ⅰ、社会科学Ⅳ、AI-Ⅱ）

資料5-2-1-(2)-04-1_シラバス_教材の工夫（オペレーティングシステム）

資料5-2-1-(2)-04-2_シラバス_教材の工夫（情報機器の活用）

資料5-2-1-(2)-05_シラバス_教材の工夫（通信工学実験Ⅱ）

資料5-2-1-(2)-06_シラバス_フィールド型授業事例（社会科学Ⅰ）

資料5-2-1-(2)-07_シラバス_フィールド型授業事例（社会科学Ⅳ）

資料5-2-1-(2)-08_シラバス_その他（AⅡ）

資料5-2-2-(1)-01_香川高等専門学校Webシラバスサイト

資料5-2-2-(1)-02_Webシラバス入力マニュアル

資料5-2-2-(1)-04_授業自己点検シート

資料5-2-2-(2)-01_シラバス活用の周知（非公表）

資料5-2-2-(2)-02_授業評価アンケート結果例（詫間）

資料5-2-2-(2)-03_R7第3回教務小委員会（詫間）議事要旨 R7.5.13 実施（シラバス活用状況調査）

資料5-2-2-(3)-01_令和6年度行事予定表

資料5-2-2-(3)-02_令和6年度授業時間割表

資料5-2-2-(4)-01_香川高等専門学校学則

資料5-2-2-(4)-02_授業時間表

資料5-2-2-(5)-01_履修単位と学修単位について

資料5-2-2-(6)-01_履修単位と学修単位について

資料5-2-2-(6)-02_学習単位科目シラバス例（文学特論Ⅰ）

資料5-2-2-(6)-02_授業自己点検シート

資料5-2-2-(6)-学習単位科目シラバス例（コンピュータネットワークⅠ）

【評価基準5-3】

資料5-3-1-(2)-01_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程

資料 5-3-1-(2)-03_卒業・進級認定会議資料（諮問）（非公表）
資料 5-3-1-(3)-04_自己点検・相互点検（諮問）
資料 5-3-1-(4)-02_学生便覧（諮問）
資料 5-3-1-(4)-02_学生便覧（高松）
資料 5-3-1-(5)-01_本科生対象年度末アンケート結果（諮問）
資料 5-3-1-(6)-01_香川高等専門学校単位追認試験実施申し合わせ
資料 5-3-1-(6)-02_再試験実施に関する申し合わせ（諮問）
資料 5-3-1-(6)-03_再試験実施に関する申し合わせ（高松）
資料 5-3-1-(7)-01_令和6年度行事予定表
資料 5-3-1-(7)-02_成績確認について周知メール
資料 5-3-1-(8)-02_成績評価資料保存の手引き（諮問）2024
資料 5-3-1-(8)-02_成績評価資料保存の手引き（高松）2024
資料 5-3-1-(8)-04_自己点検・相互点検（諮問）
資料 5-3-1-(8)-04_自己点検・相互点検（高松）
資料 5-3-1-(8)-05_自己点検・相互点検実施結果（諮問）（非公表）
資料 5-3-1-(8)-06_相互点検の概要（高松第4回教務小委員会資料）
資料 5-3-2-(1)-01_香川高等専門学校学則
資料 5-3-2-(2)-01_香川高専ホームページ（三つの方針）
資料 5-3-2-(2)-02_香川高等専門学校学則
資料 5-3-2-(2)-03_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程
資料 5-3-2-(3)-01_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程
資料 5-3-2-(3)-03_卒業・進級認定会議資料（諮問）（非公表）
資料 5-3-2-(4)-02_学生便覧（諮問）該当箇所のみ抜粋
資料 5-3-2-(4)-02_学生便覧（高松）
資料 5-3-2-(5)-01_本科生対象年度末アンケート結果（諮問）

【評価基準6-1】

資料 6-1-1-(1)-01_令和7年度学生募集要項
資料 6-1-1-(1)-02_令和7年度香川高専帰国生特別選抜募集要項
資料 6-1-1-(1)-03_令和7年度香川高専編入学生募集要項
資料 6-1-1-(1)-04_令和7年度入学者選抜(学力)実施要領（非公表）
資料 6-1-1-(1)-05_面接実施要領（R7 本科推薦選抜）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-06_面接実施要領（帰国生特別選抜）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-07_面接実施要領（編入学生）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-08_本科入学者選抜合否判定方法（非公表）
資料 6-1-1-(1)-09_帰国生特別選抜合否判定方法（非公表）
資料 6-1-1-(1)-10_編入学生合否判定方法（非公表）
資料 6-1-1-(1)-11_推薦選抜合否判定資料（様式）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-12_学力選抜合否判定資料（様式）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-13_帰国生特別選抜合否判定資料（様式）（非公表）
資料 6-1-1-(1)-14_令和7年度入学者判定会議議事概要（本科・推薦）（非公表）_Redacted
資料 6-1-1-(1)-15_令和7年度入学者判定会議議事概要（本科・学力）（非公表）_Redacted
資料 6-1-2-(1)_香川高等専門学校入学試験委員会規程
資料 6-1-2-(2)-01_アドミッションポリシーの集計（推薦）

資料6-1-2-(2)-02_アドミッションポリシーの集計(学力)
資料6-1-2-(2)-03_令和5年度の進級・原級者等の状況(高松C)(非公表)
資料6-1-2-(2)-04_令和5年度の進級・原級者等の状況(詫間C)(非公表)
資料6-1-3-(1)_学則
資料6-1-3-(3)_03_R7_【香川高専】_様式2-2_平均入学定員充足率計算表

【評価基準7-1】

資料7-1-1-(1)-01_香川高等専門学校教務委員会規程
資料7-1-1-(1)-02_香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程
資料7-1-1-(2)-01_卒業認定会議議事録(高松)
資料7-1-1-(2)-02_卒業・進級認定会議資料(詫間)(非公表)
資料7-1-1-(3)-01_卒業認定会議議事録(高松)
資料7-1-1-(3)-02_卒業・進級認定会議資料(詫間)(非公表)
資料7-1-2-(1)-01_香川高等専門学校教務委員会規程
資料7-1-2-(1)-02_教務関係アンケート実施一覧(詫間)
資料7-1-2-(2)-01_教務小委員会資料_令和5年度卒業生・修了生アンケート集計結果
資料7-1-2-(2)-01_教務小委員会資料_令和5年度卒業生・修了生アンケート集計結果
資料7-1-2-(2)-02_R5卒業時アンケート結果(高松)
資料7-1-2-(2)-02_教務小委員会資料_R5卒業時アンケート結果1
資料7-1-2-(2)-03_教務小委員会資料_R5卒業時アンケート結果2
資料7-1-2-(3)-01_令和5年度香川高専本科卒業生対象アンケート(2016年3月~2020年3月卒業)
資料7-1-2-(4)-01_企業アンケート集計結果
資料7-1-2-(5)-02_令和5年度第10回教務小委員会議事要録
資料7-1-2-(5)-03_令和6年度第14回教務小委員会議事要録(高松)
資料7-1-2-(5)-03_令和6年度第5回教務小委員会議事要録
資料7-1-3-(1)-01_様式2-4_卒業生進路実績表.xlsx
資料7-1-3-(2)-01_R6第17回教務小委員会(詫間)議事要旨R7.3.13実施
資料7-1-3-(2)-02_R6第17回教務小委員会(詫間)資料6-2
資料7-1-3-(2)-03_R7第1回教務小委員会(詫間)議事要旨R7.4.8実施

【評価基準8-1】

資料8-1-1-(1)_01_教育課程表(電子情報通信工学専攻)
資料8-1-1-(1)-02_教育課程表(創造工学専攻)
資料8-1-2-(1)-01_科目系統図(CN_EIC)
資料8-1-2-(1)-02_科目系統図(ES_EIC)
資料8-1-2-(1)-03_科目系統図(IT_EIC)
資料8-1-2-(1)-04_科目系統図(ME)
資料8-1-2-(1)-05_科目系統図(EC)
資料8-1-2-(1)-06_科目系統図(MS)
資料8-1-2-(1)-07_科目系統図(CV)
資料8-1-3-(1)-01_講義形態ごとの単位数割合
資料8-1-3-(2)-01_教材を工夫している科目のシラバス
資料8-1-3-(2)-02_少人数教育を行っている科目のシラバス
資料8-1-3-(2)-03_対話・討論型授業を行っている科目のシラバス

資料8-1-3-(2)-04_情報機器の活用をしている科目のシラバス

資料8-1-4-(1)-02_教科ポートフォリオ作成・保管の手引き（高松）

資料8-1-4-(1)-02_授業・成績評価保存の手引き（沼間）

資料8-1-5-(1)_香川高等専門学校専攻科の授業科目等に関する規定

資料8-1-5-(3)-01_令和6年度授業評価アンケート集計結果（創造工学専攻）

資料8-1-5-(3)-02_令和6年度授業評価アンケート集計結果（電子情報通信工学専攻）

資料8-1-5-(3)-03_ポートフォリオ確認表（電子情報通信工学専攻）2024年度

資料8-1-5-(4)-01_専攻科学生便覧（沼間）

資料8-1-5-(4)-02_専攻科学生便覧（高松）

資料8-1-5-(5)-01_令和6年度授業評価アンケート集計結果（創造工学専攻）

資料8-1-5-(5)-02_令和6年度授業評価アンケート集計結果（電子情報通信工学専攻）

資料8-1-5-(6)_香川高等専門学校専攻科の授業科目等に関する規定

資料8-1-5-(7)-01_行事予定表（沼間）

資料8-1-5-(7)-02_行事予定表（創造工学専攻）

資料8-1-5-(7)-03_専攻科学生便覧（沼間）

資料8-1-5-(7)-04_専攻科学生便覧（高松）

資料8-1-5-(8)-01_授業・成績評価保存の手引き（沼間）

資料8-1-5-(8)-02_教科ポートフォリオ作成・保管の手引き（高松）

資料8-1-5-(8)-03_令和6年度第2回専攻科委員会議事録

資料8-1-5-(8)-04_令和6年度第2回専攻科委員会資料

資料8-1-6-(1)-01_学則第54条

資料8-1-6-(4)-01_専攻科学生便覧（沼間）

資料8-1-6-(4)-02_専攻科学生便覧（高松）

【評価基準8-2】

資料8-2-1-(1)-01_令和7年度専攻科学生募集要項

資料8-2-1-(1)-02_令和7年度専攻科入学者選抜（推薦）実施要領（非公表）

資料8-2-1-(1)-03_令和7年度専攻科入学者選抜（学力）実施要領（非公表）

資料8-2-1-(1)-04（学力）合格者選抜会議資料（非公表）

資料8-2-1-(1)-05_令和7年度専攻科入学者選抜（推薦）合格者選抜会議議事概要（非公表）_Redacted

資料8-2-1-(1)-06_令和7年度専攻科入学者選抜（学力）合格者選抜会議資料（非公表）

資料8-2-1-(1)-07_令和7年度専攻科入学者選抜（学力）合格者選抜会議議事概要（非公表）_Redacted

資料8-2-1-(1)-08_専攻科合格者選抜方法（非公表）

資料8-2-2-(1)-01_香川高等専門学校専攻科委員会規程

資料8-2-2-(1)-02_専攻科修了認定会議規程

資料8-2-3-(1)_学則

資料8-2-3-(3)-01_03_R7_【香川高専】_様式2-2_平均入学定員充足率計算表

資料8-2-3-(3)-02_専攻科入学者数

資料8-2-3-(4)-01_令和2年度第3回専攻科委員会議事概要（R2.7.13）（非公表）

資料8-2-3-(4)-02_令和3年度第1回専攻科委員会議事概要（R3.04.15）（非公表）

【評価基準8-3】

資料8-3-1-(1)_香川高等専門学校専攻科委員会規程

資料8-3-1-(3)-01_修了率・学位取得状況

資料8-3-2-(1)_香川高等専門学校専攻科委員会規程

資料8-3-2-(2)-01_専攻科生アンケート結果(2025年3月実施)

資料8-3-2-(2)-02_専攻科_修了生アンケート結果(創造工学専攻)

資料8-3-2-(2)-03_専攻科_修了生アンケート結果(電子情報通信工学専攻)

資料8-3-2-(3)-01_令和7年度第1回専攻科委員会議事録

資料8-3-2-(3)-02_令和5年度香川高専専攻科修了生対象アンケート(OB_OG)

資料8-3-2-(4)_令和5年度香川高専進路先関係者意見聴取(5年毎)

資料8-3-3-(1)_様式2-4_修了者進路実績表(資料7-1-3-(1)-01)

資料8-3-4-(1)_修了率・学位取得状況

【評価基準9-1】

資料9-1-(1)-01_みとよロボコン2024アンケート(写)

資料9-1-(1)-02_公開講座アンケート結果(写)

資料9-1-(1)-03_公開講座実施状況及び満足度調査(R6年度)

資料9-1-(1)-04_公開講座HP

資料9-1-(2)-01_川之江北中学校文化祭「ふれ愛地域体験講座」簡単ロボット教室

資料9-1-(2)-02_出前講座_岡田コミュニティ:トピックス詳細_-_香川高等専門学校

資料9-1-(2)-03_令和6年度連携計画書

資料9-1-(2)-04_令和6年度開講式

資料9-1-(2)-05_みとよロボコン2024

資料9-1-(2)-06_三豊市との連携:徳島・香川トモニマルシェ

資料9-1-(2)-07_三豊市との連携:三豊市・香川高等専門学校連携計画

資料9-1-(2)-08_香川銀行との連携:連携協力協議会

資料9-1-(2)-09_こども未来館R6年度の実施計画一覧_確定版

資料9-1-(2)-10_香川銀行_親子プログラミング教室

資料9-1-(3)-01_観音寺子育て支援センター_ほっとはうす萩イベント「おばけ屋敷」_への技術協力

資料9-1-(3)-02_丸亀市東小川児童センター「簡単ロボット教室」

資料9-1-(3)-03_新浜西すこやか子供会「簡単ロボット教室」

資料9-1-(3)-04_仁尾町児童館「プログラミング教室・簡単ロボット教室」

資料9-1-(3)-05_第18回金蔵寺こどもまつり「簡単ロボット教室」

資料9-1-(3)-06_たかまつ認知症フェア「楽しく脳トレ講座」

資料9-1-(3)-07_比地小学校「簡単ロボット教室」

資料9-1-(3)-08_社会基盤メンテナンス教育センターの活動

資料9-1-(3)-09_公開講座の募集・報告

【評価基準10-1】

資料10-1-1_01_Teamsによる国際交流推進体制

資料10-1-1_02_香川高等専門学校国際交流室規程

【評価基準10-2】

資料10-2-1_01_R6年度学生の海外活動実績

資料10-2-1_02_R6年度第5回教員会議資料

資料10-2-1_03_R6年度第9回教員会議資料

資料 10-2-1_04_R6 年度留学生見学旅行実施要項およびHP 掲載トピック

資料 10-2-1_05_R6 年度留学生交流会実施要領およびHP 掲載トピック

【評価基準 1 1 - 1】

資料 11-1-(1)-01_KIS 関係自己点検シート（取りまとめ）（高松）

資料 11-1-(1)-02_KIS 自己点検シート（教務委員会（諮問））20250408

令和7年度香川高等専門学校外部評価委員会 【委員発言要旨】

議題1. 香川高等専門学校の抱える課題と活動状況について

○委員長 ただいまのご説明につきまして何かご質問、ご意見等ございますか。ご発言をお願い申し上げます。順番にご意見賜ればと思います。お願い申し上げます。

○委員 失礼します。私は元々高校の教員で、工業科を持っている高校の校長もしたことがございまして、いろんな目を見た時に、特に今、高校の方がすごく国からも言われておりますのが改革の時期だと。産業界の方が一方で文理融合の人材が欲しいと言いながら、一方で理系人材にもっともっと、ということを言われておまして、もっと理系教育に力を入れなさいとか、技術的なものをもっと養いなさいと。今日も新聞を見ていると、文科省の方が、高校の高専化をもっと進めなさいと。これは産業界からの要望だそうですがそうしていった時に果たしてそれぞれの果たす役割って一体何なんだろうかと、そういうところも考えなくてはいけないと思います。これは何の話をしているかという一番最初の原級率の話なのですが、我々子どもの頃からイメージとしてやっぱり高専は厳しく、ただその厳しさは高専のブランドの裏付けと言いますか、だから高専を出た人材というのはすごく即戦力で、高校出以上に即戦力である、それから大学で理論を学んできた人たちよりもその理論と技術の両方を身に付けているとか、そんなところにつながっていったと思います。確かに最近の傾向として高校でもそうなのですがあまり厳しくすると、寄ってきてくれないという面も痛し痒しと。この辺りの関係性というのはやはりその立ち位置というか高専というのは一体果たす役割や特性というのはいったい何なんだろうというところを考えた上で、いろんな課題に取り組みなければいけないと思いますし、特に生徒募集とか、生徒への教育の在り方、方向性というのはいったい何なんだろうというところを、やっぱり先ほどの課題の一つ一つ、特に先ほどの原級率の話は申しましたけれども、この辺りは考えていく必要があるのかなと思います。それから、女子教員とか女子学生の話で、ちょっと逆に質問なんです、女性に囚われず、高専さんの方の専門の教員の志望者といえますか、なり手は結構いるのでしょうか。というのは高校の工業科の方が非常に今困っておまして、大体、工業高校のOB達が帰ってきて教員になるというパターンと普通科から工学部に行って教員免許を取って帰ってくる人と両方がいて、非常に上手く運営していたのがなかなか難しくなっているというところで、その辺りを聞きたいのですが。

○荒木校長 質問ありがとうございます。高専の教員ですが、一般教育科の数学とか物理とか英語ですと公募した場合に応募があるのですが、専門学科は今ほぼ無理です。全国の高専で専門学科の教員を雇用するのは非常に困難を極めています。それで今のようなことが行われているかと言いますと、数学の教員を雇用してそれを例えば電気情

報工学科ですとか情報工学科に異動していただいて、どうか授業をやっていただく例もあります。これを受けて、高専機構では、博士を持っていなくても各学校に1人だけは産業界で活躍する人を入れてもいいとしました。高専は博士号を持っていないと教授になれないのですが、もし博士号が無い場合は任期付きで雇用するという決まりがあります。それも足かせになっていて、非常に苦慮しているというのが現状です。それから原級率ですが、私も高専出身で高専教員もずっとやっていたので分かるのですが、やはり数学や物理も非常に大事な学問ですが、なかなか抽象的で理解ができない場合があります。一方で、上級生まで進級すると、専門科目を通じて改めて数学を理解するようなチャンスが多々あります。したがって原級率は絶対に少なくしながらとにかく卒業するところまでどうにかして学生たちを引き上げていくようにみんなで取り組んでいるところです。

○委員 ありがとうございます。やっぱり女性率という話でいきますと、これは高校の話ですが工業とか農業もそうですが女性の専門の先生が欲しい。そうしたらもうちょっと女子生徒が増えるかなということのをいつも思っているところで、質問させていただきました。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 私の方からは、やはり経済界として今一番の課題は人手不足という中で、特に理系は本当に人気ありまして、県内企業でも大手でもなかなか採用するのが厳しい状況になっています。そういう中で、8ページにございますように、高専の進路の状況を見てみますと、一つは大学進学は多分以前より増えているというのがございますし、この大学進学もおそらく香大くらいしかございませんから、ほとんど県外に行ってしまうのではないかと思います。しかも就職もこのグラフを見ていましたら、やはり県内就職率というのが令和7年で21%まで下がっているという状況で、先ほどのご説明でも、就職は県内就職4割、40%というお話がございましたが、実際、普通の県立高校であり、私立高校に行った人間の高卒の県内就職率はご案内のとおり9割ございます。それから県内高校を出て県内の大学へ進んだ方の県内就職率も8割ですのでそれはもう高専の場合は非常に優秀なエンジニアとか技術者とかいらっしゃるので、当然大手企業の東京とかへ沢山行くのですが、そのあたり最初に荒木校長様がお話しされた、地域に根差した組織ということでの地産地消、地域にお返しするのをモットーというのは本当に我々経済界あるいは行政もそうですが、やはり人口減の中で香川県は本当に県外に人を取られている状況です。よく知事も言うておりますが大学進学者の83%が今県外に行っております。一旦県外に出るとなかなか帰ってきません。帰ってくるのはその出た人間の3割弱となっております。そのあたりぜひとも校長がおっしゃった、なんとか県内企業にできるだけ親元就職のメリットを十分伝えていただいて、親も特に子どもに対して本当に香川とか四国の地元就職をさせていただきたいということが私からのお願いでございます。この8ページの表の進学率37.3%がありますが、香大に数名行かれています以

外はこの中のおそらく 9 割以上が県外大学へ行かれると思いますのでそのあたりも少しでも地元に残っていただけるようお願い申し上げます。

○荒木校長　やはり高専から就職する場合、BtoB 企業がほとんどです。しかし、マスコミ等で宣伝をしていないですから学生たちは地元にはどのような企業があるか実は知らない。保護者も知らない。です。学校としては、BtoB 企業、地域の皆様方のどんな会社があるのかということ、学生に知ってもらうような取り組みは絶対必要だと考えます。ですので、そういった学生たちが地域を勉強するような機会を設けていながら、学生たちに郷土愛を植え付けたいと思います。もし東京、大阪に就職し、その後地元に戻ってくる場合でも、地元にはこういった企業があるということが分かっていたら帰りやすくなるかと考えます。これからもっと頑張って県内の定着率を高めていきたいと考えます。

○委員長　ありがとうございます。

○委員　中学校の立場ということでお話しさせていただきます。中学校としては、高専の校長先生にも県の校長会にも来ていただいて、高専生の今の様子であるとか、こんなことやってるんだよという話もいただいて、それぞれの地区に持ち帰って、高専という選択肢があるということを知っているところ。ただ、今の中学校の現状から言いますとちょっと様子が変わってきています。公立高校がまず第一だという考えがどんどん薄れているという現状があります。私の時代だと第一希望が県立で、県立高校を受験してダメな場合に私立高校に行く。大変言葉が悪いですが滑り止めはどこか受けるというようなことがごく一般的だったように思います。現在は、いろいろ授業料の負担であるとかいろんな減免措置だとか国の方も考えている。そういったものも影響していると思うのですが、子どもたちは親も行きたいところを選んでいく感じ。県立だから第一希望、私立だから第二希望じゃなくて自分がやりたいところに行くという感じがすごくしています。そういう点では高専の独特な色々な特色があるという取組、先ほども紹介いただきましたが、今の子どもたちはネットには非常に強いので自分で調べたりどんどんしますからそういったところで面白さをどんどん打ち出していく、アピールするということが子どもたちに興味を持ってもらう一番かなと思います。私は今年 60 歳になるのですが、自分が中学生の時に高専に行った同級生もいたのですがその子たちは多分大学まではなかなか難しいけれども工業系で頑張りたいということで高専で学んで、現場で働ける中堅として即戦力になれるっていうようなことが魅力だったと思うのですが、今はちょっとそれとは違ってるのかなと。そして荒木校長先生の話も伺ったところ起業家だとか、起業するとかこういったのが今すごくトレンドというか子どもたちもそういうのに興味がある子がいるので、例えば香川高専でこういう研究をして、実は起業して、一発当てたまでいなくてもいいのですが、そういった事例を紹介すると、自分もやってみたいなという子が出てくるのかなという感じがしています。また、子どもたちも高専というのは実際こんなことをしていて、こんな面白さがあるって、割とコアなファンと言いますか、もっと広くアピールできるような実際の事

例があるとすごくわかりやすくなり、そうすると高専を受けてみようという子どもたちが増えるという気がしています。日本の工業界もあまり先行きが明るい感じがしないので、ぜひこういったところで、かつては工業立国、世界でトップに行っていたところなので、そこを何とか立て直していくということにつながるためにも、そういういいところのアピールをどんどん積極的にやっていただけると中学生も反応していくと思います。以上です。

○委員長 ありがとうございます。校長先生何かご意見ございますか。

○荒木校長 ありがとうございます。今、起業というのがありまして、徳島県に神山まるごと高専ができて、そこは全国からすごい倍率で優秀な子たちが集まっています。今、本校はまるごと高専と非常に深く連携をしているところであります。高専の中にもそういったところがある、特に詫間キャンパスは全国の高専の中でもアントレプレナーシップが進んだ高専で、ある程度知名度もありますので第二の神山とは言いませんが、もう一度全国から詫間キャンパスへ受験生に来てもらうようなそんなことができれば20年後も安泰というふうに考えております。どうもありがとうございます。

○委員長 貴重なご意見ありがとうございます。

○委員 大変僭越なんですが多分この中で一番昔の高専を知っているのは私だと思います。私はこの香川高専高松キャンパスの前身の高松高専を今から58年前に卒業しました。ということでほとんどもう高専の歴史をずっと見てきました。途中で当然就職していますのでその後OB会の会長を10年余り、それから今の産業技術振興会の会長を数年やらせていただいておりますので高専とはいろいろとずっとお付き合いさせていただいております。それとまたこれも全く私事なのですが、私の娘がなんの間違いかこの高松高専の機械工学科を卒業しまして、私はあまり勧めなかったのですが、もともと文系の頭だと思っていましたので。次に、これは私が半分勧めたせいもあって、孫が今ここに在学しているのですよ。ということで親子三代にわたって、高松高専から香川高専にはお世話になって頭が上がらないところです。私自身、珍しい地産地消でございます。電気工学科を40名で入って35名卒業いたしました、そのうちの3人だけ、県庁と四国電力とあと私と、こちらに残りまして、そういう意味ではやっぱり35分の3ですから県内就職率は低いですね。先ほど女性の比率を言いましたが、私は2期生なのですが、1期生は120名中ゼロですね、女性は。2期生が機械80名でゼロ、電気ですと2人出てきてまして、2人ですね。だから1期2期合わせると、240分の2名と非常に寂しい。3期生で確か1人だけ電気にいたと思います。ということで、当時から比べたら相当いろんな点で改善はされ、変わってきているかと思えます。先生で言えば、化学の助手の先生が一人おられただけで他にはおられませんでした。そういういろんなことがありまして。で、うちの孫はあまりしゃべらない方なのですが、まあそれなりに勉強はしているようですが、高専で終わるのかと聞いたら、当然のように大学に行きますよということで、やっぱりそういう傾向なんだなと思います。それこそ、出て行ったらもう帰ってこないのではというような、嫌な予感もしていますけれども。あとは、ちょ

っと本筋からはずれるかと思うのですが、孫から言われているのは、大変難しいと思うのですが、昼給食が無いのが辛い。私の頃は何とか曲りなりにあったのですが、私どもの会社も以前はあまり美味しくないというので700人の内食べているのが300人くらいしかいなかったのです。2年ほど前に2億円ほどかけて給食施設を全部やり直したら一気に300人が500人に増えました。みんな聞く者聞く者昼ご飯がやっぱり美味しいと、会社が半分負担しているから安いのもあるのですがやっぱり昼ご飯は若い人たちにとってのエネルギーになるんだなということではなかなか難しいところだと思いますがぜひご検討をお願いいたします。以上です。好きな事を申し上げました。

○学生主事 食堂の件でいろいろ検討しているのですが、学生が高松キャンパスには800人くらいいるのですが実情、食べていたのが2~30人というレベルでして、その状態だと企業に入札をしてもさすがに賄うことができないだろうということでもうまくいっていません。昔は寮と一緒にこちらの食堂と一括で入札していたのですが寮の方からもできるだけ学生食堂の方はやりたくないという話になりました。なかなか厳しい状態ではあるのですが食堂等がないと非常にデメリットになるので本年度からはパンを週1回木曜日に配膳してもらっている形であったりとか、弁当であるとか、いろんな配達の的なもので改善できないかなと模索しております。近所にうどん屋もありますし、学生も、高校生だったら昼休みに外出禁止で必ず弁当を食べろとか、持つてこいとなるのですが、高専は大学並みなので外に出て行くという学生も多いので、なかなか難しい状況ですが検討はしております。以上です。

○委員長 ありがとうございます。またご検討いただければと考えます。

○委員 お話をいただいた皆様方とはちょっと変わってくるのですが、最終ページに我々当行の連携事業ということで記載させていただいております。先ほどもお話がありましたように、我々銀行としても、地方の地域の銀行として様々な問題を抱えている内の一つが人材不足、人手不足というところに大きな問題がありまして、ここにもありますように学生に県内の企業もどんなことをしているのか知ってもらい、また高専はどんな形でどういうことをやっているのか知ってもらいということで学校紹介をさせていただいております。今まで以上に今後さらに連携を深めていければ、我々としましてもこの辺りのところが地元企業を支えるというふうに側面から支えるということに繋がろうかという思いです。あとひとつ我々の銀行としての取り組みの中でご紹介させていただきませんが、グローバル化への対応ということで、海外に実際に行かれたりということなのですが、我々銀行の営業担当者も、3年前から実施しているのですが、5年間にかけて約300人の営業担当者、全員海外に行かそうということで取り組んでおります。その背景にあるのは、企業が抱えている問題、課題、こういったものをお聞きしても、実際に営業担当者が目で見て、実感というか体感しないとなかなか伝えられない部分があって、それらを今取り組んでいるところで、約半数、6割くらいが今行っているところでもあります。具体的にはインドネシアとかベトナムとかフィリピンとかやはり今県内の企業が海外から来られている具体的によくあがっている各国に行っているという感じで

す。話を聞くと若い担当者、今まで我々が若い時代というのは海外に行くのは当たり前だったのですが、今頃の30歳未満20代の子というのは初めて今回こういった声を頂いて、初めて海外に行きましたという声が非常に多いです。飛行機に乗ったことが無い、パスポートを初めて取りましたということが非常に多くてそういった子たちがお客様のところに行って今海外のこういうものを取り入れたらどうですか、といったところで自分も行っていない。ですから、行ったことによってすごい世界観が変わったという声がありますので、ぜひこういった取り組みの方は継続していただければと思います。いずれにしても香川県、四国の人口減少というか地方の人口減少はまだまだこれからが本当に本番だろうと考えておまして、これらをそういった中での経済力を維持するためには、DXであったりとか、そういったものが全て連動していかないと前に向けて経済力を維持できないのかと考えておしますので、高専の行っている海外研修の取り組みはどんどん継続していただければと思います。すみません。長くなりました。

○委員長 ありがとうございます。何か校長先生ご意見ございますか。

○荒木校長 はい、正に同感でして、日本は今若い人たちを中心に内向きになっているのだと考えます。私はスタートアップの支援みたいなことを一生懸命やってきた人間なのですが日本のスタートアップは日本の国内しか相手していないのですが、やはり海外にどうやってマーケットを広げていくかということが日本のスタートアップにとって大きな課題です。そういった意味も踏まえて若い人たちにチャレンジしてもらおうということを促していきたいと考えています。今年は約120名の学生にいろんな支援をいただきながら海外研修を体験してもらっていますが、帰ってきた学生たちは目つきが変わります。ですので、やはり異文化に触れるということ、日本の中の同調圧力からちょっと脱して、異文化に触れてこんな人たちもいるんだということを若い時に経験してもらうのは非常に貴重な経験だと考えます。これからも学生たちに異文化交流、留学生も高専にはいますのでできる限りそういった留学生と日本人学生と一緒に何かをやるとかそれを通じて海外に興味を持って学生たちが海外に行って経験してくるというようなことを推進していきたいと考えております。以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 本当に香川高専には毎年毎年、多大なご尽力をいただいて採用させていただいております。この場を借りて感謝申し上げます。その中でもやはり人材不足というのが目に見えてきていまして、応募してもなかなか人が集まらないですし、以前に比べますと、だんだん減ってきています。当然少子高齢化等もありますけれども、やはり県外に流出されているというのは前段でおっしゃっていただいたそのとおりでございます。だからその流出をいかに抑えるか。その中で今この現状の課題と活動状況をお聞きして本当に香川高専の頑張りを活動状況を聞かせていただいて実感しました。外部に向けてもYouTubeでの発信であったり、そういった面では四国の中でもトップクラスじゃないかと思えます。その中で企業の立場から思ったところは本科生、専攻科生、大学に編入するという割合ですが、ここの専攻科生とか大学に行くというのは、質問な

のですが希望なのか、高専としてそういうのを目指しているのかというのが一点。あと、私が思うにやはり、環境に対応していかなければいけないということでいけば、専攻科をもう少し充実させて、例えば学科をミックスさせて、さらに社会実装に向けた活躍ができる人材に育つような、新たな科を増やすとかですね、柔軟に科を選定できるような仕組みで専攻科を充実させてみてはどうかと思ったりしました。県外に行かれる方が多いかも分かりませんが是非、四国の、地方の大学との連携をもっと強化し、とにかく四国内でもっと郷土愛を醸成できるよう四国の大学と一緒に取組むイベントをもっと増やせばいいのかなと思いました。その中で少しでも郷土愛が芽生えてくれたら引き込めるチャンスや可能性が出てくるのではないかと思います。就職するのはあくまで本人の希望ですのでなかなか難しいですが、四国を愛す者からすればやはりその中で少しでもこっちに振り向いてもらえるように機会を増やす、四国に触れる機会を増やしていくというような仕組みを考えてみてはどうかと思いました。以上です。

○委員長 校長先生、いかがでしょうか。

○荒木校長 多分大学もそうだと思うのですが、私どもだけで、教員だけで学生を育てる時代はもう終わりました。ですので、いろんな方たち例えばアントレプレナーシップ教育なんて教員もできないので、アウトソーシングという形になります。それから産業の色々なものが変わってきていますので、それも先ほどありましたように、副業参謀みたいな形で外部の先生をやってもらうようなシステムで、どんどん地域の方に入ってきていただいて、一緒に学生を育ててもらおうという、そんなシステムが結構動いてきています。香川県の企業、それから四国にある企業は、どんどん高専の中に入ってきていただいて、一緒に学生とふれあっていただいて、四国の良さですとか地域企業、こんなにいい会社があるんだというを含めて宣伝していただければと考えています。昔、私、地域連携みたいなことをやっているときに、高専は敷居が高いなんて言われて、すごく怒られたことがあったのですが、それはもうまずいというか、もう時代遅れになっていますので、できれば教育プログラムの中に地域企業の皆様方、特に銀行もすごく地域の企業の課題を把握されていますので、そういった課題を使わせていただきながら PBL 教育を展開し、その際に企業の皆様方に講師として入ってきてもらいたいですね。私長岡高専でずっと教員をやっていてその後一関高専で校長をやったのですが、地域と非常に密接に関わるような教育プログラムを作っていました。その際に企業の皆様方にインターシップ等々で面倒見ていただきました。その時に私が言ったのは、いい学生がいたらリクルートしてください。全然構いませんとお伝えしていたら、やっぱりこれ良いんですね。「高専生はすごいな、やっぱり違うよ」なんて言われると、その気になってしまって、その会社に就職するようなことも中にはあるのです。是非そういう機会を学校として作っていければなと思っています。優秀な学生を全部東京大阪に出すのは悔しいというところがありますので、地域から意欲のある中学生を送っていただいて、それを地域にできる限り残っていただく、地域に留まっていただくというようなことをモットーにして、いろんな作戦をやっていければと考えます。その中に地域の皆

様方が学校の中に入らせていただくということが極めて大切ですし、私たちも地域の皆様方のところに学生たちをどんどん送り出すというそういう仕組みを作っていかなければだめだと考えています。ありがとうございます。

○委員長　ありがとうございます。実は高専と香川大学は連携して、ダブルディグリーみたいな形でやっておりますなるべくお互いにウィンウィンになる取り組みをしておりますのでまたご承知いただければと思います。

○委員　私は昔の詫間電波の卒業生でございます。四国を追い出されて東京にずっと就職して帰らないままずっといて68になりますが、死ぬまで東京なんだろうなというところでございます。僕はなんで詫間に行ったかという、船に乗りたかったんです。そういった明確な目標があって、且つ一級通信士とか一級無線技術士とか、そういった資格を取るところだと思っていて、自分の将来に向けた目的にマッチした学校だという、そういった個人個人の目標があったと思います。あと、当時、電波というのは全国に3校しかなかったの、ほとんど地元、仙台と熊本がありましたが、ほとんどみんな東京、大阪で活躍されている先輩が多いです。それから50年経つと世の中かなり変わって、いわゆる地域に根差した学校を作らなければいけないという文科省の目標もあると思います。且つ、四国の中にそういった優秀な方々に活躍してもらおうというのは、おそらく一義あると思うのですね。ただいろいろと世の中を見ているともうちょっと昔のような特殊な技術を持った学校というのを作っていくべきじゃないかと思います。当時の詫間電波というのは東の東大、西の詫間と言われていたものです。そういった意味では優秀な学生が詫間には結構集まったということがありまして、なぜかというやはり特殊な学校で数が少なかったんですね。通信士になるなんて言ったら当時はかなり花形な職業だったらしいのですが、そういった選ばれたところしかないの、そういった学校を作っていたというのが国の方針だと言われていました。今の世の中でいくと、情報技術のところはですね、かなり世の中諸外国にやられちゃっていると感じています。実際に僕も今研究所に勤めてますが、どちらかという、そういったアプリ的なところっていうのはもうほとんどやられないようになっていて、新しい暗号技術とかそういったものを今研究の中で結構やっているのですが、Beyond5Gとかという中で高い無線電波の周波数のですね、テラヘルズの関係の仕事もやっているのですが、世界の中でテラヘルズをやっているのは日本とフランスとドイツくらいなんです。そういった非常に特殊なものを日本が先んじて作っていかなくちゃいけないんじゃないかなと思います。研究所の方は毎年各大学あと高専との間で技術連携のいわゆる共同事業の予算を取っているの、今、高専の方は国からの資金がちょっと落ちていないようなデータもあったので、そこをうまく使うようなミッションを何か作ったらいいんじゃないかなと思います。せっかく専攻科を作っているのだから、そういった学生たちに今の課題をもうちょっとオープンにして、そういう人たちが研究所と一緒に例えばコラボして研究すると、資金が落ちますから、そういった意味では資金面の方は大丈夫じゃないかと思います。ただ、いろいろと審査があるので難しいところがありますが、一つのステップとして高専としてはやっていけるのではないかなというような気がしました。

○委員長 校長先生、何かご意見ございますか。

○荒木校長 電波高専は3つあってですね、すごい優秀な人たちが全国から集まってくるような高専だったのですが、地元には残らないという、そんな高専が電波高専でした。しかし、電波高専から電波という名前が消えてローカルな高専になってしまったんです。ですので、だんだんと学力が、全国から集まって来たのに比べればちょっと落ちてきたというような課題も生まれています。ですので、優秀な先輩方にご指導いただきながら引っ張っていただければと思います。ありがとうございます。

○委員長 研究所とコラボというのもございますので、ご検討いただければと考えます。それでは次に参りたいと考えます。

○委員 はい、高松工業会会長として参加させていただいております。私は当時の高松高専、高松キャンパスの卒業生という立場なのですが、卒業してからちょうど40年になりまして、先ほどの先輩には及びませんけれども、息子も無事に高専に入学しまして卒業できました。まだ孫はいないので、孫はこれから考えていきたいと思うのですが私が入学した時のことをちょっと思い出してまして、まずなんで高専を志望したかという、あまり志の高い話ではないのですが、親から安くて即戦力になるとこへ行くと、要は安く勉強して早く仕事して稼いでこいというようなことを言われました。それで、なんとか電気工学科に入学できまして、一応卒業できました。卒業後は、一応県内の企業に就職ということで今に至っております。当時を振り返ってみたときにこの資料の中でも原級率の話で留年が多いということで、確かに僕らの時も、それなりの人が先輩が降りてきて、いつの間にか同級生になって、いつの間にか後輩になっていかれた方もおられたりしたのですが、この対策ということで、及第点、合格点を60点から50点にしてはどうかということも検討されているということですが、私個人的には、私も決して成績が良かったわけではないのですが、レベルを下げて通過数を増やしていくのはどうかかと、個人的にはそのように感じました。ご一考いただけたらと思います。それと香川県に就職したのですが、その動機も一応長男なんやから香川県におれということで香川県に就職したわけですが、ところが会社に入ってあるきっかけで海外に暫く行くことになりまして6~7年行ってきました。在学中、私は工業系に進んだので英語なんか使うことないだろうということで授業もそれなりに受けてしまいましたが、どれだけその時に後悔したか。月並みですが、やっぱりそういう使う場面が来るんだなということを実感して、そういうことをもっと吸収しておけばよかったなというふうに思いました。高専とはどういう学校なんだろうと思ってまして、冒頭申し上げましたように、早く専門的な知識を勉強して、大学生より早く世に出て即戦力になっていくというのも一つの大きな目的だったのだらうなど。で、就職の幅というか、県外に出る、就職するというようなデータもあります、我々の頃は就職率というのはみんながほぼ就職してまして、学校に行く子、編入する子も数人いましたが、ほぼほぼ就職、確かに県外に出る子が多かったのですが、そういう状況ではありました。それが良い悪いかというのはいろんな議論があると思うのですが今専攻科ができた時にその専攻科ができたことは何なんだろう

と、大学と他の工業系の大学との差は何になっていくのだろうというのがちょっと僕の中ではもやっとしていて、気がしています。先ほど校長先生も仰ってましたが地域とのみんなが学校に入ってきてより工業色専門色を生かしていくんだということであるならそういうことなんだなという気がしたのですが高専とはどういうところなんだらうというのをもう一回考えながら私も応援していきたいなと思った次第です。すみません私は以上です。

○委員長　　ありがとうございました。何か校長先生ご意見ございますか。

○荒木校長　　高専は就職もできるし進学もできるということは長所です。技術者として活躍するなら修士課程まで出なさい、なんて言われていたのですが、今はもう博士まで行っても企業に就職できるようなことも増えています。やっぱり高専のいいところは学生によっては編入学、それから専攻科、それから就職、そういったチョイスがたくさんあるということです。時々工業高校からの編入生がいたり、海外からの留学生が3年生に入ってきたりということで、非常にいろんな経路がたくさん用意されているというところがあります。高専の中に入って来て学生がどのくらい力を付けるか社会とどのくらい親近感を持っているかによって進路が変わってくると考えます。その際に色んな進路を用意しているというのが高専の特色ですが、それが多分社会になかなか伝わってないのだと思います。そのへんをしっかりと広報しながら、やっぱり人間というのは能力がつけば色んな状況が変わってきますのでそれに合わせて色んな進路が取れますよ、という広報も含めてやっていければなと考えます。私はやっぱり高専生を地域に残したいんですね。場合によっては起業なんですね。起業というような形で。地方が優秀な学生にインセンティブに与えるのは自由だと思います。会社に入るのではなくて、自分たちで事業を展開したらどうだ、それを地域が支援していくというようなことで、M&Aで、地域の会社さんに吸収してもらおうということでもいいのかなと考えてやっています。ですので、起業も含めて進学も就職も、多様な選択肢をしっかりと作っていきたいと思います。ありがとうございました。

○委員長　　是非修士博士に、進学希望者がおりましたらお願い申し上げます。

○委員　　先ほどは説明ありがとうございました。まず初めに高専にはうちのこどもも未来館の方でいろんな体験講座をやっていただき、非常に好評でございまして、ありがたく思っております。それと、毎年優秀な人材を市役所の方に採用させていただいております。最近新卒もそうですが、既卒の方が非常に多ございまして、特に技術系の採用はかなりの割合で高専の卒業の方が多いので、今幹部職員も相当増えてきまして一大勢力とまで言えるかどうか分からないのですが、結構大勢になりまして、発言力も高まってきている、そんな状況でございまして。私の方から二つの点で、意見を申し上げたいと思うのですが、一つは技術系、理系に関心を持ってもらうという取り組みで、子どもたちが小さな頃にいろんなことを体験して、いろんなことに興味を持って、それが将来の進路につながるということがあると思います。今、うちの未来館をはじめとしていろんなことをやっておりますので、子どもたちがそういったサイエンスとか理系とか技術系そう

いったものに関心を持ってもらえるような取り組みをこれからもっと充実させていきたいなと思っていますし、そういった取り組みによって、高専へ入りたいという子どもたちも増えてくるのかなと思っています。その上で、今度高専で学んだ後ですが先ほどご意見もありましたが、高松市もそうですが香川県もそうです。やっぱり若者の流出によって定着がはかれないという非常に大きな課題があります。それともう一つは人材の不足特に技術系人材の不足ということで、市も毎年、技術系の人材を募集しておりますが、職種によっては全然応募がないという職種もございます。これは民間の方も同じだと思いますが非常に苦労している状況でございます。そういったこともありますので卒業する際、あるいは一旦県外に出た後の UIJ ターンもそうですが県内、高松市内でもこういった良い企業、職場があるんだということをもっともっと私たちも PR をしていきたいと思っていますので、また高専の方の力添えをいただきたいと思います。もう一つは、地域課題の解決をするために、高松市と高専がもっともっと連携しているんなことをやっていけないかなと思っていますので、こういった課題があるかということも高松市のほうからも提案させていただきますし、それに対してこういった解決策があるということも、提案をいただけたらありがたいかなというふうに思っています。以上です。

○委員長 ありがとうございます。校長先生何かございますか。

○荒木校長 やっぱり地域の課題を学生たちにしっかり取り組んでいただいて、そういうことを通じて地域というものをしっかり認知してもらうようなことをやっていきたいと考えますので、是非連携をよろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 失礼します。冒頭校長先生の方からお言葉もあったのですが、地域に根差した高専ということですが、正に三豊市の場合は詫間キャンパスと地域連携、共生課題も含めてですが取り組んでいるところでございます。と言いますのも多分みらい技術共同教育センターが中心になりまして外部との接触、また子どもたちとの教育というところにも力をいれていただいているというようなところがあるのかなと思っていますし、校長先生の方からもありましたが、アントレプレナーシップというようなところでの取組というのも外部の力も勿論あるのですが、外部資金も含めてそういった連携ができていると実感しております。と言いますのも詫間キャンパスの先生方に地域の中に入ってきて私たちと一緒にやっていく企業と一緒にやっていくそういった取り組みができているからこそこういうつながりになるのかなと思っています。加えて言えば少年少女発明クラブというのが三豊市の場合ございますけれども、この活動に対しても、香川高専が休日の日にも出てきていただきながら指導していただいている。こういったことが進学の方にもつながっているのではないのかなと感じています。行政課題について副市長がおっしゃっていた通りなので、そういったことも含めて、いろいろ連携できればなと思っていますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。校長先生何かございますか。

○荒木校長　三豊市様とは、本当に深く連携させていただいて、支援いただき本当にありがとうございます。本校の教員が、発明教室ですとかロボット教室をやって、その時の子どもたちが、実は多くが詫間キャンパスに進学していただいているのです。それからいろんな支援を通じて、学生たちも、地域の方々に非常にインスパイアされているといいますか、三豊市にいらっしゃるいろんな方たちが支援していただいているということで、非常に嬉しく思っております。今、皆様方がおっしゃられるのは、人材確保だと。そういった意味では、高専というのはいちよとおこがましいのですが、技術系の学生を輩出している教育機関ですので、ぜひ皆様方にもっともっと深く関わっていただければと思います。皆様方の関わり具合が多分県内の就職率ですとかUターンで帰ってくるような学生たちの数に関わってくると考えますので私たちできるだけそのチャンスを用意したいと考えています。その際はぜひ学校の方に足を運んでいただきながら学生たちにいい刺激を与えていただければと思います。どうもありがとうございます。

○委員長　ありがとうございました。今拝聴しておりますと、地域の課題ということを積極的に他機関、特に地元の機関と連携されてそれでいろんな問題を解決すると、PBLを活用したりだとか、その延長上にあるのがアントレプレナーシップ、起業をするとかということかなと、それを通じて人材が地元に着定すればな、というのが多分皆さまの思いかなと思って聞かせてもらいました。ご意見ありがとうございました。

議題2. 令和6年度香川高等専門学校自己点検・評価報告書について

○委員長　ご説明ありがとうございます。これにつきましてはお一人ずつということではなくご意見のある方は挙手のうえご発言いただければと考えますが如何でしょうか。大学も同じ評価を7年毎に受けておまして、非常に面倒な作業が伴うのですが、本学もフィードバック系という、先ほど副校長の先生がおっしゃってましたが、名簿とか整備されているわけではない。なかなか追跡が難しい。どこに就職したかというのも、何年後かすると転職してたりして分からなくなっているということもあってなかなか会社の方のアンケートも難しいということです。ここで大体いろんな学校の評価いわゆる機構の方から、クエスチョンが付いて「2」という評価が付くということを私も経験しております。ただ、一般的ないわゆる教育研究にかかるところで、全て順調あるいは、順調以上、いわゆる優れているところに達しておられるんじゃないかというのが、私が拝見した限りの印象なのですが、委員の先生方、皆さんは何かこれをご覧になって、なかなか見慣れない資料だと思います、大学以外ですと。何かございましたら、あるいはご質問ありましたらご意見いただければと考えますが、いかがでしょうか。

○委員　言葉の確認だけなんですけど、資料の方で18ページで、中ほどに指導補助者に関する記述があって、評価は無いのですが、バーになっています。実施改善状況の方で指導補助者は配置していないということで対象外ということなのですが、項目の1の方で説明というか資料の中にTA教育補助者を活用した補習の実施という文言があったままこれを見たときに何か違うことを指しているのか確認だけさせていただきたいなと思ひまして。

○副校長 教育補助とは違うものを指しております。指導補助者というのは事務職員とか技術職員に指導するときの補助をする方を配置しているかということになります。

○委員 1点、いわゆるトレーサビリティについて例えばある項目が2だとか1だった時に、フォローだとかそういったものをちゃんと残すような仕組みになっていると思うのですが、企業ではこういった評価の例で品質管理 QMS というのがあって、お客様からこの企業は信頼できるかどうかというのを評価するようなシステムが英国のシステムとしてあるのですがそういった内部評価の方も担当した経験があって同じようなことをやっているんじゃないかなと思います。一応トレーサビリティ的にきっちり残して後世に残していくような仕組みがあるのかどうかというのをちょっと聞きたかったです。

○委員長 基本的にこれは必ずあります。それでなぜ1がついているか2がついているかということに関してはエクスキューズといったらちょっと聞こえが悪いですが、どうしてそうなったかという理由を書いて、もう一度、機構の方に提出しなければならない、というのがございます。そういった意味では必ず追跡、トレーサビリティは個人的に確保できていると思うのですが、ただ、それが改善されたかどうかというのはまた別問題ですので、ちょっとエクスキューズの面はきちんとできています。どうしても7年に1回というところで、どうしてもスパンが空いてしまうので、その間に改善していたとしても、また元に戻ったり、さらに進化して良くなることもあるのですが、そういった意味で7年後に再度ご指摘いただいたりした場合は、ご指摘のとおりトレーサビリティできてないだろうと、非常に怒られた記憶がございます。こんな回答でよろしいでしょうか。

○副校長 機関別認証評価は7年毎なのですが、その間に同じ様式でこういった自己点検をして改善ループを回していくというので、自己評価点検を毎年することにしております。毎年改善して行って、7年後に認証評価があってもそれに対応できるようにという体制で進めております。

○委員 あれが7年前だったかどうか私は記憶にないのですが、今言われた通り7年前もここに参加させていただきました。その時は確か私の記憶では、物の見事に上から下まで全部3だったと思うんです。第一回目は。私の意見で、いや、項目によって4もあったり2もあるんじゃないですか、というような、ちょっと辛口の意見を言わせていただいたのですが、その後、資料を送り直させていただいた時には、結構3が中心に振られてましたんで、やっとまともな姿になったかと。本当に最初、物の見事に3が並んでたような、私の記憶で、今回はそういう意味ではですね、いいところはいい、まだまだのところはまだということで、非常によく点検されているのじゃないかなと思いました。

○副校長 令和5年にこの認証評価を受けた時には非常に厳しい意見をいただきました。そこで、点検しなおして、1のところは1と、良いところは4という形で付けるよ

うな形に変わっております。それまで、こういった自己点検がきちんとできていなかったところもあって厳しい評価を受けたので、令和5年の時に指摘を受けてから学内のPDCAがきちんと回るように改善しまして、毎年こういった自己評価・自己点検をする形に変わっております。

○委員長　ありがとうございます。他ご意見ご質問等ございますか。ございませんか。それでは議題につきましてはここまでにさせていただきたいと思っております。議題1、議題2全て終わりましたが、改めて本日の議題につきまして、2つの議題ですが、ご質問・ご意見、それからご指摘・アドバイス等々ございましたら忌憚りの無いご意見をちょうだいしたいと思います。1、2関係なくご意見をいただければと思います。言い忘れた事とか、これだけはもう一度念押ししたいということがございましたらよろあいくお願い申し上げます。いかがでしょうか。

○委員　ちょっと言い漏れたことがあって私もN●Tに勤めていたのですが、定年でもう辞めたのですが、結構インフラの技術者というのがだんだんいなくなっているんですよ。これって危機感を感じていてそういった意味で私が前にいた会社ではいわゆる高専の学生は即戦力で使えるということで結構求人的にも追っかけているところなのですが、なかなか輩出するにあたって大学に進学されている方が多くていわゆる就職できる母数が少ないということで取り合いになっちゃっている。それが非常に悲しいことです。世の中はインフラの人が足りないです。これちょっと危険かなと僕は思っています。N●Tは毎年何十人かは高専卒生を採用しており、それは一時期大卒しか入れなかった時期がありました。僕は高専卒だったのでトップに対して統計も作ってこういう状態だと社長に説明したところ、社長も危機感を持って高専生を来年から入れようと人事の方に働きかけてもらったんです。高専生というのは本当に非常に優秀な人がいると企業は見ています。それに応えていただいているのが今の現状だと思っていて、そういった意味で、高専の先生方にもお願いですが、日本のインフラをきっちり抑えられるような人材をつくって行ってほしいと、僕は思っています。それだけ言い忘れました。以上です。

○委員長　私実は、インフラ系の学科コースに所属しているので耳が痛いんですが、どうでしょうか。建設環境工学科の先生とか関係者の方おられれば、何かございますか。インフラ系というご指摘いただけてますが。

○建設環境工学科長　耳の痛いお話で、でも危機感もあるというのは委員長もご存じだと思うのですが、ただ、この分野というのは非常に多岐にわたるところに人材が求められているということで、一か所に集中して人が就職する、働くということではなくて、どこの大学も高専も同じであろうと思うのですが、そういう意味で我々もそういった現状の中で国内世界問わず、学生さんたちに活躍してほしいということでそれを願って教育しておりますので、その辺はちょっとご理解いただけたらと思います。すみません。ちょっと答えになってないかもしれませんが。

○委員長　ありがとうございます。

○委員　今のインフラって言ったのは、そういった地面とかもあるし、建築もそうだし、機械的なものもだし、電波がらみもそうだし、電気系とかですね。あらゆる物なんですよ、基本的なところで。先日、東京で山手線が2週間連続で電力事故おこしたじゃないですか、あれ何でだと思ってますか。もともと本当に基本的なものが抜けてるんですよ。トレーサビリティもできてなくて、いわゆる過去にそういった失敗があって、そういったものが継承されてない。そういった社会の仕事のさせ方がかなり変わってきていて外国人労働者というのもいろんな人手不足があって夜間の厳しい時間帯に作業させなきゃいけないとそういった環境になってるんです。やっぱりそういったところの技術なんですよ。基本的なところ。それがすごい抜けているような気がしていてちょっと怖いなど、いずれ自分に何が起こるか分からない危機感を覚えながら現在を過ごしているということなんです。

○委員長　校長先生何かありますか。

○荒木校長　私たちからしますと産業界の方たちにすごい多大な期待をいただいているというのは非常に嬉しいですが学生の教育という観点ではちょっと悪い面もありまして全然勉強しなくても会社には就職できるよみたいなところがあるのですね。例えば英語は絶対大事だよ、大きい会社に入るにはTOEICだとかTOEFLの点が必要だよと言ってもですね、「大丈夫絶対入れるから」というような安きに流れる傾向が今の若者にはあります。昔もそうだったのでしょうが昔はそれなりに就職氷河期みたいなものがあったってそういう教訓は学生たちにあったんです。今の高専生は、一括りにはできないのですが、いや大丈夫、あんなに遊んでた先輩でもあの会社に入れたんだから、みたいなのがどうしてもあるんですね。ですので、技術を使った活動の面白さを伝えていただいているのですが「勉強しなくてもうちの会社来れるよ」みたいな甘い言葉は学生には言わないでいただければと思います。しっかり勉強してこないとダメだよ、基礎的なところが大事だからね、そういったアドバイスをしていただけると助かると思います。

○委員長　同感です。非常に良い締め言葉になったかなと思います。時間的にもいい時間になりましたので本日の会議はこれにて終了させていただきたいと思います。司会の不手際で数分伸びてしまいましたこと、お詫び申し上げます。どうもありがとうございました。